

まべりはむし

第27巻 第2号



1999年11月
兵庫昆虫同好会

うたがはら

兵庫県産蝶類分布資料(16)

ーギフチョウ・ウスバシロチョウほか県下のアゲハチョウ科6種の記録ー

(ギフチョウ・ウスバシロチョウ・ミヤマカラスアゲハ・カラスアゲハ・オナガアゲハ・ジャコウアゲハ)

広畑政巳・近藤伸一

はじめに

兵庫県内のギフチョウ、ウスバシロチョウの分布状況を「ひろおび(1989)」で報告してから10年を経過した。この間に多くの調査が実施され、新産地も次々と発表された。今回はギフチョウ、ウスバシロチョウのほか4種を加えたアゲハチョウ科6種について県内の分布状況を報告する。

採集記録はこれまでに発表されたデータに加えて、一部未発表の資料を追加したものである。記載の方法は、県内の記録を各産地1例ずつあげ、気付いたことを付記した。採集記録のうち場所が特定出来ない箇所については、分布図、垂直分布表から省いた。

本稿を草するにあたり、次の方々に貴重な採集記録を提供いただき、産地の状況等をご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

相坂耕作	浅田 卓	石井為久	岩村 巖
故尾崎 勇	木下賢司	木村三郎	佐々木薫
大東康人	高島 昭	竹内 隆	永幡嘉之
平尾栄治	堀 紳二	森口 紀	森下泰治
唐土洋一	八木 弘	山口福男	山下剛史
米村和繁			

1 ギフチョウ

(1) 分布の状況

本州だけに分布し、日本海側は秋田県が北限、太平洋側は東京、神奈川が東限で、西限は山口県になる。この間日本海側はほぼ連続して分布するが、太平洋側は不連続で、分布の空白地帯が多い。県下の分布は図1のように、南東部と北部に広く分布するが、南西部と淡路島には分布しない。

南東部の三田・宝塚市及びその周辺地域、西脇市・多可郡及びその周辺地域、三木・小野・加古川市及びその周辺地域では生息域が広く、個体数も比較的多いが、住宅地に近接した場所がほとんどで、絶滅した個所も多い。神戸市南部、明石市、川西市などでは市街化により消滅した産地がほとんどである。

丹波地域は古い記録が多く個体数も少ない。また近年全くみられなくなった地域が多い。

北部但馬地域ではほぼ全域に広く分布し個体数も比較的多いが、南但馬では分布が局限される。生野町周辺に小面積の生息地が点在しているが個体数は

きわめて少ない。

県南西部掛保川町に現在ギフチョウが生息している。食草であるヒメカンアオイも分布する。この区域にヒメカンアオイが生育していることは古くから知られていたが、ギフチョウは分布していなかったという説がある。この場所は分布域からはずれていることもあり放蝶したもの住み着いたという可能性も否定出来ない。

その他に西播磨地域に古い採取記録が残っているが、その後現在まで再発見されたという報告はなく、明らかに生息域外とおもわれるので参考のため採集記録の最後にあげ、分布図からは除いた。

(2) 生息環境の現況

ギフチョウの食餌植物はカンアオイ類で、県南部にはヒメカンアオイ、ミヤコアオイ、北部但馬地域にはサンインカンアオイ、ウスバサイシン、淡路島にナンカイカンアオイが分布している。

県南部はヒメカンアオイが食草で、丹波地方の一部でミヤコアオイを食草とする個体群もある。但馬地域ではサンインカンアオイを食草とし、扇ノ山付近のブナ帯ではウスバサイシンも食草になっている。西播磨地方のミヤコアオイと淡路島のナンカイカンアオイは食草になっていない。

生息場所の垂直分布は、300m以下がほとんどで、アカマツ林及びコナラ、アベマキなどの落葉樹が優勢な林に生息し、但馬地域の高標高地ではミズナラ、ブナ林に生息する。

ギフチョウが生息するのは、ほとんどが集落に近接した里山とよばれる林で、近年までは燃料や肥料を採取するため、適度な伐採や間伐、枝打ち、下刈り、落ち葉の採集などが定期的に繰り返されていた。その結果、林床に太陽光が届くほど林内は明るく、下層植生は多様で、カンアオイ類のほか吸蜜植物となるツツジ類、スミレ類、ショウジョウバカマなどが生育していた。

近年は生活様式の変化に伴い、燃料、肥料を山から採集する必要がなくなり、林に人の手が入らなくなったため、常緑広葉樹が地表面を覆い、またはササ類がはびこり、ブッシュ化して林床は暗くなり、下層植生も単純化するなど生息環境は極めて悪化している。スギ、ヒノキの植林で生息環境がなくなった地区もある。

開発により生息場所そのものが消滅した地区も多い。小林賢三(桂助)氏によって県下で最初に(1925年)ギフチョウが発見された六甲山登山口の付近は1933年頃までギフチョウが生息していた。現在の神戸大学から一王山にかけての区域で、その数年後には開発の手が伸びて絶滅したようである。そして戦後まもなく進駐軍の六甲ハイツとなり、その後は今の神戸大学の学舎が建ちならんだ。

神戸市垂水区多聞、明石市大蔵谷や朝霧町も1950年代に宅地造成のために生息地は消滅した。故尾崎勇氏は、1958年4月に住宅街を飛翔する個体を目撃されている。

(3) 採集記録

川西市多田 1♂	15-IV-1937	山本広一	4)
" 妙見山上 1♂	27-IV-1981	石川	6)
" 石道 6卵	6-V-1996	法西 浩	14)
猪名川町万善 2卵	11-V-1996	法西 浩	14)
" 上野 1♂1♀	10-IV-1997	法西満子	25)
三田市四ツ塚 8♂(目)	11-IV-1970	尾崎 勇	30)
" 下相野 11卵	29-IV-1997	法西満子	25)
" 虫尾 2♂	4-IV-1977	広畑政巳	
" 上野 14♂4♀	22-IV-1970	岩村 巖	
" 梅ノ木 2♂1♀	6-IV-1974	尾崎 勇	
" 桑原 1♂	14-IV-1985	山本	6)
" 志手原 1♀	20-IV-1986	有田 斉	6)
" 西相野 2♂	20-IV-1986	有田 斉	6)
" 広野下井沢-下内神 1♂1♀	19-IV-1980	杠 隆史	6)
" 大原 6♂2♀	17-IV-1993	松井賢慈	23)
" 山田 2♂	10-IV-1994		9)
" 上ヶ原付近 2exs.	25-IV-1993		9)
" 上野北 3♂	5-IV-1992		9)
" 成谷 4♂	12-IV-1992	山下剛史	24)
" 砥石川 3♂2♀	17-IV-1994	飯島 昌	23)
" 有馬富士山頂 2♂	27-IV-1995		9)
" 藍本 2♂	4-IV-1971	高橋邦明	
" 三輪 3♂	14-IV-1997		10)
" 成田 1♀	10-IV-1998		12)
" 尼寺 4♂	15-IV-1993	松井賢慈	23)
" 桜ヶ丘 5♂2♀	23-IV-1993	青木洋一	23)
宝塚市大原野 1♂	5-IV-1981	広畑政巳	
" 武田尾 1♀	14-IV-1953	吉坂道雄	5)
" 玉瀬 1♀	6-IV-1959	日浦 勇	5)
" 境野 1♀	18-IV-1961	日浦 勇	5)
" 安場池神社 1♀	21-IV-1968	宮武	5)
" 宝山寺 1♂	18-IV-1961	日浦 勇	5)
" 波豆 1♀	18-IV-1961	日浦 勇	5)
" 切畑 1♀	14-IV-1957	山本広一	8)

宝塚市長谷 19卵 11-V-1996 法西 浩 14)
神戸市六甲山山麓(灘区) 1♂ 15-IV-1931

		小林桂助	8)
" 垂水区多聞 1♂	10-IV-1958	小川 進	8)
" 垂水区奥畑 1♂	20-IV-1958	田嶋正幸	32)
" 西区神出町雄岡山 1♂	9-IV-1960	岩村 巖	
" " 雄岡山 1♂	14-IV-1963	尾崎 勇	
" " 押部谷	1959	溝口 修	8)
" " 東布施町-木見川 1♀	10-IV-1956		
		田嶋正幸	29)
" 北区道場町 1♂	11-IV-1954	吉坂道雄	4)
" " 生野 7卵	1-V-1993	山下剛史	
" 千刈水源地			19)
明石市大蔵谷 1♂	-IV-1958	尾崎 勇	
" 朝霧 1♀	15-IV-1953	田嶋正幸	29)
三木市広野	1959	溝口 修	8)
" 上ノ丸-大宮 1♂1♀	19-IV-1934	山田舜亮	8)
" 大村町宮付近(目)	1953	山本広一	8)
" 福井町八幡坂(目)		延原 肇	8)
" 別所町 10♂2♀	17-IV-1993	松崎 隆	23)
" 別所町正法寺 5♂	11-IV-1992	山下剛史	
" " 東追田 22卵	29-IV-1997	山下剛史	

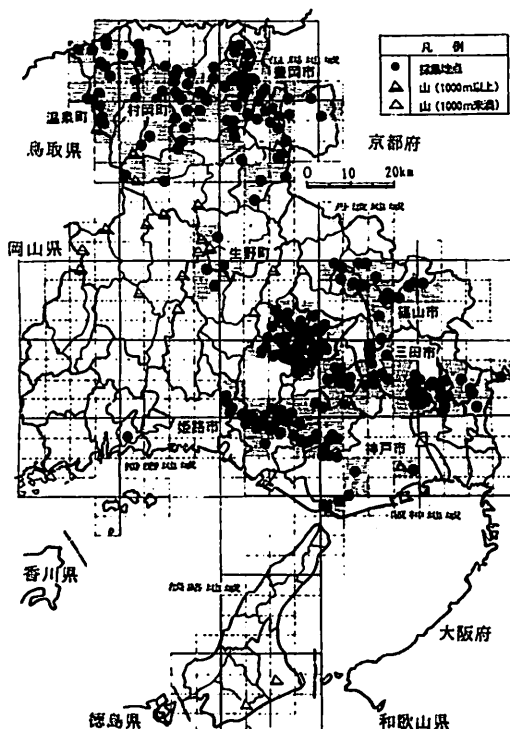


図1 ギフチョウの県内分布

三木市別所町道田	17)	加古川市広尾西	31)
" " 福井 4卵 29-IV-1997 山下剛史		" 山庄	31)
" 志染御坂	17)	" 池寺	31)
" 志染中	17)	" 宮谷	31)
" 細目	17)	" 長楽寺	31)
" 殿畑	17)	" 上原	17)
吉川町畑枝 1♀	21-IV-1995 法西 浩 15)	" 法華口	17)
" 富岡 2♀	29-IV-1995 山下剛史	加西市南網引町 1♂	10-IV-1994 山下剛史
" 新田 1♂	29-IV-1995 山下剛史	" 古法華 1♀	23-IV-1981 高嶋 明
小野市下来住町 1♂	21-IV-1969 尾崎 勇	" 上芥町	
" 万勝寺 1ex. (目)	-1950 山本広一 8)	" 普光寺	
" 市場町 1♀	16-IV-1948 山本広一 8)	社町畑 3♀	24-IV-1995 山下剛史
" 脇本町 1ex.	-1950 山本広一 8)	" 朝光寺 7卵	5-V-1996 法西 浩 14)
" 西脇町 3♂	10-IV-1994 山下剛史	" 三草山東麓 1♀	5-V-1996 法西 浩 14)
" 阿形町 1♂	17-IV-1994 山下剛史	" 下久米 6♂	18-IV-1993 山下剛史
" 来住町 1♂	12-IV-1997 山下剛史	" 上久米 1♀	14-IV-1994 青木洋一 23)
" 福甸町 1♂	12-IV-1997 山下剛史	" 鹿野 数頭	18-IV-1933 山本広一 8)
" 榎山町 2♀	18-IV-1993 松崎 隆 23)	東条町黒谷 1♂	10-IV-1994 山下剛史
" 西本町	-1934 8)	" 椅鹿谷 1♀	17-IV-1994 山下剛史
加古川市志方町城山 2♂ 18-IV-1931 山本広一		" 秋津 16卵	29-IV-1999 山下剛史
" " 城山公園 1♂ 18-IV-1971 竹内 隆		" 長谷	17)
" " 野尻 撮影 15-IV-1999 竹内 隆		滝野町光明寺 2♂1♀	12-IV-1964 岩村 巖
" " 七ツ池 ♂撮影 27-III-1998 竹内 隆		" 五峯山 3♂2♀	20-IV-1969 尾崎 勇
" " 権現池 ♀撮影 5-IV-1998 竹内 隆		" 下滝野 1♂	13-IV-1929 山本広一 8)
" " 別当 1♂1♀ 18-IV-1983 高嶋 明 3)		" 上滝野 1♂	13-IV-1929 山本広一 8)
" " 中才 1♂ 13-IV-1983 高嶋 明 33)		西脇市八坂町 3♂1♀	10-IV-1977 広畑政巳
" " 細工所 5♀ 12-IV-1997 山下剛史		" 出会町 2♂1♀	17-IV-1982 広畑政巳
" " 雑郷 8卵 23-IV-1994 山下剛史		" 合山町 3♂	10-IV-1977 広畑政巳
" 上荘町山条 1♂ 3-IV-1959 中谷貴寿 8)		" 平野町 1♂	10-IV-1977 広畑政巳
" " 見土呂 2♂ 11-IV-1998 山下剛史		" 谷町 2♂	14-IV-1985 広畑政巳
" 平荘町磐 1♂ 12-IV-1997 山下剛史		" 日野町 1♂	17-IV-1969 岩村 巖
" 神野町石守常光寺 1ex. (目) 中谷貴寿 8)		" 寺山	30-III-1959 猪俣・岡本 7)

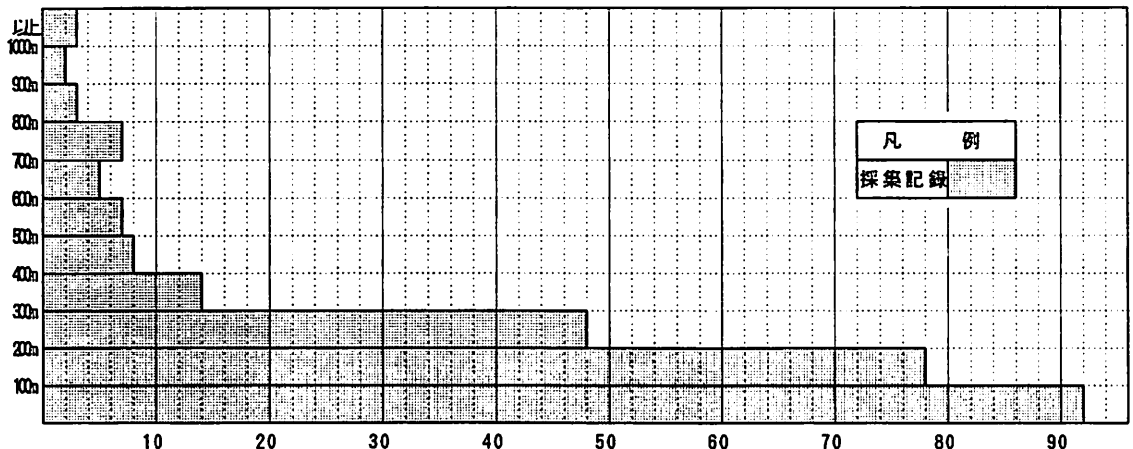


表1 ギフチョウの垂直分布

西脇市八日山	24-IV-1958	猪俣・岡本	7)	豊岡市大門山 終令幼虫	24-IV-1988	近藤伸一	2)
" 金城山			7)	" 中蔭 2♂	3-IV-1989	木下賢司	2)
" 岡崎町 1♀	17-IV-1994		9)	" 下蔭 1♂	1-IV-1990	木下賢司	2)
" 市原町 3♂1♀	11-IV-1990		9)	" 愛宕山 2♂	1-IV-1990	木下賢司	2)
" 落方町 1♀	17-IV-1994		9)	" 中ノ郷市谷 7卵	24-IV-1988	近藤伸一	2)
" 鳴尾山			20)	" 宮井 1♀	18-IV-1980	木下賢司	3)
" 上比延 4♂1♀	14-IV-1994	青木洋一	23)	" 上佐野 2♂	2-IV-1982	木下賢司	3)
" 高島町			8)	" 日撫 1♂	14-IV-1983	木下賢司	3)
" 野村町			8)	" 上鉢山 1♂	14-IV-1983	木下賢司	3)
" 堀町			8)	" 福成寺	18-IV-1980	木下賢司	19)
" 板波町			8)	" 下鶴井 1♀	4-V-1974	足立義弘	19)
" 小坂町			17)	" 正法寺 1♀	11-IV-1971	谷角彦彦	19)
" 武島山			8)	" 中ノ谷 卵	26-IV-1980	木下賢司	19)
" 明楽寺			17)	" 福田 23卵	5-V-1994	三浦舜一	23)
" 比延 6卵	27-IV-1997	近藤伸一		" 柳江 1♀	5-V-1994	宮垣友洋	28)
" 大木町 2♂	4-IV-1990	山下剛史		" 神武山			8)
" 塚口町 37卵	1-V-1998	山下剛史		" 三坂町			17)
" 鹿野町 11卵	5-V-1998	山下剛史		城崎町結 3♂	12-IV-1991	木下賢司	2)
黒田庄町門柳 6♂	11-IV-1975	広畑政巳		" 来日岳紅葉平 1♂	16-IV-1987	木下賢司	2)
" 津万井	1956	猪俣涼一		" 来日岳 29♂2♀	18-IV-1993	森崎 譲	23)
" 岡 2♂	12-IV-1997	品川 恭	21)	" 大師山 4♂	8-IV-1986	木下賢司	2)
" 石原 1♀	24-IV-1988	山下剛史		竹野町矢次山 1♂	17-IV-1987	木下賢司	2)
" 大笹新田			17)	" 床瀬 3♂1♀	18-IV-1980	木下賢司	3)
八千代町仕手原 1♀	19-IV-1975	八木 弘		" 小城 1♀	20-IV-1980	小崎茂樹	19)
" 下野間 4♂1♀	11-IV-1998	山下剛史		" 三原 5♂1♀	5-V-1988	黒井和之	19)
" 遠坂				" 桑野本 1♂	5-V-1988	黒井和之	19)
" 横屋				日高町岩中城山 1♂	10-IV-1991	木下賢司	2)
" 柳山寺				" 進美寺山 5♂	2-IV-1990	木下賢司	2)
中町奥中 2♀	18-IV-1975	広畑政巳		" 稲葉三川山 4♂	24-IV-1985	木下賢司	2)
" 高岸 2♂1♀	18-IV-1975	広畑政巳		" 三川山水口林道 11♂	22-IV-1991	木下賢司	2)
" 曾我井 22♂4♀	23-IV-1996		10)	" 三川山山頂 3♂	21-IV-1992	木下賢司	2)
" 桃屋 2♂	14-IV-1994	青木洋一	23)	" 山宮大岡山 3♂	17-IV-1987	木下賢司	2)
" 安田 1♀	14-IV-1989	鉢谷	24)	" 大岡山山頂 3♂	8-IV-1990	木下賢司	2)
" 安坂			30)	" 蘇武岳名色林道 6♂	20-IV-1991	木下賢司	2)
" 茂利		石井義久		" 藤井 2♂	5-IV-1982	木下賢司	3)
" 東安田 1♂	10-IV-1988	山下剛史		" 東河内 1♀	3-V-1996	三浦舜一	23)
" 徳畑			17)	" 江原 多数確認	2-IV-1990	木下賢司	34)
加美町山野部 1♀	19-IV-1997	山下剛史		" 栃本			17)
姫路市飾東町大釜新 3♂8♀	16-IV-1994	山下剛史		" 阿瀬溪谷			17)
" " 大釜 26卵	17-IV-1995	山下剛史		出石町桐野 1♂	5-IV-1987	木下賢司	2)
" " 清住 1♂羽化	1-V-1995			" 奥小野法沢山 4♂	5-IV-1989	木下賢司	2)
" 豊富町神谷 幼虫	1987	唐土洋一		" 東床ノ尾山 4♂	5-IV-1989	木下賢司	2)
" " 岩屋	-IV-1969	森山克己・山本泉		" 城山 4♂	11-IV-1979	木下賢司	3)
大河内町川上ハタギリ付近	6-V-1964	西村公夫		" 鳥居 3♂	12-IV-1981	福井文嗣	3)
" 長谷			20)	" 出石城址 3♂1♀	9-IV-1990	松井 賢	24)
豊岡市三開山 3♂	10-IV-1986	木下賢司	2)	" 袴狭	1-V-1980	木下賢司	19)
" 妙楽寺 1♂	29-III-1989	木下賢司	2)	" 八坂			8)
" 高屋 5卵	24-IV-1988	近藤伸一		" 平田			17)
" 高屋金山 3♂	30-III-1989	木下賢司	2)	但東町高竜寺 15♂	15-IV-1991	木下賢司	2)

- 但東町坂津 24♂3♀ 17-IV-1994 9)
 " 奥矢根 2♂1♀ 19-IV-1997 10)
 香住町八原 4♂ 14-IV-1994 永幡嘉之 2)
 " 三川山山頂付近 2♂ 24-IV-1979 木下賢司3)
 " 三川 1♀ 20-IV-1982 福井文嗣 3)
 " 余部連台山 福井文嗣 19)
 村岡町兎和野 1♂ 4-V-1987 黒井和之 1)
 " 小城 6♂ 4-V-1987 黒井和之 1)
 " 和佐父 1♂ 4-V-1987 黒井和之 1)
 " 蘇武岳 3-V-1958 村上雅昭 8)
 " 瀬川山 山本義丸 8)
 温泉町後山 1♂ 14-IV-1986 黒井和之 1)
 " 越坂 2♂ 17-IV-1985 黒井和之 1)
 " 蒲生峠 3♂ 20-IV-1986 黒井和之 1)
 " 春来 4♂1 19-IV-1987 黒井和之 1)
 " 檜尾 1♂ 29-IV-1986 黒井和之 1)
 " 海上 1♀ 4-V-1986 黒井和之 1)
 " 霧ヶ滝 1♀ 4-V-1987 佐藤邦夫 2)
 " 扇ノ山上山 2♂ 28-IV-1992 永幡嘉之 2)
 " " 小ツツコ 2♂ 11-IV-1986 木下賢司2)
 " 宮脇 lex. 1-V-1982 黒井和之 3)
 " 竹田 黒井和之 18)
 浜坂町清富 lex.(目) -IV-1989 近藤伸一
 " 九斗山 lex. 29-IV-1987 黒井和之 1)
 " 正法庵 lex. 20-IV-1993 永幡嘉之 2)
 " 蓮台山山頂付近 2♂ 15-IV-1994永幡嘉之 2)
 " 中小屋ワシン谷 1♂ 15-IV-1994永幡嘉之 2)
 " 三成山 1992 山本一幸 18)
 " 観音山 7卵 -IV-1989 近藤伸一
 " 観音山北の海岸(目) 15-IV-1970 尾崎 勇
 " 居組(目) 14-IV-1987 竹内 亮 35)
 " 奥踏寄(目) 14-IV-1987 竹内 亮 35)
 八鹿町妙見 1♀ 22-IV-1987 木下賢司 2)
 " 寄宮 3♂ 5-IV-1982 木下賢司 3)
 " 妙見山 3♂1♀ 28-IV-1996 手塚 浩 23)
 養父町養父市場 1♀ 19-IV-1997 平尾栄治
 大屋町杉が沢高原 1♀ 28-IV-1958 中尾淳三 8)
 関宮町氷ノ山東尾根 1♂ 4-V-1992 永幡嘉之 2)
 生野町栃原 1♀ 29-IV-1984 近藤伸一 2)
 和田山町夜久野高原 19)
 " 糸井溪谷 1♂ 22-IV-1977 木下賢司 3)
 " 竹田 1♂ 10-IV-1991 9)
 " 東谷 2♂ 12-IV-1998 広畑政巳 2)
 " 竹ノ内 8♂7♀ 9-IV-1989 宇山喜士 24)
 朝来町奥田路 1♀ 18-V-1975 八木 弘 30)
 柏原町鐘ヶ坂 1953 越知研一郎 8)
 " 上小倉 卵 1953 渋谷久雄 8)
 " 下小倉 30)
 " 拳田 30)
 柏原町新井 1954 山本義丸 8)
 " 金山 17)
 氷上町城山 1958 山本義丸 8)
 " 大岡山 1958 山下 昌 8)
 春日町野村 4exs. 10-IV-1952 越知研一郎 8)
 " 平松 30)
 " 三尾山 8)
 篠山市小金ヶ岳 5-IV-1958 坂本昌則 8)
 " 三嶽 17)
 " 西ヶ嶽 17)
 " 盃ヶ嶽 17)
 " (丹南町)白髪岳の北東文保寺 奥谷禎一 8)
 " (丹南町)古森 1♀ 5-V-1995 山下剛史
 " (西紀町)上板井 22exs. 12-IV-1958
 坂本昌則 8)
 " (西紀町)下板井 1♂1♀ 18-IV-1983
 松崎 隆 39)
 " (西紀町)宮田 2♂1♀ 22-IV-1989 山下剛史
 " 今田町東庄 1♂ 4-V-1995 山下剛史
 " " 上立杭 2♀ 27-IV-1996 山下剛史
 " " 下立杭 1♀ 27-IV-1996 山下剛史
 " 休場 1♂ 27-IV-1996 山下剛史
- <参考1>
 揖保川町馬場 1985 高柳栄一 37)
- <参考2>
 相生市矢野 1960 八木典也 8)
 香寺町谷山 10-IV-1964 有方久幸 8)
 上郡町金出地
 千種町三室山 溝口 修 8)
- ## 2 ウスバシロチョウ
- ### (1) 分布の状況
- 北海道、本州では東北、中部地方、滋賀・京都から中国山地に至る区域、四国山地周辺(香川県を除く)に分布する。県下の分布は図2のように西播磨から北部但馬地域にかけて広く分布し、個体数も多い。
- 県下で最初に採集されたのは西庄村(上月町)の小日山と西大畠の集落の近辺で1908年に井口宗平氏によってである。その後の調査は停滞していたが、1940-60年代にかけて、県西部から北部にかけて数多くの生息地が見つかり、1970年代後半には80カ所が確認され、1989年の調査では190カ所に及んだ。
- 生息範囲は当初円山川本流と市川本流を結ぶ線の西側とされていたが1967年に東に離れた和田山町

竹ノ内で発見され、1981年には但東町大河内で見つかり、その後隣接した小坂、薬王寺でも確認された。これら東部の個体群は京都府から山越えて分布を拡大してきたものと思われる。

本種は全国的に分布を拡大する傾向にあり、兵庫県でも同じ傾向にあるようで、今回の調査は前回から10年を経過し、産地数は約380カ所と倍増した。新産地のなかには元々生息し、未発見であった場所と、分布を広げ新たな産地となった場所があるようだ。

現在の南限は新たに分布を拡大したと思われる新宮町牧で、今後も南下の推移を見守る必要がある。

神戸市北区に採集記録があるが、その後は採集されておらず、また明らかに分布域からはずれていることから、記録は参考として分布図から除外した。

(2) 生息環境の現況

林縁からそれに続く草地、畑地、果樹園、河川敷など食草のムラサキケマンが生育する明るい環境を好み、集落周辺でとくによく見られる。垂直分布は標高100m以下の低地から1,000m付近の高地まで分布しているが、300-400mの範囲が最大で垂直分布の中心である。香住町の岸田川河口では標高数m付近に見られる。

生息場所が集落に近いこともあり、生息場所が農地改良工事や建造物の造成工事のため消滅した場所も多く個体数は減少傾向にあるが、分布域の拡大傾向もみられる。

(3) 採集記録

大河内町川上 16♂4♀	17-V-1975	広畑政巳	42)
" 上小田 1♂2♀	26-V-1968	尾崎 勇	42)
" 上小田小原 4♂2♀	23-V-1986	堀 紳二	
" 上小田平野 3♂	31-V-1997	近藤伸一	
" 南小田 2♂	26-V-1978	山下剛史	
夢前町熊部 2♂	25-V-1975	広畑政巳	42)
" 佐中 1♂	25-V-1975	広畑政巳	42)
" 雪彦山 4♂5♀	14-V-1959	岩村 巖	42)
" 小畑 7♂	12-V-1985	堀 紳二	
" 坂根 10♂1♀	12-V-1985	堀 紳二	
" 寺河内 1♂	12-V-1985	堀 紳二	
" 河原口 1♂	12-V-1985	堀 紳二	
" 我孫子 1♂	15-V-1985	堀 紳二	
" 馬頭 2♂1♀	15-V-1985	堀 紳二	
" 菅生潤 1♂	14-V-1968	木村三郎	42)
" 河原谷 4♂	8-V-1977	唐土洋一	42)
新宮町下筋原 2♂	5-V-1978	広畑政巳	
" 二柏野 3♂	5-V-1982	広畑政巳	
" 相坂 1♂	5-V-1983	広畑政巳	

新宮町田幸 16♂	8-V-1985	堀 紳二	
" 上筋原 6♂6♀	9-V-1985	堀 紳二	
" 麦子口 3♂1♀	9-V-1985	堀 紳二	
" 福原 5♂	9-V-1985	堀 紳二	
" 牧 1♀	24-V-1998	相坂耕作	
山崎町土万 2♂	5-V-1983	広畑政巳	
" 蔦沢 6♂	31-V-1968	岩村 巖	62)
" 八重谷峠 6♂	11-V-1985	堀 紳二	
" 大沢 3♂1♀	17-V-1985	堀 紳二	
" 宮の元 1♂	22-V-1985	堀 紳二	
" 野々住原 14♂2♀	22-V-1985	堀 紳二	
" 小茅野 1♂	22-V-1985	堀 紳二	
" 塩山 5♂1♀	5-V-1977	尾崎 勇	62)
" 上ノ下 2♂4♀	23-V-1975	岩村 巖	62)
" 上ノ上 2♂	22-V-1985	堀 紳二	
" 段 12♂1♀	5-V-1977	尾崎 勇	62)
" 小河内 1♂	19-V-1985	近藤伸一	
" 上月 1ex.	2-V-1994	大東康人	
" 宮の北 1♀	20-V-1995	大東康人	
安富町関 2♂	21-V-1985	堀 紳二	
" 大河川中流 2♂	21-V-1985	堀 紳二	
" 栃原	21-V-1985	堀 紳二	
一宮町東公文 3♂	18-V-1980	広畑政巳	

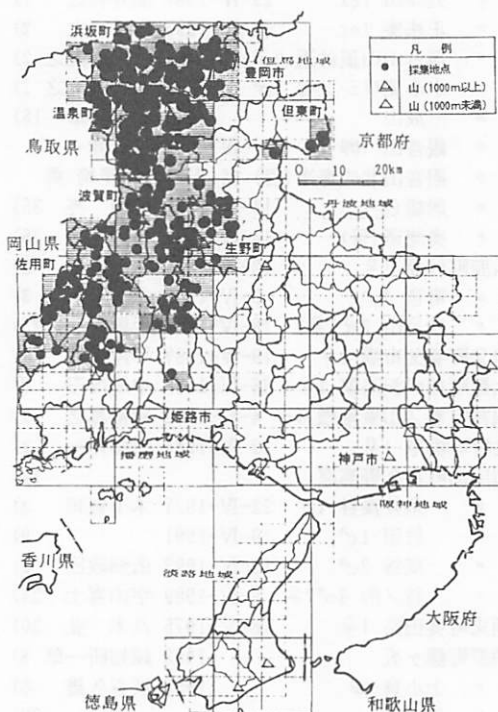


図2 ウシバシロチョウの県内分布

一宮町横山 1♂	18-V-1980	広畑政巳	千種町荒尾川上流 1♂	1-VI-1996	大東康人
" 倉床 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 宝の木 4♂1♀	23-V-1985	堀 紳二
" 富士野 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 川井 3♂1♀	23-V-1985	堀 紳二
" 公文 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 西河内中野 1♂1♀	23-V-1985	堀 紳二
" 小原 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 天児屋 1♂1♀	23-V-1985	堀 紳二
" 志倉 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 河内中村 3♂1♀	23-V-1985	堀 紳二
" 阿舍利 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 三室高原口 3♂	23-V-1985	堀 紳二
" 千町 4♂1♀	21-V-1967	米村和繁	" 内海 1♂	26-V-1985	近藤伸一
" 上岸田 7♂1♀	20-V-1968	岩村 巖	" 黒土 1♂	2-VI-1985	近藤伸一
" 福知 4♂6♀	18-V-1975	岩村 巖	" 千種 2♂	19-V-1974	花岡 正 42)
" 西公文 3♂1♀	27-V-1975	岩村 巖	" 七野	18-V-1996	佐香正明 58)
" 深河谷 25♂1♀	13-V-1974	尾崎 勇	" 鷹の巣 4♂10♀	確認 2-VI-1985	近藤伸一
" 東河内福田 1♂	27-V-1985	堀 紳二	上月町稗田 2♂2♀	16-V-1985	堀 紳二
" 白口 1♂	27-V-1985	堀 紳二	" 樟坂 2♂1♀	17-V-1985	堀 紳二
" 池垣内 1♂	27-V-1985	堀 紳二	" 桜山 2♂	17-V-1985	堀 紳二
" 草木 2♂3♀	27-V-1985	堀 紳二	" 上秋里 2♂1♀	9-V-1971	木村三郎 42)
" 下千町 10♂2♀	27-V-1985	堀 紳二	" 西大畠	21-V-1968	山本広一 45)
" 上千町 3♂1♀	27-V-1985	堀 紳二	" 円光寺 1♂	26-V-1986	山下剛史
" 西公文和田 1♂	27-V-1985	堀 紳二	三日月町三原 1♂	5-V-1983	広畑政巳
" 溝谷 4♂2♀	27-V-1985	堀 紳二	" 小原 1♂	9-V-1985	堀 紳二
" 桃屋 5♂2♀	27-V-1985	堀 紳二	" 湯浅 26♂	9-V-1985	堀 紳二
" 黒原奥組 3♂5♀	27-V-1985	堀 紳二	" 中村 2♂	9-V-1985	堀 紳二
" 桑垣 6♂2♀	27-V-1985	堀 紳二	" 鎌倉 13♂	9-V-1985	堀 紳二
" 百千家萬 1♂	8-V-1994	広畑政巳 41)	" 春哉 1♂	9-V-1985	堀 紳二
" 福中 2♂	17-V-1992	小野克己 56)	" 金山 1♂	9-V-1985	堀 紳二
" 黒原 1♂	6-VI-1982	近藤伸一	" 弦谷 2♂	9-V-1985	堀 紳二
" 高野 1♂	23-V-1940	山本広一 46)	" 三日月 9♂	1-V-1975	仲村 42)
波賀町音水 2♂	21-V-1976	広畑政巳	" 本郷		46)
" 育木 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 添谷		46)
" 赤西 2♂1♀	15-V-1983	広畑政巳	南光町船越 3♂	5-V-1983	広畑政巳
" 戸倉 1♂	21-V-1967	唐土洋一	" 河崎 1♂	5-V-1983	広畑政巳
" 道谷 10♂1♀	27-V-1975	岩村 巖	" 下三河 1♂	5-V-1983	広畑政巳
" 育木前地 1♂	30-V-1985	堀 紳二	" 門前 6♂2♀	11-V-1985	堀 紳二
" 下水谷 1♂1♀	30-V-1985	堀 紳二	" 名目津和 4♂	11-V-1985	堀 紳二
" 日ノ原 10♂4♀	30-V-1985	堀 紳二	" 育木 6♂2♀	11-V-1985	堀 紳二
" 引原 2♂	30-V-1985	堀 紳二	" 西下野 1♂	11-V-1985	堀 紳二
" 平桑 5♂	8-V-1980	近藤伸一	" 上三河	18-V-1996	佐香正明 58)
" 石亀 6♂	30-V-1985	堀 紳二	" 中三河 11♂1♀	26-V-1986	山下剛史
" 堀 1♂	30-V-1985	堀 紳二	佐用町大畠 2♂	5-V-1978	広畑政巳
" 若杉峠 4♂	30-V-1985	堀 紳二	" 下石井 1♂	18-V-1980	広畑政巳
" 鹿伏 2♂	18-V-1980	近藤伸一	" 上石井 1♂	18-V-1980	広畑政巳
" 戸倉スキ一場 1♀	1-VI-1995	大東康人	" 下村 1♂	18-V-1980	広畑政巳
" 藤無山西山麓 1♂	23-VI-1996	大東康人	" 奥海 1♂	18-V-1980	広畑政巳
" 宮内 1♂1♀	1-VI-1996	大東康人	" 大畠王子 2♂	17-V-1985	堀 紳二
千種町奥西山 2♂	18-V-1980	広畑政巳	" 中山 7♂	17-V-1985	堀 紳二
" 河内 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 末包小中山 7♂3♀	17-V-1985	堀 紳二
" 西河内 2♂	18-V-1980	広畑政巳	" 末包本村 5♂	17-V-1985	堀 紳二
" 岩野辺 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 淀 9♂1♀	17-V-1985	堀 紳二
" 荒尾 1♂	18-V-1980	広畑政巳	" 亀ヶ谷 2♂1♀	17-V-1985	堀 紳二

佐用町奥海下村 1♂	18-V-1985	堀 紳二	
" 奥海桑村 10♂1♀	18-V-1985	堀 紳二	
" 奥海奥土居 1♂	18-V-1985	堀 紳二	
" 若州 6♂	18-V-1985	堀 紳二	
" 水根羽蔵 6♂	18-V-1985	堀 紳二	
" 高野 1♂	18-V-1985	堀 紳二	
" 海内上土居 1♂	18-V-1985	堀 紳二	
" 蓑畑 1♀	18-V-1985	堀 紳二	
" 延吉 1♂	8-V-1994	広畑政巳	41)
" 日名倉山			45)
豊岡市伊賀谷 6♂	12-V-1990	木下賢司	2)
" 目坂名佐森林公園 3♂	25-V-1993		
		木下賢司	2)
" 辻 1♂	8-VI-1982	木下賢司	3)
" 江野 2♂	15-V-1983	前平照雄	3)
" 福成寺			50)
城崎町来日 1♀	4-VI-1975	木下賢司	3)
" 螢光寺 1♂	11-V-1982	前平照雄	3)
竹野町桑野本 2♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)
" 川南谷 11♂3♀	5-VI-1988	近藤伸一	2)
" 東大谷 2♂	23-V-1981	木下賢司	3)
" 門谷 4♂	25-V-1981	木下賢司	3)
" 二つ家 2♂	25-V-1981	木下賢司	3)
" 三原 5♂	25-V-1981	木下賢司	3)
" 河内 1♂	25-V-1981	木下賢司	3)
" 床瀬 1♂	7-VI-1982	木下賢司	3)
" 下村 3♂	7-VI-1982	木下賢司	3)
" 森本 1♂	7-VI-1982	木下賢司	3)
" 坊岡 2♂	7-VI-1982	木下賢司	3)
" 鬼神谷 1♂	7-VI-1982	木下賢司	3)
" 金原	25-V-1981	木下賢司	49)
" 下塚	7-V-1982	木下賢司	

竹野町須ノ谷	25-V-1981	木下賢司	
" 銅山	7-V-1982	木下賢司	
日高町石井 2♂	31-V-1988	近藤伸一	2)
" 田ノ口 2♂	31-V-1988	近藤伸一	2)
" 久田谷 5♂2♀	7-V-1990	木下賢司	2)
" 東河内 4♂	13-V-1990	木下賢司	2)
" 栃本 11♂1♀	13-V-1990	木下賢司	2)
" 金屋 9♂2♀	21-V-1990	木下賢司	2)
" 山ノ宮 7♂	20-V-1991	木下賢司	2)
" 頃垣 1♂(撮)	24-V-1995	木下賢司	2)
" 神鍋山 1♀(撮)	24-V-1995	木下賢司	2)
" 阿瀬溪谷 1♀	11-VI-1962	木下賢司	3)
" 金谷 9♂	17-V-1965	木下賢司	3)
" 若林鹿村 2♂	27-V-1980	木下賢司	3)
" 栗栖野 5♂	23-V-1981	木下賢司	3)
" 名色 2♂1♀	4-VI-1984	前平照雄	3)
" 稲葉	31-V-1981	足立・谷角	51)
" 万劫	31-V-1981	足立・谷角	51)
" 万場	31-V-1981	足立・谷角	51)
" 金山	11-VI-1962	木下賢司	
" 水口	23~31-V-1981	足立・谷角	51)
" 山田	23~31-V-1981	足立・谷角	51)
但東町大河内 10♂	16-V-1990	木下賢司	2)
" 小坂	8-V-1994	小野克巳	57)
" 薬王寺	8-V-1994	小野克巳	57)
香住町鎧 7♂	7-V-1987	木下賢司	2)
" 畑 2♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)
" 大槻 3♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)
" 土生 3♂	25-V-1981	木下賢司	3)
" 三川 6♂	21-V-1981	木下賢司	3)
" 本見塚 1♂	10-VI-1982	木下賢司	3)
" 守柄 1♂	10-VI-1982	木下賢司	3)

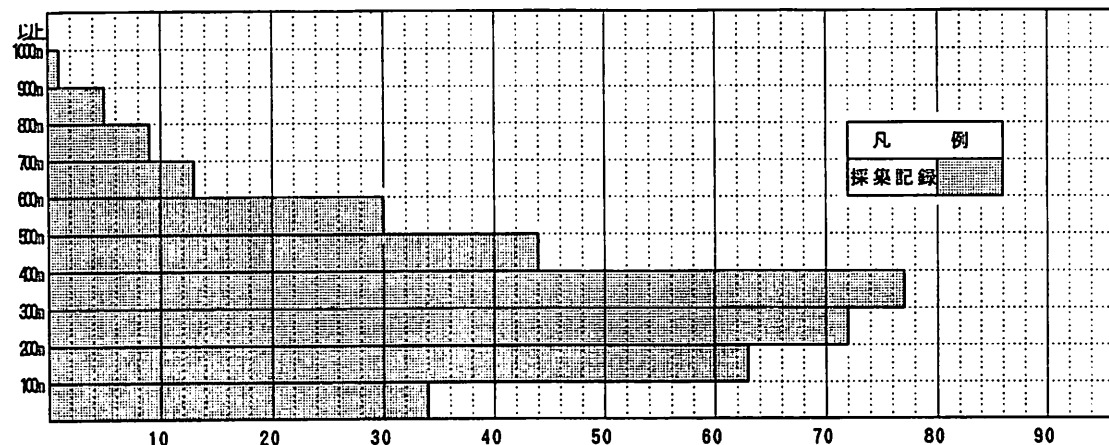


表2 ウスバシロチョウの垂直分布

香住町大谷 2♂	10-VI-1982	木下賢司	3)	美方町実山 1♂	24-V-1991	永幡嘉之	2)
" 浅井 2♂	10-VI-1982	木下賢司	3)	" 野間谷 3♂	24-V-1991	永幡嘉之	2)
" 小原 3♂1♀	10-VI-1982	木下賢司	3)	" 広井 2♂	19-V-1991	永幡嘉之	2)
" 三谷 1♂	10-VI-1982	木下賢司	3)	" 美方高原			46)
" 八原 3♂	10-VI-1982	木下賢司	3)	" 城山 (目)	24-V-1991	永幡嘉之	54)
" 三川山麓 3♂	15-V-1983	前平照雄	3)	" 奥鉢スキー場 5♂	23-V-1993	黒井和之	53)
" 余部	15-V-1993	黒井和之	53)	" 備 1♂	23-V-1993	黒井和之	53)
村岡町高坂 5♂	16-V-1993	黒井和之	53)	" 大照林道 2♂	23-V-1993	黒井和之	53)
" 森脇 5♂	16-V-1993	黒井和之	53)	" 神場 3♂	29-V-1993	黒井和之	53)
" 福岡 2♂	16-V-1993	黒井和之	53)	" 一二峠 1♂	29-V-1993	黒井和之	53)
" 池ヶ平 7♂	16-V-1993	黒井和之	53)	温泉町出合 (目)	26-VI-1998	黒井和之	59)
" 祖岡 2♂	16-V-1993	黒井和之	53)	" 多子 3exs. (目)	19-V-1991	黒井和之	59)
" 祖岡大池 3♂	16-V-1993	黒井和之	53)	" 前 (目)	8-V-1994	永幡嘉之	52)
" 神坂 1♂	29-V-1993	黒井和之	53)	" 竹田 1♂	23-V-1993	黒井和之	53)
" 村岡 1♂	29-V-1993	黒井和之	53)	" 切畑 5♂	23-V-1993	黒井和之	53)
" 入江 1ex. (目)	29-IV-1998	黒井和之	59)	" 宮脇 3♂	23-V-1993	黒井和之	53)
" 丸味 3♂1♀	19-V-1991	永幡嘉之	2)	" 湯谷 (目)	19-V-1991	永幡嘉之	54)
" 長板 1♂	19-V-1991	永幡嘉之	2)	" 春木 (目)	19-V-1991	永幡嘉之	54)
" 相田 5♂	10-V-1995	木下賢司	2)	" 青下		奥谷慎一	46)
" 兎和野 1♀	28-V-1992	永幡嘉之	2)	" 上山 1ex.	30-V-1984	黒井和之	3)
" 大笹 2♂	4-VI-1988	近藤伸一	2)	" 後山 2♂	14-V-1991	木下賢司	2)
" 和佐父 7♂2♀	4-VI-1988	近藤伸一	2)	" 金屋口 5♂	10-V-1991	永幡嘉之	2)
" 小城 5♂	29-V-1994	永幡嘉之	2)	" 井土 3♂	10-V-1991	永幡嘉之	2)
" 用野 3♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)	" 八日市 3♂	10-V-1991	永幡嘉之	2)
" 味取 1♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)	" 仁連寺 1♂1♀	21-V-1992	永幡嘉之	2)
" 萩山 1♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)	" 熊谷栃谷口 1♂	21-V-1992	永幡嘉之	2)
" 三川山 3♂	4-VI-1981	木下賢司	3)	" 伊角 1♂	21-V-1992	永幡嘉之	2)
" 澁川平			50)	" 檜尾 7♂	21-V-1992	永幡嘉之	2)
" 山田 多数 (目)	7-VI-1988	近藤伸一		" 丹土 4♂	11-V-1992	永幡嘉之	2)
" 境 1♂1♀	10-VI-1982	木下賢司	3)	" 鮎尾 2♂1♀	23-V-1994	永幡嘉之	2)
" 熊波 (目)	8-V-1994	永幡嘉之	52)	" 千谷 2♂	12-V-1992	永幡嘉之	2)
" 作山 (目)	3-VI-1994	永幡嘉之	52)	" 内山 2♂	12-V-1992	永幡嘉之	2)
" 大谷	4-VI-1981	木下賢司		" 越坂 4♂	22-V-1992	永幡嘉之	2)
" 宮神 多数 (目)	7-VI-1988	近藤伸一		" 田中 3♂	23-V-1994	永幡嘉之	2)
" 高津 多数 (目)	5-VI-1988	近藤伸一		" 花口 5♂	29-V-1992	永幡嘉之	2)
美方町石寺 1♂4♀	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 霧ヶ滝 3♂	1-VI-1992	永幡嘉之	2)
" 神水 2♂1♀	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 肥前畑 5♂	2-VI-1992	永幡嘉之	2)
" 大谷 4♂1♀	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 菅原 3♂	24-V-1978	福井文嗣	3)
" 久須部 4♂	7-VI-1988	近藤伸一		" 海上 3♂	23-V-1980	福井文嗣	3)
" 忠宮 3♂	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 湯 2ex. (目)	4-V-1989	黒井和之	60)
" 貫田 2♂	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 高山 1♂	26-V-1991	黒井和之	60)
" 東垣 3♂2♀	19-V-1991	永幡嘉之	2)	浜坂町奥緒寄 2♂	9-V-1994	永幡嘉之	2)
" 鍛冶屋 3♂1♀	24-V-1991	永幡嘉之	2)	" 久谷桃観峠 5♂1♀	14-V-1994	永幡嘉之	2)
" 佐坊 2♂	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 三尾間塩 2♂1♀	14-V-1994	永幡嘉之	2)
" 秋岡 2♂	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 田君 2♀	16-V-1994	永幡嘉之	2)
" 熱田 3♂	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 用土 2♂	10-V-1991	永幡嘉之	2)
" 新屋 4♂	28-V-1988	近藤伸一	2)	" 正法庵 1♂	18-V-1991	永幡嘉之	2)
" 茅野 1♂	24-V-1991	永幡嘉之	2)	" 藤尾鹿間谷 2♂	20-V-1994	永幡嘉之	2)
" 平野 1♂1♀	24-V-1991	永幡嘉之	2)	" 大味 2♂	18-V-1991	永幡嘉之	2)

浜坂町中小屋 9♂3♀	14-V-1994	永幡嘉之	2)
" 大庵 8♂	14-V-1994	永幡嘉之	2)
" 境 1♂1♀	18-V-1991	永幡嘉之	2)
" 池ヶ平 10♂	14-V-1991	木下賢司	2)
" 久斗山 12♂	14-V-1991	木下賢司	2)
" 本谷 3♂1♀	25-V-1992	永幡嘉之	2)
" 和田 lex. (目)	16-V-1994	永幡嘉之	52)
" 藤尾 (目)	18-V-1991	永幡嘉之	54)
" 久斗山西ノ谷 4♂4♀	20-V-1994		
		永幡嘉之	52)
" 久斗山宮谷 10♂3♀	20-V-1994		
		永幡嘉之	52)
" 久斗山イモジ谷 7♂1♀	20-V-1994		
		永幡嘉之	52)
生野町栃原 1♂	30-V-1986	堀 紳二	
和田山町糸井(竹ノ内) 2♂	12-VI-1985	木下賢司	2)
朝来町神子畑 1♂	21-V-1961	岩村 巖	
" 田路 1♂	21-V-1967	米村和繁	
" 奥田路 10♂2♀	21-V-1967	尾崎 勇	
" 神子畑鍬鉄橋 5♂1♀	28-V-1987	堀 紳二	
" 神子畑中島 1♀	28-V-1987	堀 紳二	
" 神子畑原ヶ谷 1♂	28-V-1987	堀 紳二	
" 笠杉峠 6♂	28-V-1987	堀 紳二	
" 佐中安定 1♂1♀	28-V-1987	堀 紳二	
" 佐中 10♂3♀	28-V-1987	堀 紳二	
" 平野 1♂	16-V-1987	木下賢司	2)
" 上八代 4♂	9-V-1990	木下賢司	2)
" 八代 1♀	13-V-1982	木下賢司	3)
" 口田路 2♂	13-V-1983	木下賢司	3)
" 新井			45)
八鹿町加瀬尾 5♂	20-V-1990	木下賢司	2)
" 妙見 1♂	19-VI-1995	木下賢司	2)
" 石原 1♂	12-V-1982	木下賢司	3)
" 日畑 5♂	12-V-1982	木下賢司	3)
養父町唐川 3♂	28-V-1987	堀 紳二	
" カカナベ 6♂	16-V-1987	木下賢司	2)
" 建屋 1♂	16-V-1987	木下賢司	2)
" 井ノ坪 1♂	9-V-1990	木下賢司	2)
" 長野 3♂	13-V-1982	木下賢司	3)
" 餅耕地 3♂	13-V-1982	木下賢司	3)
大屋町若杉 3♂	11-V-1975	広畑政巳	
" 横行 15♂	11-V-1974	尾崎 勇	
" 明延 3♂1♀	30-V-1987	堀 紳二	
" 筏 2♂	30-V-1987	堀 紳二	
" 大谷 2♂	18-V-1980	近藤伸一	2)
" 栗ノ下 1♂	11-V-1982	木下賢司	3)
" 中間 1♂	11-V-1982	木下賢司	3)
関宮町関宮 lex. (目)	3-V-1998	黒井和之	59)
" 外野 4♂7♀	20-V-1962	岩村 巖	

関宮町川原場 1♂	31-V-1987	堀 紳二	
" 草出 6♂2♀	23-V-1981	近藤伸一	
" 丹戸 8♂3♀	31-V-1987	堀 紳二	
" 鉢伏高原 5♂	31-V-1987	堀 紳二	
" 大久保 14♂2♀	23-V-1981	近藤伸一	
" 福定 8♂1♀	31-V-1987	堀 紳二	
" 布滝付近 3♂	31-V-1987	堀 紳二	
" 鵜縄 5♂3♀	31-V-1987	堀 紳二	
" 葛畑 15♂2♀	23-V-1981	近藤伸一	
" 別宮 14♂2♀	23-V-1981	近藤伸一	
" 森 3♂3♀	31-V-1987	堀 紳二	
" 杉ヶ沢高原 2♂1♀	31-V-1987	堀 紳二	
" 氷ノ山山麓スキー 1♀	11-VI-1980	小崎 3)	

<参考>

神戸市北区有馬町 1♂	19-V-1979	61)
" " 箕谷		61)
" " 淡河町		61)

3 ミヤマカラスアゲハ

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州に分布する。県下の分布の状況は図3のように全域に広く分布し、西播磨の山間部から但馬地域にかけては個体数も多い。分布図の空白地は現在のところ採集記録がない部分で、必ずしも分布の空白地とは言えない。山奥の蝶というイメージはあるが、神戸市内の市街地でも採集されたこともあり、淡路島でも個体数は極めて少ないものの採集記録がある。

(2) 生息環境の現況

山間部の溪流沿い、林道、林縁部から農地に続く空間などでよく見かけ、山間部では集落内でも普通に見られ、集落内のキハダやカラスザンショウからも毎年発生する。

垂直分布をみると1,000m付近から100m以下の低地まで分布しているが、500m以下付近から分布地が多くなり、300m以下で最大となっている。100m以下の低地は産地数は多いが個体数は少ない。

(3) 採集記録

川西市大和団地 1♀	28-VI-1983	樺原俊嗣	6)
" 新滝 1♂	14-VII-1979	品川 恭	6)
" 黒川 1♂	4-V-1985	木村雅英	6)
" 笹部 lex.	10-VII-1972	富士正生	73)
猪名川町上阿古谷 1♂	14-V-1985	春藤	6)
" 大野山 1♂	20-V-1976	長沼二郎	6)

三田市乙原 2♀	12-VII-1995	法西 浩	79)
" 青野溪谷 1♀	30-VII-1995	法西 浩	79)
" 山田字大道 1♀	27-VII-1994	法西 浩	79)
西宮市上ヶ原 1♀	10-IX-1997	法西 浩	79)
芦屋市城山 1♂	2-V-1983	西 隆彦	92)
神戸市東灘区岡本 1♂	初旬-IX-1969	蜂谷	101)
" 東灘区御影町	1960	東 正雄	102)
" 灘区六甲学院構内 7♂	2~6-V-1974		77)
" 灘区摩耶山頂 1ex. (目)	8-VI-1956		
	吉坂道雄	82)	
" 中央区諏訪山町 1♀	2-VIII-1998	山口福男	
" 兵庫区鳥原貯水池 1♀	19-IX-1965		
	高橋寿郎	82)	
" 兵庫区和田岬 2♀	11-IX-1963	人見 勝	82)
" 兵庫区新開地2丁目 1♀	22-VIII-1977	蜂谷	101)
" 須磨区須磨浦 1♂	6-IX-1974	蜂谷	101)
" 須磨区一ノ谷町 1♂	3-IX-1980	山口福男	
" 須磨区鉢伏山 (目)	-IX-1968	田中利典	102)
" 垂水区舞子の裏山 2♀	8月下旬~15-IX-1980	加藤昌広	101)
" 北区帝釈山 4♂	22-VIII-1999	平尾英治	
" 北区丹生山 1♂	6-V-1995	近藤伸一	
" 北区山田町市立教育植物園	27-VI-1964		102)
" 北区山田町藍那 1♂	19-V-1996		
	青木陽一	78)	
" 北区山田町下谷上 1♀	11-IX-1979		
	高橋寿郎	102)	
" 北区道場 1♂1♀	27-IV-1970	岡村八郎	
" 北区泉台 2♂	30-IV-1991	山下剛史	
" 北区鈴蘭台 1♀	3-IX-1980	川本	101)
三木市大村 1♀	24-IX-1984	永幡嘉之	97)
" 志染町三津田 1♂	5-V-1975	三木 進	104)
加古川市鶴林寺		墨谷 健	
" 志方町宮山 1♀	-VIII-1968	竹内 隆	
西脇市西林寺 1♀	18-VIII-1958	猪俣涼一	7)
" 市役所付近 1♂	16-VIII-1960	岡本 清	81)
加美町千ヶ峰	14-V-1961		81)
" 笠形山 1♂	5-VI-1960	林 成光	81)
姫路市書写山 1♀ (目)	12-VIII-1958	岩村 巖	82)
福崎町山崎 1♂ (目)	14-VIII-1988	石井為久	
" 七種山 2♂ (目)	7-VII-1984	石井為久	
市川町上牛尾半瀬 1♂1♀	13-IX-1981	広畑政巳	
神崎町笠形山山頂 1♂	7-VI-1959	小西池英	7)
大河内町川上 1♂	24-V-1987	近藤伸一	
" 砥峰 1♂	9-VIII-1981	広畑政巳	
" 大川原 1♂	25-V-1975	石井為久	
" 長谷 1♂	17-VI-1974	石井為久	
" 淵 1♂ (目)	15-V-1975	石井為久	
" 上小田			82)

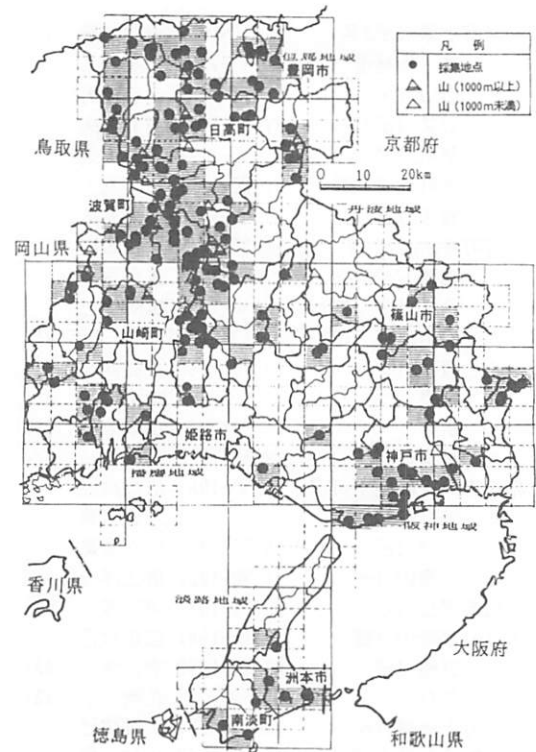


図3 ミヤマカラスアゲハの県内分布

大河内町峰山高原	24-VIII-1996	竹内 隆
夢前町山之内 2♂	25-V-1975	広畑政巳
" 佐中 1♂	23-V-1981	広畑政巳
" 熊部 1♂1♀	3-V-1985	広畑政巳
" 河原口 1♂	14-V-1967	岩村 巖
" 坂根 雪彦山麓 2♂	10-V-1964	大東康人
" 雪彦山 1♂	25-V-1975	森下泰治
" 河原谷 2♂ (目)	4-VIII-1996	石井為久
" 馬ノ頭 2♂2♀ (目)	14-V-1989	石井為久
" 小畑 1♀ (目)	28-V-1975	石井為久
" 筋野 1♂1♀	27-V-1973	木村三郎
" 菅生潤 2♂3♀	-V-1968	木村三郎
安富町関 4♂1♀	1-VI-1975	木村三郎
龍野市龍野公園 1♀羽化	30-VII-1978	唐土洋一 93)
御津町室津 1♀	15-IX-1982	唐土洋一 93)
山崎町薦沢 13♂2♀	23-V-1975	岩村 巖
" 志文川 2♂	13-V-1984	墨谷 健 86)
" 土万 1♂	19-V-1985	近藤伸一
" 大沢 1♂	9-V-1981	高島 昭
" 上ノ上 2♂	1-VI-1975	木村三郎
一宮町上岸田 1♂	13-V-1984	広畑政巳
" 福知 1♂	18-V-1975	岩村 巖

一宮町小原 6♂2♀	27-V-1975	岩村 巖	豊岡市妙楽寺 1♂	1-IX-1980	木下賢司	3)
" 樵ノ木林道 1♂	29-V-1999	大東康人	城崎町来日岳山頂 3♂	7-V-1987	木下賢司	2)
" 白口 1♀	5-VI-1989	山口福男	" 来日林道 1♂	17-VII-1990	木下賢司	2)
" 公文 1♂(目)	31-V-1992	石井為久	" 飯谷 1♂	20-V-1988	近藤伸一	
" 草木 2♂1♀(目)	31-V-1992	石井為久	" 来日 1♂	27-V-1988	近藤伸一	
" 千町 2♂(目)	1-IX-1991	石井為久	竹野町椒岩内 1♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)
" 倉床 2♂(目)	19-VII-1989	石井為久	" 河南谷 2♂1♀	5-VI-1988	近藤伸一	2)
波賀町音水 2♂1♀	11-V-1975	広畑政巳	" 床瀬 1♂	8-VII-1987	山口福男	
" 赤西 7♂3♀	17-V-1975	広畑政巳	日高町九斗 1♂	20-V-1991	木下賢司	2)
" 八丈 1♂(撮)	15-V-1999	広畑政巳	" 上ノ郷 1♂	12-VII-1995	木下賢司	2)
" 東山高原 1♂羽化	24-V-1982	木村三郎 94)	" 鶴岡 1♂(撮)	3-IX-1995	木下賢司	2)
" 道谷 1♂	15-VII-1985	近藤伸一	" 大岡山 1♂	17-VII-1990	木下賢司	2)
" 日原		山本広一 82)	" 稲葉三川山 4♂	31-VII-1985	木下賢司	2)
" 引原		山本広一 82)	" 阿瀬溪谷 4♂	19-VII-1990	木下賢司	2)
" 平桑 1♂	18-V-1980	近藤伸一	" 蘇武岳名色林道 1♂	18-VII-1990	木下賢司	2)
相生市矢野町能下 1♂	31-V-1981	広畑政巳	" 金山 1♂	3-VII-1977	木下賢司	3)
" 矢野町二ツ木		米村和繁	" 金谷 2♂	24-V-1982	前平照雄	3)
" 小河 1♂	5-V-1975	佐々木薫	出石町奥山溪谷 1♂	15-IX-1995		71)
" 三濃山 1♂	1-VII-1957	唐土洋一	" 桐野 1♀	9-V-1977	木下賢司	3)
赤穂市周世 1♀	30-IX-1981	唐土洋一 91)	香住町大谷 1♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)
上郡町宇野山 1蛹	8-III-1981	広畑政巳	" 小原		高橋 匡	82)
" 野桑 1♂	20-VII-1980	唐土洋一 93)	" 畑 1♂	5-VI-1988	近藤伸一	2)
" 黒石		花岡 正 93)	" 三川権現			82)
上月町上秋里 1♂	5-V-1981	広畑政巳	" 香住 1♂	15-IX-1972	山口福男	
佐用町日名倉山 2♂	16-VII-1967	岩村 巖	村岡町村岡 1♀	31-VII-1963	小崎茂樹	3)
" 青木 1♂(目)	18-V-1976	石井為久	" 鉢北高原 1♀	16-VII-1983	福井文嗣	3)
" 上石井 1♂	27-V-1973	木村三郎	" 耀山 1♂	9-VIII-1987	近藤伸一	
" 佐用坂 1♂	27-V-1973	木村三郎	" 長瀬 1♂	18-VII-1988	近藤伸一	
豊岡市栄町 1♂	15-IX-1995	71)	美方町秋岡 1♂	24-V-1991	永幡嘉之	2)
" 河梨峠 1♂	9-VII-1990	木下賢司 2)	" 小代溪谷 4♂	24-V-1992	川元 裕	2)
" 高屋 2♂	8-V-1975	木下賢司 3)	温泉町田中一哲原	26-VII-1959	大槻典男	82)
" 三開山 1♂	15-VI-1978	木下賢司 3)	" 後山 1♂	10-V-1991	永幡嘉之	2)

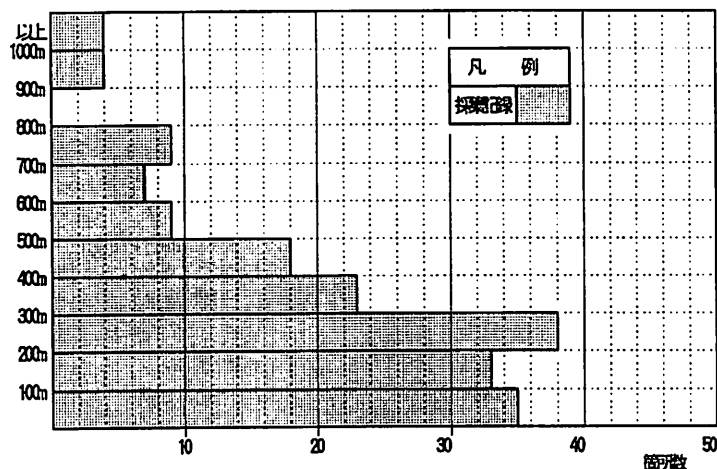


表 3 ミヤマカラスアゲハの垂直分布

温泉町内山 1♂	29-V-1992	永幡嘉之	2)
" 扇ノ山畑ケ平 2♂	7-VII-1987	木下賢司	2)
" 岸田花口 1♂	22-V-1992	永幡嘉之	2)
" 霧ヶ滝 1♂	13-VII-1988	近藤伸一	
浜坂町城山 2♂	6-VII-1995	川端	2)
" 高末 1♂	21-IX-1988	近藤伸一	2)
" 大味 2♂	18-V-1991	永幡嘉之	2)
" 中小屋 1♂	14-V-1994	永幡嘉之	2)
" 境 1♂	6-IX-1988	近藤伸一	2)
生野町生野峠 1♂	4-VII-1972	山口福男	
" 栃原	15-V-1975	石井為久	
和田山町糸井溪谷 1♂	15-IX-1996		71)
" 竹ノ内 1♂1♀	16-V-1978	木下賢司	3)
" 夜久野高原 2♂1♀	27-V-1964	木村三郎	
朝来町神子畑 1♀	18-V-1975	尾崎 勇	
" 奥田路 2♂	18-V-1975	佐々木薫	
" 佐中 1♂	21-VII-1997	近藤伸一	
養父町建屋 1♂	16-V-1981	木下賢司	2)
八鹿町妙見 1♂	2-IX-1970	山口福男	
大屋町佐治見			82)
" 藤無山山頂 2♂	5-VI-1979	福井丈嗣	3)
" 若杉 2♂1♀	11-V-1975	広畑政巳	
" 中間 1♀	11-V-1975	尾崎 勇	
" 栗ノ下 1♂	13-V-1975	佐々木薫	
" 横行 1♂	13-V-1975	佐々木薫	
" 筏 1♂	8-V-1957	中尾淳三	82)
" 大谷 1♂	18-V-1980	近藤伸一	2)
" 杉ヶ沢 1♂	23-V-1984	前平照雄	3)
" 明延 2♂	24-V-1964	木村三郎	
関宮町大久保 1♂	12-VII-1937	山本広一	82)
" 福定 1♀	25-VII-1986	永幡嘉之	2)
" 川原場		永幡嘉之	23)?
" 小路頃		永幡嘉之	23)?
" 鉢伏山小代越 1♀	28-VI-1992	永幡嘉之	2)
" 氷ノ山東尾根 1♂	26-V-1964	木下賢司	3)
" 中瀬 1♂	7-VII-1981	墨谷 健	86)
篠山市三岳	-1960	鈴木清明	82)
" 盃ヶ岳	-1960	鈴木清明	82)
" (城東町)日置			82)
" (今田町)四斗谷 1♀	29-V-1994		71)
" (今田町)上立杭 1♂	19-V-1996		71)
" (山南町)谷川石倉寺	-VI-1964		82)
" (丹南町)住山 3♂	29-V-1994		71)
洲本市由良町 1♀	15-IX-1973	釜場幸一	67)
" 安乎町 1♂	23-IX-1973	堀田 久	67)
" 柏原山		菊地宏美	72)
" 鮎屋ダム		菊地宏美	72)
三原町成相 1♂	26-VII-1990	菊地宏美	65)
南淡町阿万 1♀	11-V-1997	藤平 明	64)

南淡町灘 1♂ 14-V-1969 藤平 明 70)

4 カラスアゲハ

(1) 分布の状況

北海道から南西諸島まで全国に広く分布するが、沖縄本島周辺(近縁の別種オキナワカラスアゲハが分布)及び宮古諸島には分布しない。

県下の分布状況は図4のようにほぼ県下全域に広く分布し個体数も多い。淡路島、家島にも分布する。

(2) 生息環境の現況

カラスザンショウ、コクサギ、キハダなど食草の巾が広く、森林内、溪流沿い、林道、集落内と様々な環境でみられ、市街地で発生することもあり分布域は極めて広い。垂直分布は1,000m以上の高地から100m以下の低地まで分布しているが、ミヤマカラスアゲハより低地を好む傾向があり、200m以下付近が垂直分布の中心となっている。

(3) 採集記録

川西市妙見新滝 5♂	18-VII-1968	杠 隆史	73)
" 妙見山 1♂	1-VI-1972	沼口憲治	73)
" 一の鳥居 1♂	26-VII-1962	桑原英夫	73)
" 多田 1♂	22-VII-1976	勢山保範	73)
" 笹部 1ex.	29-VII-1970	富士正生	73)
" 鼓ヶ滝 1♀	25-VII-1966	浜田 稔	73)
" 多田院	23-VII-1966	小坂利明	75)
" 東畦野(一の鳥居)	8-V-1966	小坂利明	75)
" 黒川新滝道 2♀	1-VI-1997		71)
" 黒川 1♂	2-VII-1997	近藤伸一	
" 一庫 1♂	1-VII-1956	山口福男	
猪名川町木間生 1♂	18-VII-1971	桑原英夫	73)
" 上阿古谷 1ex.	1-VII-1971	赤山	73)
" 大野山 1♂	14-V-1994	鍋島五郎	74)
" 仁頂寺	15-VI-1980	森地重博	75)
三田市乙原 1♂	12-VII-1995		71)
宝塚市清荒神 1♂	16-VII-1970	加藤錫也	99)
" 僧川	5-V-1975		105)
西宮市上ヶ原 1♀	18-IX-1997		71)
芦屋市城山 1♂	2-V-1983	西 隆彦	92)
" 高座の滝 1♂	10-V-1996	近藤伸一	
神戸市六甲山 1♀	24-VII-1953	吉坂道雄	
" 灘区伯母野山付近 1♂	30-IV-1969		77)
" 中央区諏訪山町 1♀	26-IX-1997	山口福男	
" 長田区雲雀ヶ丘 1♂	1-VII-1998	近藤伸一	
" 須磨区鉢伏山 1♂	10-VII-1956	吉坂道雄	
" " 鉄拐山 1♂	1-VI-1965	三木 進	103)

神戸市須磨区一ノ谷町 5♂ 1-IX-1980 山口福男	
" " 神の谷 1♀ 11-V-1999 山口福男	
" " 鉢伏山 1♀ 1-VIII-1959 尾崎 勇	
" " 垂水区舞子陵 1♂ 1-VI-1976 山下剛史	
" " 西舞子 12卵 26-VII-1999 浅田 卓	
" " 西区岩岡町 1♀ 17-IX-1993 近藤伸一	
" " 太山寺 1♂ 23-VII-1985 森本 輝 86)	
" " 榎谷町寺谷 2♂ 10-VIII-1997 山下剛史	
" " 伊川谷町上脇 1♀ 10-VIII-1997 山下剛史	
" " 北区丹生山 2♂ 6-V-1995 近藤伸一	
" " 帝釈山 1♀ 2-VIII-1997 平尾英治	
" " 山田町山ノ街 1♂ 4-VI-1961 尾崎 勇	
" " 山田町藍那 1♀ 23-VI-1974 山口福男	
" " 有野町五社 4♂ 29-IV-1961 尾崎 勇	
明石市大蔵谷東山西山 1♀ 21-IX-1963 大東康人	
三木市正法寺 3♂ 26-V-1988 永幡嘉之 97)	
" " 大村 1♂ 2-VIII-1984 永幡嘉之 97)	
" " 志染 -VII-1977 小倉 滋 104)	
" " 別所朝日丘 -VII-1977 小倉 滋 104)	
" " 上の丸 -VII-1977 小倉 滋 104)	
加古川市志方町氷室 1♀ 23-V-1999 近藤伸一	
" " 志方町高御位山 16-VI-1996 竹内 隆	
" " 志方町城山 1♂ 23-IX-1996 竹内 隆	
" " 飯盛山 5-VII-1998 竹内 隆	
高砂市阿弥陀町鹿島山 11-VII-1999 竹内 隆	
西脇市出会 21-IX-1997 竹内 隆	
加美町三国岳 2-V-1959	
姫路市大堤 1♂ 1-VI-1980 広畑政巳	
" " 広峰 1♂ 9-V-1981 広畑政巳	
" " 青山 1♂ 23-V-1981 広畑政巳	
" " 峰相山 2♂ 18-IX-1983 広畑政巳	
" " 広畑区下野 1♂ 16-IX-1979 大前	
" " 勝原区京見山 1♂ 25-VIII-1980 松本勝由	
" " 書写山 1♂ 25-V-1975 木村三郎	
" " 増位山 1♂ 25-V-1975 木村三郎	
" " 打越 12-VIII-1998 竹内 隆	
香寺町暮坂峠 1♂ 27-V-1973 木村三郎	
福崎町山崎 2♂(目) 26-V-1981 石井為久	
" " 七種山 1♀(目) 6-VI-1982 石井為久	
" " 新 1♀(目) 9-IX-1979 石井為久	
市川町下牛尾河内 1♂ 10-V-1975 広畑政巳	
" " 上牛尾半瀬 1♂ 14-VIII-1980 広畑政巳	
" " 上田中 1♂ 3-VI-1984 広畑政巳	
" " 上牛尾岩戸 1♂ 14-VIII-1980 広畑政巳	
" " 上牛尾寺家 1♂ 26-VII-1998 広畑政巳	
" " 谷 2♂(目) 22-V-1994 石井為久	
神崎町笠形山 4-V-1998 竹内 隆	
大河内町川上 1♂ 3-VI-1984 広畑政巳	
" " 砥峰 1♂ 9-VIII-1981 広畑政巳	

大河内町上小田 1♂ 26-V-1968 尾崎 勇	
夢前町熊部 1♂ 3-V-1985 広畑政巳	
" " 雪彦山 2♂ 29-IV-1998 平尾栄治	
" " 河原口 5♂ 14-V-1967 岩村 巖	
" " 山之内 1♂ 25-V-1975 森下泰治	
" " 馬頭 1♂ 17-V-1977 森下泰治	
" " 小畑 3♂ 27-V-1973 木村三郎	
" " 高長 1♂ 26-V-1974 木村三郎	
" " 護持 1♂ -V-1967 木村三郎	
" " 文殿 1♂ 27-V-1973 木村三郎	
" " 前ノ庄 1♂ 26-V-1974 木村三郎	
" " 寺 1♂ -V-1967 木村三郎	
" " 筋野 1♂ 27-V-1973 木村三郎	
" " 玉田 1♂ 18-VII-1976 木村三郎	
" " 菅生淵 1♂2♀ -V-1967 木村三郎	
" " 置塩城址 15-VII-1999 竹内 隆	
家島町本島 10-VI-1978 桂 造 100)	
御津町室津 1♂ 24-VIII-1980 広畑政巳	
" " 新舞子 1♀(目) 24-IX-1979 石井為久	
太子町太田 1♂ 14-IX-1980 広畑政巳	
新宮町奥小屋 1♂ 14-V-1989 広畑政巳	
山崎町与位 1♂ 3-X-1982 広畑政巳	
" " 薦沢 3♂2♀ 31-V-1968 岩村 巖	

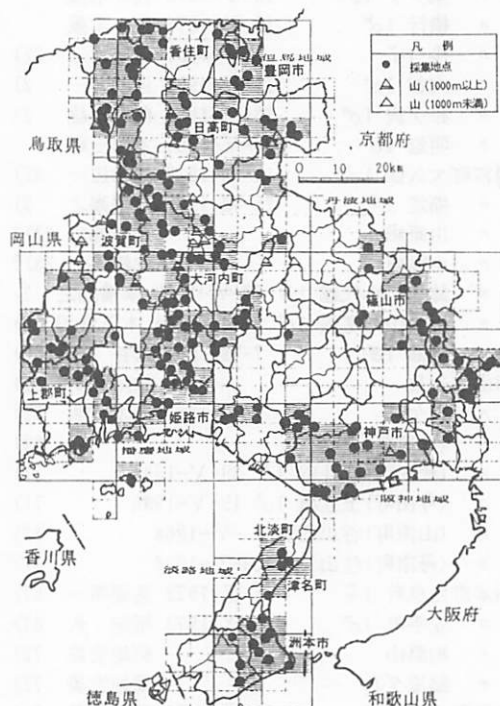


図4 カラスアゲハの県内分布

山崎町上ノ上 1♂1♀ 1-VI-1975 木村三郎
 安富町安志 1♂ 21-IX-1956 山口福男
 " 関 3♂1♀ 1-VI-1975 木村三郎
 " 三坂 1♀ 1-VI-1975 木村三郎
 一宮町福知 2♂ 12-V-1985 広畑政巳
 " 福中(横住川) 1♂ 30-VI-1999 大東康人
 " 横山 1♂ 20-V-1968 岩村 巖
 " 小原 1♂ 27-V-1975 岩村 巖
 " 西公文 2♂ 27-V-1975 岩村 巖
 " 公文 2♂2♀(目) 31-V-1992 石井為久
 波賀町赤西溪谷 1♂1♀ 18-V-1975 広畑政巳
 " 音水 2♂2♀ 20-V-1973 平尾栄治
 " 平桑 1♂ 12-VII-1979 近藤伸一
 " 坂の谷林道 1♂ 7-IX-1986 近藤伸一
 " 戸倉スキー場 1♀ 1-VI-1966 大東康人
 " 藤無山高原 1♀ 30-VI-1966 大東康人
 " 上野東山 1♂ 4-VII-1982 相坂耕作
 千種町鷹巣 1♂ 26-V-1985 広畑政巳
 " 岩野辺 3♂1♀ 2-VI-1974 木村三郎
 南光町 船越 1♂ 5-V-1983 広畑政巳
 相生市相生駅付近 多数 1-VII-1993 71)
 " 矢野町能下 1♂1♀ 31-V-1981 広畑政巳
 " 小河 2♂ 5-V-1967 中浜 潔
 " 三濃山 3♂1♀ 21-V-1967 中浜 潔
 " 陸光光山 1♂ 29-IV-1973 梶野
 " 天下台 竹内 隆
 赤穂市加里屋駅裏 1♂ 22-VII-1962 矢野義広
 " 上飯屋 1♂ 7-VI-1963 西垣憲治
 " 尾崎 1♂ 1-VII-1972 松村邦正
 " 坂越春日 1♂ 15-VII-1972 松村邦正
 上郡町野桑 1♂ 5-V-1968 岩村 巖
 " 金出地 1♂ 1-V-1981 高島 昭

上郡町赤松 1♀(目) 31-VII-1979 石井為久
 " 富満 1♂ 13-VII-1976 相坂耕作
 上月町西新宿 2♂ 27-V-1992 高島 昭
 " 須山 1♂ 19-V-1963 岩村 巖
 " 秋里 1♂1♀ 14-VII-1963 尾崎 勇
 " 久崎 1♂ 7-V-1950 山本広一 4)
 " 皆田 1♂ 8-V-1994 大東康人
 " 宇根別当 1♀ 7-VI-1967 大東康人
 佐用町上石井 1♂ 13-VI-1981 高島 昭
 " 佐用坂 多数(目) 27-V-1973 木村三郎
 豊岡市高屋(金山) 3♂ 6-V-1990 木下賢司 2)
 " 河梨峠 1♂ 15-VII-1990 木下賢司 2)
 " 妙楽寺 1♂ 14-V-1963 木下賢司 3)
 " 愛宕山 1♂ 14-V-1963 木下賢司 3)
 城崎町飯谷 1♂ 25-VII-1988 近藤伸一 2)
 " 来日岳山頂 2♂ 7-V-1987 木下賢司 2)
 " 来日林道 1♂1♀ 1-IX-1988 木下賢司 2)
 竹野町阿金谷 1♂ 13-VII-1963 小崎茂樹 3)
 日高町上ノ郷 1♂ 28-V-1980 木下賢司 2)
 " 九斗 1♀ 20-V-1991 木下賢司 2)
 " 阿瀬溪谷 1♂ 21-V-1990 木下賢司 2)
 " 金谷 2♂ 27-V-1980 木下賢司 3)
 " 名色 1♂ 9-VII-1987 近藤伸一
 " 神鍋 1ex. 9-VII-1987 近藤伸一
 出石町桐野 1♀ 14-V-1964 木下賢司 3)
 " 暮坂 1♂ 1-VII-1995 木下賢司 2)
 " 奥山 2♂ 9-V-1977 木下賢司 3)
 " 城山 1♂ 11-V-1977 木下賢司 3)
 但東町西谷 2♂ 16-V-1987 木下賢司 2)
 " 河本 2♂ 16-V-1987 木下賢司 2)
 " 天谷 1♂ 20-V-1981 木下賢司 3)
 香住町鎧 1♂ 26-VII-1987 永幡嘉之 2)

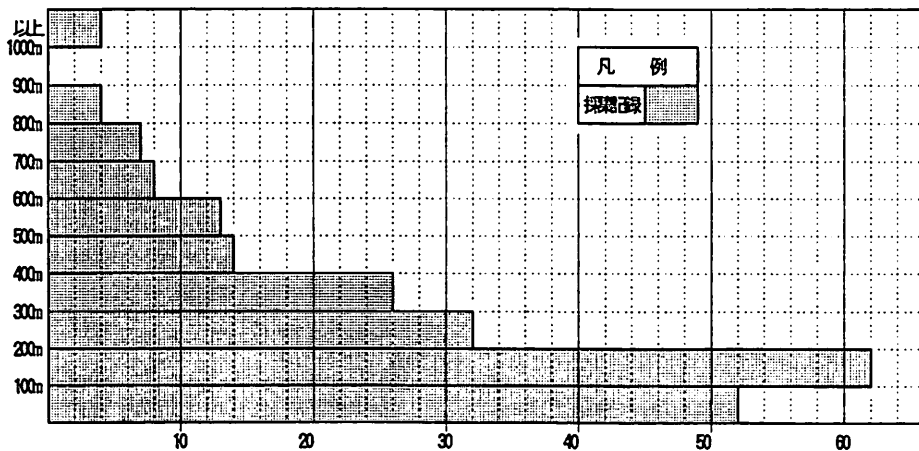


表 4 カラスアゲハの垂直分布

香住町余部 1ex.	23-V-1995	川端	2)
" 矢田 1ex.	26-V-1995	川端	2)
" 守柄 1♀	5-10-1989	近藤伸一	
浜坂町城山 1♂	17-V-1992	永幡嘉之	2)
" 三尾 1♂	14-V-1994	永幡嘉之	2)
" 中小屋 1♂	14-V-1994	永幡嘉之	2)
" 大滝 1♂	14-V-1994	永幡嘉之	2)
" 久斗山宮谷 1♂2♀	20-V-1994	永幡嘉之	2)
" 池ヶ平 1♂	18-V-1991	永幡嘉之	2)
美方町神水	21-VI-1981	島田真輔	47)
" 熱田 1♂	28-V-1988	近藤伸一	
" 小長池	19-VII-1981	島田真輔	47)
温泉町拾尾 1ex.	15-V-1983	黒井和之	3)
" 上山高原 1ex.	30-V-1984	黒井和之	3)
" 畑ヶ平 1♂	23-VII-1984	前平照雄	3)
" 霧ヶ庵 1♂	13-VII-1988	近藤伸一	
" 後山 1♂	10-V-1991	永幡嘉之	2)
" 中辻 1♂	24-V-1992	永幡嘉之	2)
" 伊角 1♂	21-V-1992	永幡嘉之	2)
" 岸田花口 1♂	9-VI-1992	永幡嘉之	2)
" 厨ノ山畑ヶ平 2♂	18-VII-1988	木下賢司	2)
" 春来峠 1♂	16-VII-1980	広畑政巳	
生野町栃原 4♂	15-V-1975	石井為久	
" 川尻 1♂	7-VII-1991	木下賢司	2)
" 葛蒲澤 1♂	31-VII-1959	山口樞男	
和田山町竹ノ内 1♂(撮)	28-V-1994	木下賢司	2)
" 柳原 1ex.	9-V-1985	山崎喜彦	3)
朝来町奥田路 1♂	21-V-1967	尾崎 勇	
" 神子畑 3♂2♀	18-V-1975	尾崎 勇	
山東町大垣 1♂	29-IV-1987	近藤伸一	
八鹿町石原 1♂	20-V-1990	木下賢司	2)
" 妙見山 1♂	19-VI-1995	木下賢司	2)
" 妙見 1♂	2-IX-1970	山口樞男	
養父町浅野 1♂	16-V-1987	木下賢司	2)
大屋町若杉 1♂	11-V-1975	広畑政巳	
" 筏 1♀	28-VI-1965	木下賢司	3)
" 横行溪谷 1♀	3-VII-1966	大東康人	
" 杉ヶ沢 1♂	23-V-1984	前平照雄	3)
" 藤無山山頂 1♀	11-VI-1980	木下賢司	3)
" 横行 6♂	23-V-1981	高島 昭	
" 明延 2♂	24-V-1964	木村三郎	
" 水ノ山	15-VII-1998	竹内 隆	
関宮町大久保 1♂	12-VII-1998	永幡嘉之	2)
" 福定 1♂	10-VII-1965	木下賢司	3)
" 轟杉ヶ沢 1♂	1-IX-1970	山口樞男	
" 鉢伏高原 1♂	5-VII-1987	山口樞男	
篠山市丸山 1♂	24-VII-1997	杠 隆史	74)
" 鐙市ダム 1♂	24-VII-1997	杠 隆史	74)
" 弥十郎岳 2♂1♀	18-V-1997	無量井忠吉	74)

篠山市後川中 1♂1♀	22-V-1994	森地重博	74)
" 後川新田 1♂	14-V-1994	鍋島五郎	74)
" 籠坊 1♀	29-VII-1998		71)
" (今田町)四斗谷 3♂1♀	29-V-1994		71)
" (丹南町)住山 2♂	29-V-1994		71)
春日町日ガ奥			106)
" 三尾山 1♂	10-V-1997	竹内 隆	
水上郡竹田川流域			107)
洲本市生石公園		菊地宏美	72)
" 先山		菊地宏美	72)
" 柏原山 1♂1♀	9-VII-1959	梅本晃義	70)
" 鮎屋ダム		菊地宏美	72)
" 千草 1♀	27-V-1978	近藤伸一	68)
" 中河原 1♀	4-VII-1949	堀田 久	70)
" 三熊山 2♂	3-VII-1968	登日邦明	70)
" 猪ノ鼻ダム 1♂	9-V-1969	坂口 操	70)
津名町常陸寺山 3♂	31-VII-1967	登日邦明	70)
" 妙見山 1♂	4-VII-1952	堀田 久	70)
" 明神 1♂	25-VII-1965	登日邦明	70)
" 興隆寺			70)
緑町倭文長田 1♀	1-VII-1993	近藤伸一	
三原町成相溪谷 3♂2♀	26-VII-1990	菊地宏美	65)
南淡町輪鶴羽山 1♂	2-IX-1984	広畑政巳	

5 オナガアゲハ

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州に分布し、南限は鹿児島市周辺である。県内の分布は図5のように、県下の広い範囲に分布している。淡路島には約40年前の古い目撃記録はあるものの、その後の調査でも再確認されていないため、分布図からは省いた。西播磨の山間部から但馬にかけては比較的個体数が多いものの、県南部では分布域は限られ個体数も少ない。

(2) 生息環境の現況

オナガアゲハの主な食草であるコクサギが、山地の溪流沿いや山道などで生育するため、山地内の溪流、林道、林縁などが生息場所である。

垂直分布は1,000m付近の高地から100m以下の低地まで分布しているが、やや内陸の200m以下付近が垂直分布の中心である。

(3) 採集記録

川西市鼓ヶ滝 1♀	1-V-1966	浜田 稔	73)
" 笹部 1ex.	30-VII-1968	富士正生	73)
" 一庫 1♂	25-VII-1965	和田幸夫	73)
" 妙見山 1♂	17-V-1964	和田幸夫	73)

川西市妙見新滝 1♂	15-VIII-1969	杠 隆史 73)
〃 黒川(新滝道)	1-VIII-1969	勝屋 潤 75)
〃 黒川	18-V-1996	木下修一 108)
猪名川町大野山 1♂	28-V-1994	宗像精三郎 74)
〃 木間生 1♀	2-VI-1996	森地重博 74)
〃 紫合	5-V-1981	仲田元亮 75)
〃 栢原(大谷)	9-VI-1985	小坂利明 75)
宝塚市清荒神 1♂	5-V-1972	加藤信一郎 105)
〃 僧川	25-V-1985	105)
芦屋市芦屋川 1♂	17-V-1980	黒田昌利 86)
神戸市東灘区御影町 1♀	29-VIII-1952	吉坂道雄 4)
〃 六甲山 3♂	5-VI-1960	尾崎 勇
〃 灘区六甲学院付近 1♂	7-V-1968	杠 隆史 77)
〃 中央区市ヶ原 1♂	19-VII-1959	尾崎 勇
〃 西区神出町雄岡山 1♂	15-VIII-1962	尾崎 勇
〃 北区帝釈山 1♀	25-V-1995	平尾栄治
明石市大蔵谷東山西山 1♂	25-VIII-1961	大東康人
三木市志染町密屋 1♀	12-VI-1977	小倉 滋 104)
加古川市志方町 1♂	8-V-1983	墨谷 健 86)
〃 〃 氷室 1♂	29-V-1983	近藤伸一
加美町千ヶ峰	3-V-1959	7)
福岡市七種山 2♂(目)	26-V-1991	石井為久
〃 山崎 2♂(目)	15-VIII-1982	石井為久
市川町下牛尾河内 1♂	10-V-1975	広畑政巳
〃 上牛尾半瀬 1♂	14-VIII-1980	広畑政巳
〃 上牛尾岩戸 1♂	30-V-1998	広畑政巳
〃 上牛尾寺家 1♂	14-VIII-1980	広畑政巳
〃 小畑 1♂	31-VII-1993	広畑政巳
〃 浅野 1♂	30-V-1999	広畑政巳
〃 谷 1♂3♀(目)	22-V-1994	石井為久
大河内町川上 1♂	17-V-1975	広畑政巳
〃 砥峰 1♂	9-VIII-1981	広畑政巳
〃 上小田 7♂1♀	26-V-1968	尾崎 勇
夢前町山之内 1♂	25-V-1975	広畑政巳
〃 雪彦山 1♀	29-IV-1998	平尾栄治
〃 東馬頭 1♂	13-V-1962	尾崎 勇
〃 馬頭 1♂(目)	17-V-1977	森下泰治
〃 熊部 3♂2♀(目)	14-V-1994	石井為久
〃 置塩城址	15-VIII-1999	竹内 隆
〃 寺	20-VI-1999	竹内 隆
〃 文殿 1♂1♀	27-V-1973	木村三郎
〃 小畑 1♂	27-V-1973	木村三郎
〃 勘野 1♂	27-V-1973	木村三郎
〃 菅生潤 1♂	-V-1968	木村三郎
山崎町蔦沢 3♂1♀	31-V-1968	岩村 巖
〃 宮ノ北 1♂	20-V-1995	大東康人
安富町安志 1♂	2-VI-1963	尾崎 勇
〃 関 1♂1♀	1-VI-1975	木村三郎
一宮町千町 1♂	13-V-1984	広畑政巳

一宮町公文 3♂1♀	20-V-1968	岩村 巖
〃 福中 横住川 1♂1♀	15-V-1999	大東康人
〃 阿舍利 1♀	23-V-1998	大東康人
〃 横山 1♂	20-V-1968	岩村 巖
〃 福知 1♂	18-V-1975	岩村 巖
〃 小原 2♂	27-V-1975	岩村 巖
〃 樺ノ木林道 1♂	29-V-1999	大東康人
〃 白口 1♂	5-VI-1989	山口福男
〃 草木 2♂1♀(目)	31-V-1992	石井為久
波賀町赤西溪谷 1♂1♀	12-V-1985	広畑政巳
〃 八丈 1♂(撮)	15-V-1999	広畑政巳
〃 音水 1♀	28-VIII-1989	平尾栄治
〃 日ノ原 2♂1♀	24-V-1968	岩村 巖
〃 東山高原 1♀	26-V-1996	大東康人
千種町岩野辺 1♂	2-VI-1974	木村三郎
南光町船越山 1♂	13-V-1984	広畑政巳
相生市矢野町能下 1♂1♀	31-V-1981	広畑政巳
〃 三濃山 1♂	23-V-1979	米村和繁
〃 陸光明山 1♂	29-VI-1973	松村邦正
〃 佐方 1♀	14-V-1991	清水幸三
赤穂市高雄 1♂	6-V-1972	松村邦正
〃 尾崎 1♂	10-VI-1972	松村邦正
上郡町大杉野 1♂	1-VI-1963	岩村 巖

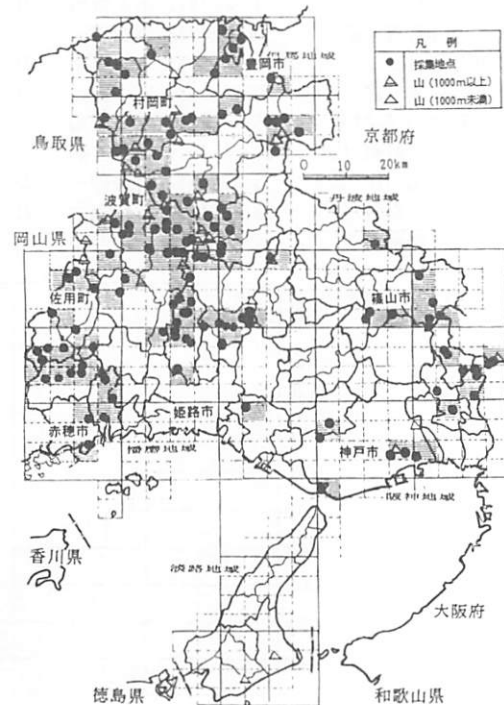


図5 オナガゲハの県内分布

上郡町野桑 1♂	5-V-1968	岩村 巖	美方町熱田 1♂	28-V-1988	近藤伸一
" 柏野 2♂	5-V-1987	近藤伸一	温泉町後山 1♂	12-V-1992	永幡嘉之 2)
" 皆坂 1♂	22-V-1983	清水幸三	" 八日市 1♂	17-V-1992	永幡嘉之 2)
" 岩木 1♂	8-VII-1999	相坂耕作	" 中辻 1♂	24-V-1992	永幡嘉之 2)
上月町西新宿 多数(目)	9-V-1998	71)	" 歌長 1ex.	-VI-1984	黒井和之 3)
" 久崎 1♀	19-V-1963	岩村 巖	" 霧ヶ滝 1♂	13-VII-1988	近藤伸一
" 榎坂 1♀	14-VII-1981	高島 昭	浜坂町城山 1♀	7-VI-1993	永幡嘉之 2)
" 上秋里 1♂	27-V-1992	高島 昭	" 池ヶ平 1♂	18-V-1991	永幡嘉之 2)
" 大日山 2♂2♀(目)	4-VI-1994	石井為久	生野町栃原 1♂	8-V-1983	近藤伸一
三日月町三原 2♂	19-V-1963	岩村 巖	" 菖蒲澤 1♂	11-VI-1962	山口福男
佐用町上石井 1♂1♀	16-V-1981	高島 昭	和田山町竹ノ内 1♂(撮)	14-V-1994	木下賢司 2)
" 奥海 1♂	16-V-1981	高島 昭	朝来町神子畑 2♂	18-V-1975	尾崎 勇
" 佐用坂(目)	27-V-1973	木村三郎	" 奥田路 2♂1♀	18-V-1975	尾崎 勇
豊岡市伊賀谷 1♂	12-V-1990	木下賢司 2)	" 佐養 1♂	22-VII-1993	近藤伸一
" 奥野 1♀	31-IV-1964	木下賢司 3)	" 佐中 1♂(目)	19-V-1979	石井為久
" 福成寺(矢吹山) 2♂	12-V-1966	木下賢司 3)	" 田路 1♀	18-V-1975	佐々木薫
城崎町来日岳山頂 1♂	8-VII-1991	木下賢司 2)	養父町力カナベ 6♂	16-V-1987	木下賢司 2)
" 元薬師 1♂	3-V-1964	小崎茂樹 3)	大屋町明延 1♂	27-VII-1980	広畑政巳
竹野町阿金谷 1♀	12-VII-1965	小崎茂樹 3)	" 若杉 4♂	12-V-1973	尾崎 勇
日高町上ノ郷 1♂	21-V-1990	木下賢司 2)	" 杉ヶ沢 1♂	23-V-1984	前平照雄 3)
" 九斗 1♂	20-V-1991	木下賢司 2)	" 横行 5♂	23-V-1981	高島 昭
" 金谷 1♂	17-V-1964	木下賢司 3)	関宮町福定 1♂	14-VII-1988	近藤伸一
" 阿瀬溪谷	3-VII-1977	谷谷素彦 84)	" 葛畑 1♂	24-VII-1985	近藤伸一
出石町桐野 2♂	9-V-1977	木下賢司 3)	篠山市鍋市ダム 2♂	24-VII-1997	杠 隆史 74)
" 百合谷 2♂	15-VI-1988	近藤伸一	" 弥十郎岳 1ex.(目)	1-VI-1991	高橋邦明 74)
但東町畑 1♂	20-V-1981	木下賢司 3)	" 籠坊 多数	22-V-1994	宗像精三郎 74)
" 天谷 1♂	20-V-1981	木下賢司 3)	" 後川中 多数	22-V-1994	宗像精三郎 74)
村岡町作山 5♂1♀	15-V-1987	木下賢司 2)	" 上籠坊	30-V-1981	仲田元亮 76)
" 鉢北高原 1♂	31-V-1979	福井文嗣 3)	" (丹南町)住山 1♂	29-V-1994	71)
" 耀山 1♂	9-VII-1987	近藤伸一 2)	" (丹南町)竜蔵寺 1♂	1-VI-1996	近藤伸一
美方町小代溪谷 2♂	23-VII-1992	永幡嘉之 2)	" (今田町)四斗谷 2♂	10-V-1998	71)
" 久須部 1♂	7-VI-1988	近藤伸一	水上郡竹田川流域	107)	

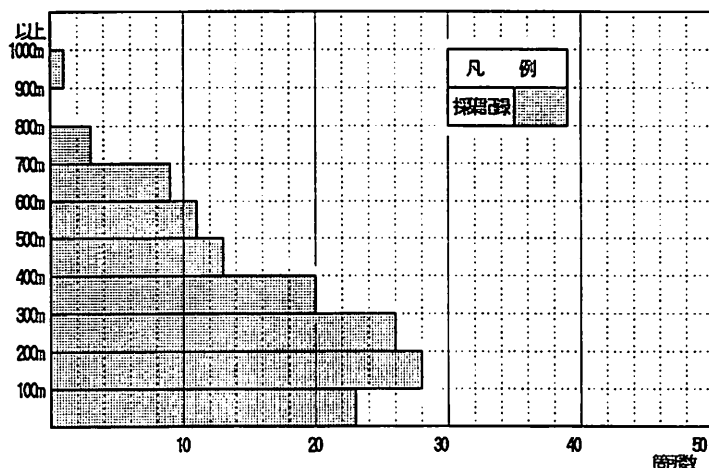


表 5 オナガダガの垂直分布

春日町日ガ奥

106)

〈参考〉

洲本市中河原町竹原 1ex. (目) -Ⅷ-1958 田中 70)

6 ジャコウアゲハ

(1) 分布の状況

本州、四国、九州から南西諸島まで広く分布する。県内の分布は図6のように、県南部を中心として県下全域に分布する。中北部では産地が限られ個体数も少ない。淡路島には産地が多く個体数も多い。

(2) 生息環境の現況

食草のウマノスズクサが河川敷、田の畦など集落周辺に多く、このような人家に近い場所が生息地でもあるため、採集地の垂直分布も低くなるほど多くなり、200m以下の低地が分布の中心である。六甲山ではアリマウマノスズクサを食草とし、標高900-800m付近の高地での採集記録がある。

(3) 採集記録

川西市笹部 1ex.	3-V-1972	富士正生	73)
〃 黒川 1蛹	2-V-1977	植田	73)
〃 多田神社 1♀	23-V-1965	畦 定子	73)
〃 鼓ヶ滝 1♂	1-V-1966	浜田 稔	73)
〃 多田 2ex.	16-VII-1967	鴻池義一	73)
〃 大和	28-VI-1981	仲田元亮	75)
〃 芋生	31-VII-1982	小坂利明	75)
〃 横路	12-V-1985	小坂利明	75)
猪名川町万善 1♂	18-VII-1971	桑原英夫	73)
〃 内馬場	8-VIII-1976	仲田元亮	75)
宝塚市ゆずりは台エデンの園 1♀	31-VII-1997		71)
〃 清荒神 1♀	16-V-1971	加藤信一郎	99)
〃 西部	5-V-1990		105)
〃 川面	10-V-1970		105)
〃 切畑 1♂	-VII-1974	山口福男	
〃 波豆〜三田市木器	15-VII-1977		105)
〃 宝梅 1丁目 ♀	26-VI-1991		105)
西宮市山口町白水峽 1♂(目)	21-VII-1997		71)
〃 山口町蓬萊峽 2♀	21-VII-1997		71)
〃 甲山町甲山森林公園 1♂	19-VII-1997		71)
〃 越水盤滝 1♂	19-VII-1997		71)
〃 夙川オアシスロード 1ex.	5-IX-1996		71)
〃 塩瀬町名塩 1蛹	4-III-1999	近藤伸一	
芦屋市芦屋川 1♂	18-V-1980	黒田昌利	86)
〃 蛇谷 2♂2♀	16-V-1982	西 隆彦	92)
〃 奥山 1♀	10-VI-1997	近藤伸一	

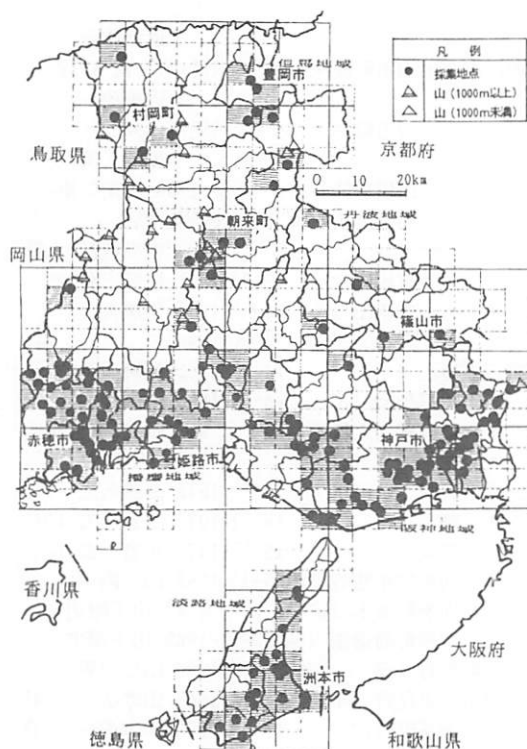
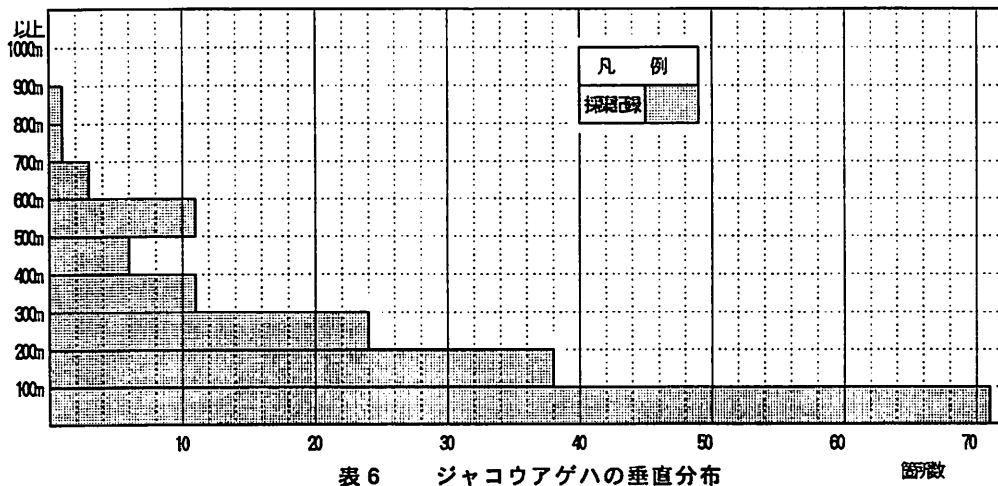


図6 ジャコウアゲハの県内分布

神戸市六甲山 1♀	25-VI-1960	吉坂道雄	5)
〃 六甲山アイスロード 3♂1♀	16-V-1965	三木 進	103)
〃 東灘区東六甲凌雲荘 6幼虫	12-X-1997		71)
〃 〃 御影町 1♂	14-V-1955	吉坂道雄	4)
〃 灘区伯母野山付近 1♂	30-VI-1969		77)
〃 〃 奥摩耶教材園 1♀	11-VIII-1962	大東康人	
〃 〃 六甲山町丁字ヶ辻付近数頭	-VIII-198077)		
〃 〃 摩耶山山頂 1♂	25-V-1997	近藤伸一	
〃 中央区諏訪山 1♂	18-V-1985	近藤伸一	
〃 長田区高取山町 1♂(目)	5-VII-1999	近藤伸一	
〃 須磨区妙法寺 1♂(目)	5-VII-1999	近藤伸一	
〃 〃 神ノ谷 1♂	28-IV-1999	山口福男	
〃 西区押部谷 2♀	20-V-1962	尾崎 勇	
〃 〃 前開(太山寺) 1♂	19-V-1963	尾崎 勇	
〃 〃 岩岡町 1♀	22-VIII-1999	近藤伸一	
〃 〃 榎谷町寺谷 3♂	30-VI-1990	山下剛史	
〃 〃 伊川谷町上脇 1♀	2-V-1992	山下剛史	
〃 北区山田町森林植物園 1♂	5-V-1997	近藤伸一	
〃 〃 〃 教育植物園 3♂	8-V-1994		

近藤伸一
神戸市北区山田町修法ヶ原 1♀(目) 17-IX-1999
" " 山田町谷上 3♂4♀ 15-V-1960
" " 山田町箕谷 1♂ 3-V-1989 平尾栄治
" " 山田町山ノ街 1♂ 10-VII-1953
" " 有馬町 2♂ 29-IV-1961 尾崎 勇
" " 帝釈山 1♀ 30-V-1999 平尾栄治
" " 道場 3♂ 2-IX-1995 71)
明石市藤江 1♀ 14-VII-1961 尾崎 勇
" 明石公園 1♂ 18-VII-1985 近藤伸一
" 西朝霧丘大蔵中学校 1♀ 9-V-1963大東康人
" 北王寺町 15♂5♀ 21-VII-1980 山口福男
三木市大村 6-V-1978 高橋久夫 104)
" 細川 18-VI-1977 小倉 滋 104)
" 志染 18-VI-1977 小倉 滋 104)
" 別所町正法寺 3♂ 5-V-1992 山下剛史
" 別所町高木 3♂3♀ 5-V-1992 山下剛史
" 別所町西道田 4♀ 10-VI-1989 山下剛史
吉川町湯谷 1♂ -IV-1980 山口福男
小野市下来住町 1♀ 22-IV-1945 山本広一 4)
" 大島町 1♂ 11-VIII-1953 山本広一 4)
" 粟生町 3♀ 14-VI-1992 山下剛史
加古川市志方町城山公園 1♀ 12-IV-1964 尾崎 勇
" 志方町畑 3♂ 23-VIII-1983 墨谷 健 86)
" 志方町天神山 1♂1♀ 7-V-1999 竹内 隆
加西市笹倉 1♀(目) 13-IX-1979 石井為久
社町平木 1♂1♀ 5-V-1985 広畑政巳
滝野町 1♂ 23-IV-1940 山本広一 4)
黒田庄町田高 21-IV-1959 7)

姫路市才 1♂ 7-VI-1981 広畑政巳
" 広峰山 1♂ 9-V-1982 広畑政巳
" 林田町八幡神社 1♂ 13-V-1984 広畑政巳
" 網干区浜田 2♂4♀ 6-V-1990 相坂耕作
" 広畑区蒲田 1♂ 20-VIII-1980 松本勝由
" " 浜手緑地 1♀(目) 5-V-1998
" 増位山 1♂ 13-V-1973 石井為久
" 山田町 1♂ 3-V-1974 木村三郎
" 大市 1♂ 19-V-1974 木村三郎
" 青山 1♂ 19-V-1974 木村三郎
福岡町新 1♂ 5-V-1984 広畑政巳
" 井ノ口 2♂4♀ 12-V-1975 森下泰治
" 福田 50卵 14-V-1983 石井為久
" 七種山 1♂(目) 11-X-1981 石井為久
市川町上田 2♂(目) 9-V-1982 石井為久
大河内町川上 1♂ 3-VI-1984 広畑政巳
夢前町坂根 雪彦山麓 1♂1♀ 10-V-1964
" 大東康人
" 馬頭 1♀(目) 16-V-1977 石井為久
" 前ノ庄 1♂ 3-V-1970 木村三郎
" 菅生澗 2♂ 2-V-1968 木村三郎
龍野市宮脇 1ex.(目) 5-V-1999 広畑政巳
" 龍野 1♂ 19-V-1974 木村三郎
掛保川町大門 2♂1♀ 16-IX-1975 相坂耕作
新宮町二柏野 1♂ 5-V-1982 広畑政巳
" 新宮 2♂5♀ 12-V-1990 相坂耕作
安富町三坂 1蛹 15-V-1981 広畑政巳
一宮町草木(横住川) 1♂ 20-VI-1999 大東康人
" 千町 1♂(目) 1-IX-1991 石井為久
相生市矢野町能下 1♂ 31-V-1981 広畑政巳
" 大谷町 1♀ 14-VII-1962 唐土洋一



相生市那波野 1♀	6-V-1957	唐土洋一	
" 瓜生 2♂	29-IV-1964	岩村 巖	
" 三濃山 2♀	21-V-1967	豆鞘周二	
" 佐方 10♂6♀	13-V-1970	岩村 巖	
" 陸光明山 1♂	29-IV-1973	松村邦正	
赤穂市坂越 1♀	25-VII-1963	西垣憲治	
" 折方 2♂	23-V-1965	岩村 巖	
" 富原 3♂	6-V-1972	松村邦正	
" 目坂 5♂	6-V-1972	松村邦正	
" 高雄 1♀	16-V-1972	船曳俊宏	
" 上飯屋 1♂	23-IV-1973	松村邦正	
" 周世 2♂	9-IV-1973	岩井信彦	
" 東有年 1♂	22-VII-1996	高島 昭	
" 有年横尾 1♀	12-V-1995	佐々木薫	
上郡町宇野山 1蛹	8-III-1981	広畑政巳	
" 富満 3♂	3-V-1968	広畑政巳	
" 黒石 1幼虫	4-VII-1982	広畑政巳	
" 国見 16♂♀	3-V-1963	岩村 巖	
" 野桑 6♂1♀	3-V-1967	豆鞘周二	
" 皆坂 1♀	8-V-1983	清水幸三	
" 名村 1♂	29-IV-1983	清水幸三	
" 上郡 1♂	1-V-1973	相坂耕作	
" 岩木 幼虫多数	-VII-1996	相坂耕作	
上月町西新宿 2♂2♀	9-V-1998		71)
" 須山 1♂2♀	19-V-1963	岩村 巖	
" 上秋里 2♀	1-VII-1973	尾崎 勇	
" 久崎 1♂1♀	23-VI-1963	岩村 巖	
" 円光寺 1♀	23-IX-1981	高島 昭	
" 大日山 1♀(目)	4-VI-1994	石井為久	
三日月町大下り 1♀	19-V-1963	岩村 巖	
" 三原 1♂	2-VI-1963	滝井邦興	
佐用町若州 幼虫多数	21-VI-1987	石井為久	
豊岡市中ノ郷 1♀	30-VII-1979	木下賢司	3)
" 弥栄町 1♀	6-V-1900	木下賢司	3)
" 下蔭 1♂	10-VII-1981	木下賢司	3)
日高町上ノ郷 2♂3♀	4-V-1983	前平照雄	3)
出石町鳥居 6♂	2-VII-1991	木下賢司	2)
村岡町羅山 1♀	12-V-1978	木下賢司	3)
美方町美方高原	17-VII-1981	加野 正	47)
浜坂町新市 1♂	6-IX-1989	近藤伸一	
温泉町岸田花口 1♂	29-V-1992	永幡嘉之	2)
和田山町竹ノ内 2♂1♀	16-V-1978	木下賢司	3)
" 玉置 7exs.	3-V-1985	山崎喜彦	3)
朝来町奥田路 3♂2♀	18-V-1975	尾崎 勇	
" 田路 1♀(目)	19-V-1979	石井為久	
篠山市曾地奥 1♂	6-V-1990	鍋島五郎	74)
" (丹南町)住山 2♀	10-V-1998		71)
柏原町柏原 1♂	3-V-1987	近藤伸一	
氷上町加茂 1♂	29-IV-1987	近藤伸一	

青垣町稲土 2♂1♀	-VI-1975	山口福男	
洲本市宇山 1♂	1-V-1992	交告尚史	66)
" 中河原 1♀	11-VII-1965	堀田 久	70)
" 先山 1♀	16-VII-1950	堀田 久	70)
" 下加茂 1♂	30-IV-1968	登日邦明	70)
" 三熊山 1♂	25-VII-1952	堀田 久	70)
" 由良町 1♀	2-VII-1971	堀田 久	70)
" 柏原山		菊地宏美	72)
" 鮎屋ダム		菊地宏美	72)
" 生石公園		菊地宏美	72)
" 千草中村 1♂	5-V-1978	近藤伸一	
津名町常隆寺山 1♂	19-VII-1970	登日邦明	70)
" 明神 1♀	25-VII-1965	登日邦明	70)
" 興隆寺			70)
緑町初尾ダム		菊地宏美	72)
" 感応寺山		菊地宏美	72)
" 中条中筋 1♀	17-VII-1987	近藤伸一	
三原町成相溪谷		菊地宏美	72)
" 八木天野馬廻 1♂	6-VII-1978	近藤伸一	
南淡町輪鶴羽山		菊地宏美	72)
" 阿万 2♀	26-IV-1959	藤平 明	70)
" 灘 1♀	18-VI-1966	藤平 明	70)
" 大日ダム 1♀	23-V-1969	坂口 操	70)

<参考文献>

- 1) 黒井和之(1988) 但馬地方のギフチョウの新産地の記録 IRATSUME(12):78
- 2) 木下賢司・近藤伸一・大東康人・永幡嘉之(1996) 但馬地域の産蝶目録Ⅱ IRATSUME(20):66-86
- 3) 木下賢司・前平照雄・福井文嗣(1986) 但馬地域の蝶類目録 IRATSUME(10):55-95
- 4) 山本広一・吉阪道雄(1958) 兵庫県産蝶類目録 (1) 兵庫生物3(4):228-236
- 5) 日浦 勇(1969) 日本列島の蝶 大阪市立自然博物館収蔵資料目録
- 6) 大阪昆虫同好会 (1989) 北摂の蝶 大阪昆虫同好会(宝塚市)
- 7) 猪俣涼一・岡本 清(1960) 多可・西脇地方の昆虫(蝶類) 兵庫生物4(1):24-28
- 8) 山本広一(1967) 兵庫県のギフチョウについて 兵庫生物5(3/4):241-247
- 9) 蝶研出版編集部(1996) 蝶類採集情報・総集編 蝶研出版 茨木市
- 10) 蝶研サロン編集部(1997) 1996年蝶類採集情報 蝶研サロン118号付録
- 11) 蝶研サロン編集部(1998) 1997年蝶類採集情報 蝶研サロン130号付録
- 12) 蝶研サロン編集部(1998) 1998年蝶類採集情報

- (5) 蝶研サロン(134):14-24
- 13) 蝶研出版編集部(1992) フィールド速報
蝶研フィールド7(5):14-15
- 14) 法西浩(1996) 兵庫県東部のギフチョウ1996年の記録 蝶研フィールド11(11):23-25
- 15) 法西浩(1995) 兵庫県東部地域でのギフチョウの記録 蝶研フィールド10(12):22-23
- 16) 松本雅志(1995) 兵庫県神戸市でギフチョウを採集 蝶研フィールド10(12):26
- 17) 蝶研出版編集部(1993) 最新版! ギフチョウ産地一覧 蝶研サロン(72):1-21
- 18) 永幡嘉之(1992) 春&初夏の昆虫情報
混蟲ずかん(33):2
- 19) 黒井和之(1992) 但馬地方のギフチョウ
IRATSUME(15/16):32-40
- 20) 蝶研出版編集部(1998) 蝶研サロン会員のしおり1998 蝶研出版
- 21) 品川 恭(1997) 1997年採集行の記録(1)
のせ26(8):5-8
- 22) 遠藤知二ほか(1975) 豊岡市周辺の蝶 兵庫県自然保護協会但馬支部研究紀要1(1):1-12
- 23) 松崎 隆他(1997) 1993~1996年ギフチョウ採集記録 緑蝶(7):11-21
- 24) 松崎 隆他(1993) 1989~1992年ギフチョウ採集記録 緑蝶(6):10-15
- 25) 法西 浩(1998) ギフチョウの越冬蛹は何を語るのか 蝶研フィールド13(5):8-11
- 26) 紅 隆史(1998) 1998年兵庫県のギフチョウの状況 のせ27(5):1
- 27) 蝶研出版編集部(1995) 1995年蝶類採集情報 蝶研サロン(97):27-31
- 28) 宮垣友洋(1995) 豊岡市で採集した蝶・トンボ
IRATSUME(19):26-35
- 29) 三上秀彦(1994) 日本で最初にギフチョウが消えた街 蝶研フィールド9(3):4-7
- 30) 尾崎 勇(1979) 兵庫県ギフチョウ
ひろおび(4):26-34
- 31) 尾崎 勇・高嶋 明(1984) 兵庫県明石地方のギフチョウ 昆虫と自然19(2):10-15
- 32) 野瀬幸彦(1989) あれから100年すぎて
蝶研フィールド4(12):10-11
- 33) 高嶋 明(1984) 加古川の蝶
てんとうむし(9):46-49
- 34) 福井丈嗣(1990) 早春のギフチョウ情報
混蟲ずかん(25):3
- 35) 谷角素彦(1990) 早春のギフチョウ情報
混蟲ずかん(25):3
- 36) 蝶研出版編集部(1992) フィールド速報
蝶研フィールド7(6):15
- 37) 広畑政巳・近藤伸一(1989) 兵庫県産蝶類分布資料(5) ひろおび(8):1-8
- 38) 相坂耕作(1980) 姫路市の昆虫
てんとうむし(6):10-20
- 39) 松崎 隆(1997) 表紙説明 緑蝶(7):2
- 40) 広畑政巳(1997) 兵庫県におけるウスバシロチョウの分布の変遷 てんとうむし(11):13-18
- 41) 広畑政巳(1995) 兵庫県南西部に於けるウスバシロチョウの採集記録
遊蟲千年(てんとうむし 特別号):19
- 42) 唐土洋一(1979) 西播におけるウスバシロチョウについて てんとうむし(5):12-13
- 43) 堀 紳二(1987) ウスバシロチョウの記録
きべりはむし15(2):49-50
- 44) 山本広一(1971) 兵庫県の蝶相
月刊むし(3):2-10
- 45) 山本広一(1969) 兵庫県のウスバシロチョウについて(1) 兵庫生物6(1):39-42
- 46) 山本広一(1978) 兵庫県のウスバシロチョウ
昆虫と自然13(7):30-33
- 47) 島田真輔(1982) 美方町の蝶
IRATSUME(6):25-29
- 48) 木下賢司(1983) 但馬におけるウスバシロチョウの新産地Ⅱ IRATSUME(7):15-17
- 49) 木下賢司(1982) 但馬におけるウスバシロチョウの新産地 IRATSUME(6):8-9
- 50) 高橋 匡(1979) 但馬地方昆虫目録(予報第1報) IRATSUME(3):40-58
- 51) 足立義弘・谷角素彦(1982) 神鍋のウスバシロチョウの分布調査 IRATSUME(6):1-7
- 52) 永幡嘉之(1995) ウスバシロチョウの分布調査
IRATSUME(19):11-12
- 53) 黒井和之(1995) 美方郡のウスバシロチョウ
IRATSUME(19):13-15
- 54) 永幡嘉之(1993) ウスバシロチョウの分布調査Ⅰ IRATSUME(17):31-32
- 55) 黒井和之(1993) ウスバシロチョウ1993年
混蟲ずかん(39):7
- 56) 小野克巳(1995) 1991・1992・1993年度ウスバシロチョウの調査報告 杉峠(17):1-8
- 57) 小野克巳(1995) 1994年度ウスバシロチョウ調査記録 杉峠(17):9-11
- 58) 佐香正明(1996) 1996年5月ウスバシロチョウの採集記録 のせ25(7):3
- 59) 黒井和之(1998) フィールドノートから
混蟲ずかん(62):5
- 60) 黒井和之(1995) 美方郡西部のウスバシロチョウの新産地と知見 IRATSUME(17):28-30
- 61) 加藤昌宏・武衛晴彦(1981) 神戸の蝶

- 神戸市立教育研究所 神戸市
- 62) 岩村 巖(1980) 西播の蝶分布資料(7) 山崎町の蝶類 ひろおび(5):2-9
- 63) 尾崎 勇(1980) 兵庫県の蝶(1) 千種川水系の蝶相 ひろおび(5):24-30
- 64) 藤平 明(1997) 阿万でミヤマカラスアゲハを採集す PARNASSIUS(45):12
- 65) 菊地宏美(1991) 淡路島での蝶類採集録 PARNASSIUS(37):1-2
- 66) 交告尚史(1993) 蝶ふたたび PARNASSIUS(39):1-4
- 67) 堀田 久(1973) 淡路島でミヤマカラスアゲハ夏型を採集 PARNASSIUS(11):14
- 68) 浅田 卓(1978) 淡路島蝶類採集目録 PARNASSIUS(19):16-18
- 69) 登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(2) 佳香蝶26(99):25-32
- 70) 登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(1) 佳香蝶26(98):9-15
- 71) 蝶研出版編集部(1999) CD-ROM蝶類採集情報 '89-' 98 蝶研出版
- 72) 菊地宏美(1992) 淡路島での蝶の採集 PARNASSIUS(38):1-6
- 73) 大阪昆虫同好会(1981) 北摂の昆虫(1) 蝶類
- 74) 大阪昆虫同好会(1998) 北摂の昆虫(2)
- 75) 小坂利明(1994) 猪名川流域の蝶 詩画工房 大阪
- 76) 仲田元亮(1982) 能勢の昆虫(蝶の部) 大阪
- 77) 杠 隆史(1982) 六甲山系の蝶 Crude(23):67-73
- 78) 青木陽一(1997) 神戸市の蝶 蝶研フィールド12(5):4-12
- 79) 法西 浩(1998) 兵庫県西宮市でミヤマカラスアゲハを採集 蝶研フィールド13(7):19
- 80) 山本広一・吉坂道雄(1960) 兵庫県蝶類目録(3) 兵庫生物4(1):37-44
- 81) 猪俣涼一・岡本 清(1962) 多可西脇地方の昆虫(追報) 兵庫生物4(3/4):177-178
- 82) 山本広一(1967) 県下のミヤマカラスアゲハについて 兵庫生物5(3/4):248-251
- 83) 永幡嘉之(1994) 浜坂町城山初秋の蝶 IRATSUME(18):44-45
- 84) 谷角素彦(1978) 日高町金山の蝶 IRATSUME(2):11-20
- 85) 竹井 一(1999) 日本産蝶類の採集データ集 SPINDA(14):106-130
- 86) 京都大学蝶類研究会(1987) 日本産蝶類239種類の記録(上) SPINDA(2):2-40
- 87) 京都大学蝶類研究会(1988) 日本産蝶類239種類の記録(下) SPINDA NOUV(3):2-51
- 88) 京都大学蝶類研究会(1989) 日本産蝶類239種類の記録 補遺 SPINDA NOUV(4):27-44
- 89) 高橋邦明(1991) 北摂における1985年-1990年の採集記録 Crude(35):1-2
- 90) 加藤信一郎(1982) 宝塚市荒神山のチョウ(追録) きべりはむし10(1):36-37
- 91) 唐土洋一(1997) 兵庫県赤穂市の蝶類補足 てんとうむし(11):83
- 92) 西 陸広(1984) 芦屋市の蝶 てんとうむし(9):28-38
- 93) 唐土洋一(1982) 西播のミヤマカラスアゲハ採集例 てんとうむし(8):49
- 94) 木村三郎(1982) ミヤマカラスアゲハ雌雄型 てんとうむし(8):50
- 95) 相坂耕作(1981) 夜間灯火に飛来した蝶 てんとうむし(7):19
- 96) 木下修一(1997) 黒川の蝶 きべりはむし25(1):40-44
- 97) 永幡嘉之(1993) 三木市内における蝶の採集記録 きべりはむし21(1):10-22
- 98) 加藤信一郎(1985) 宝塚市荒神山のチョウ(追報4) きべりはむし13(1):16-17
- 99) 加藤信一郎(1981) 宝塚市荒神山のチョウ きべりはむし9(2):8-15
- 100) 上田尚志(1980) 家島群島の昆虫(1) きべりはむし8(2):21-27
- 101) 高橋寿郎(1980) ミヤマカラスアゲハ・ナガサキアゲハ神戸市内における記録 きべりはむし8(2):30-31
- 102) 高橋寿郎(1980) ミヤマカラスアゲハ・クロコノマチョウ神戸市北区下谷上にて採集 きべりはむし8(1):17-18
- 103) 三木 進(1979) 六甲山系(西部)の蝶 きべりはむし7(1):2-7
- 104) 小倉 滋・高橋久夫(1978) 三木市内の蝶について きべりはむし6(1, 2):8-16
- 105) 宝塚市教育委員会(1992) 宝塚の昆虫 I (HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8) (KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

兵庫県のテントウムシ(1)*

高橋 寿郎

筆者はかつて兵庫県のテントウムシをまとめ、発表したことがある(1958,1961)。それ以後の調査でかなりの追加種も現れている。現在、兵庫県からは73種のテントウムシを産することがわかっている。

日本に産するテントウムシは1996年末現在180種といわれている(佐々治,1997)。したがって、日本産の半分も兵庫県下では記録出来ていないのが現状である。しかしながら、兵庫県下にも未調査地が結構多く残っているし、また精度の高い調査をすればまだまだ産出種の増加は期待できる。そこで現時点での兵庫県のテントウムシをここにまとめることにより、これからの調査の参考になればと思っている。

本文作製にあたっては標本の同定をお願いし、種々の御教示を頂き論文別刷等を頂いている福井大学の佐々治寛之博士、愛媛大学の宮武睦夫博士、久松定成博士に厚く御礼を申し上げる。

研究史

1873. Lewis, G. Notes on Japanese Coccinellidae
Ent. Month Mag. X; 54-56.

兵庫県産テントウムシについての初めての論文になるかと思う。Crotch, R. G. の同定になるものであり、兵庫県産として次の3種がいずれも新種として示されている。ただし、新種の記載はついていない。

p. 55. *Coccinella japonica* Crotch. Maiyasan, Hiogo ;
2 specimens.

この種は Lewis が1879年に発表した論文の中で記載された *Novius concolor* Lewis "Hiogo, Maisan temple from which I possess a series" とされた種であり、現在 *Rodolia concolor* (Lewis, 1879) アカイロテントウになる。

p. 56. *Novius japonica* Crotch. Maiyasan, Hiogo =
Rodolia concolor (Lewis, 1879) アカイロテントウ。

p. 56. *Platynaspis lewisi* Crotch. Maiyasan, Hiogo =
Rhymasternus lewisii (Crotch, 1874) ヨツボシテントウ。

1875. E. v. Harold. Verzeichniss der von Herrn T. Lenz in Japan gesammelten Coleoptern.
Abhandl. Nat. Ver. Bremen IV; 283-296.

Lenz, Tuison は商人として1874~1880年の間、神戸に在留した。その間に甲虫類を採集し、その採集品を基にして Harold は2篇の論文を発表しており本論文はその第一報である。

本論文には47種の甲虫が記録されている。うち8種は本論文で新種として発表したものである。産地は明確に記録されていないが、神戸産(Hiogo)のものが大部分と考えられる。ただ、若干問題のある種もある。テントウムシ科は3種が記録されている。

p. 296. 45. *Coccinella Besseri* Gold. = *Coccinella septempunctata* Linnaeus ナナホシテントウ。

46. *Coccinella transversoguttata* Fald. = *C. explanata* Miyatake ココノホシテントウ。

47. *Epilachna* 26-*maculata* Motsch. オオニジュウヤホシテントウ。

1876. E. v. Harold. Bericht über eine Sendung Coleopteren aus Hiogo.

Abhandl. Nat. Ver. Bremen, V; 115-135.

T. Lenz の採集品に基づいて Harold が1875年に発表した論文の第2報である。全部で49種記録され、うちに1新属、3新種の記載がある。産地は表題のごとく Hiogo (神戸) である。テントウムシは2種記録されている。

p. 135. 48. *Coccinella Bruchi* Mull. = *C. septempunctata* Linne ナナホシテントウ。

49. *Chilomenes quadriplagiata* Swarte = *Meno-chilus sexmaculatus* (Fabricius) ダンダラテントウ。

1879. Heyden, L. Die Coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875.
Deut. Ent. Zeit., XXIII, Heft. II; 321-365.

本篇は Prof. Dr. Rein John J. の日本での採集品のうち甲虫類のみを同定した報文である。

Dr. Rein は明治8, 9年の2年間、東京ドイツ大使館の顧問として日本に滞在、その間漆器や陶磁器、製紙等について調査する一方、前後6回にわたり日本の本州、四国、九州を丹念に歩いて昆虫各目の採集をした。6回の採集で235日を費やしていると、そのうち2回神戸での採集があるが、いずれも時期が良く6, 7, 8月の昆虫最盛期を神戸で採集されたので、この報文に報ぜられた日本産昆虫類152種のう

* 兵庫県甲虫相資料-359

ち兵庫県からの記録は66種で、一番多く記録している(もっとも Lewis 等の記録も含んでいる)。テントウムシは残念ながら1種しか記録されていない。

p.365. 148. *Coccinella Brucki* Mulsant = *Coccinella septempunctata* Linne ナナホシテントウ, Hyogo.

1879. Lewis, G. On certain new Species of Coleoptera from Japan.

Ann. Mag. Nat. Hist. V(5):459-467.

表題のごとく日本産甲虫類26新種の記載であるが、兵庫県からの記載が6種あり、テントウムシは1新種が記載されている。

p.466. *Novius concolor* Lewis = *Rodolia* アカイロテントウ, Hiogo, Maiyasano temple, from which I possess a series.

1887. Schönfeldt, H.V. Catalog der Coleoptern von Japan mit Angabe bezüglichlichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.

Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde, 40:31-204.

今までの日本から記録された甲虫類のリストで、原記載名も一緒に示している。この目録での新種記載というのではない。記録された種が現在の知見では学名が変わらなくてはならないものを整理して、シノニムで消えるもの等もある。Hiogo, Kobe の産地の書かれているテントウムシは8種ある。

p.192. *Coccinella septempunctata* L. ナナホシテントウ, Japan, Kiushiu, Mino, Hiogo.

p.193. *C. transversoguttata* Fald. = *C. explanata* Miyake ココノホシテントウ, Hiogo.

C. (Ptychanatis) axyridis Pall (1773) = *Harmonia axyridis* (Pallas) ナミテントウ, Hiogo.

Halysia (Calvia) quindecimguttata Fabr. = *Illes koebelei* Timberlake キイロテントウ, Hiogo, Echizen.

Halysia (Propylea) conglobata L. var. *fimbriata* Suez. = *Propylea japonica* (Thunberg) ヒメカメノコテントウ, Mino, Hiogo.

p.194. *Chilomenes quadriplagiata* Swartz. = *Phymatosternus lewisii* (Crotch) ヨツボシテントウ, Hiogo.

Chilocorus similis Rossi = *Chilocorus kuwanae* Silvestri ヒメアカボシテントウ, Hiogo.

p.195. *Novius limbatus* Motsch. = *Rodolia limbata* (Motschulsky) ベニヘリテントウ, Hiogo.

1896. Lewis, G. On the Coccinellidae of Japan.

Ann. Mag. Nat. Hist. Ser.6, XVII:22-41.

日本産テントウムシ科2新属, 18新種, 39既知種の記載。兵庫県産は次のごとき種が記録されており, 1新種記載を含む。

p.25. *Anisosticta kobensis* Lewis (新種) ジュウクホシテントウ, Kawasaki, near Kobe, a small series found under in September*.

p.28. *Coccinella Crotchii* Lewis = *Coccinula* マクガタテントウ, Maiyasano.

p.29. *Thea 12-guttata* Poda = *Vibida duodecimguttata* シロホシテントウ, Kobe.

p.31. *Chilomenes 4-plagiata* Schnherr = *Menochilus sexmaculatus* (Fabricius) ダンダラテントウ, Kobe.

p.32. *Sticholotis substriata* Crotch メツブテントウ, Kobe.

Sticholotis punctata Crotch ムツボシテントウ, Kobe.

p.34. *Platynaspis Lewisii* Crotch = *Phymatosternus* ヨツボシテントウ, Kobe.

p.37. *Scymnus Hareja* Weise = *Pseudoscymnus* ハレヤヒメテントウ, Kobe.

Scymnus hoffmanni Weise クロヘリヒメテントウ, Kobe.

p.40. *Rodolia concolor* Lewis アカイロテントウ, Kobe.

1897. Schönfeldt, H.v. Catalog der Coleoptera von Japan. Dritter Nachtrag.

Jahrb. d. nass. Ver. Nat. 50:99-144.

このカタログで Kobe 産テントウムシが次のごとく記録されている。これ等は1896年の Lewis の論文をそのまま引用しているものである。

p.140. *Anisosticta kobensis* Lewis ジュウクホシテントウ, Kawasaki bei Kobe, Niigata, Honjo.

p.141. *Hippodamia tredecimpunctata* Linn. ジュウサンホシテントウ, Kawasaki, bei Kobe, Nikko.

Lewis の1896年の論文によると Kawasaki and Nikko; two examples only とあり、前の種の所で Kawasaki, near Kobe とあるので Kawasaki を Kobe の近くにある地名と考えてこう記したと思われるが、ここの Kawasaki は Kobe の近くではないと考えら

*「西撰大観」によれば、川崎は湊川が海に注ぐ所、つまり湊川の先端という意味で名づけられたとある。元正八年(1580)の兵庫城築城の前からあった名前だといわれている。

れる(もっとも神戸市内に川崎町という所はあるが、Lewis が来た頃ここを川崎とっていたのかどうかよくわからない)。種から判定して神戸産でないように思われるが――。

Coccinella Crotchii Lewis = *Coccinula* マクガタ
テントウ, Oyayama, Awomori, Masasan, Sapporo.
Thea duodecimguttata Poda = *Vibida duodecim-*
guttata シロホシテントウ, Kobe, Kamiuchi,
Yokohama.

p.142. *Chilomenes quadriplagiata* Swartz = *Meno-*
chilus sexmaculatus (Fabricius) ダングラテント
ウ, Nagasaki, Kobe.

Sticholotis punctata Crotch. ムツボシテントウ,
Nagasaki, Kobe, Yokohama.

Sticholotis substriata Crotch. メツブテントウ,
Nagasaki, Kobe, Yokohama.

p.143. *Platynaspis* Lewis Crotch = *Phymatosternus*
ヨツボシテントウ, Tokio, Kobe, Yokohama.

Scymnus Hareja Weise = *Pseudoscyrmnus* ハレヤ
ヒメテントウ, Hagi, Mayasan bei Kobe.

Scymnus Hofmanni Weise クロヘリヒメテントウ,
Kobe, Yokohama, Nagasaki.

p.144. *Rodolia concolor* Lewis アカイロテントウ,
Kobe, Nara.

1902. 大上宇一 播磨産甲虫報知.

動物学雑誌14(167);344-348.

テントウムシ科は次のごとく記録されている。全
部和名だけの記録であるから、1種についてはどの
ような種に当たるのかかわからないのがある。

p.344. 216. テントウダマシ=ニジュウヤホシテント
ウ

217. シロホシテントウムシ. 218. コシロホシテン
トウムシ?. 219. ナナホシテントウムシ. 220. マ
クガタテントウムシ. 221. ヒメカメノコテントウ.
222. キイロテントウ. 223. カメノコテントウムシ.
224. オホテントウムシ=オオテントウムシ. 225.
アカホシテントウムシ=アカホシテントウ. 226.
ヒメアカボシ=ヒメアカホシテントウ. 227. コク
ロテントウムシ=コクロヒメテントウ. 228. アト
ボシテントウムシ=フタモンクロテントウ. 229.
テントウムシ.

1907. 大上宇一 播磨産甲虫類(承前)

昆虫世界11(118);243-245.

次のテントウムシ類が記録されている。ただし詳
しいデータその他は全くついていない。

p.245. 283. ナナボシ (*Coccinella 7-punctata* L.) =
Coccinella septempunctata Linne ナナホシテント
ウ

284. 大白星 (*C. 12-maculata* G.) = *Vibida*
duodecimguttata (Poda) シロホシテントウ

285. ヒメアカボシ (*Chilocorus similis* Rosusi) =
Chilocorus kuwanae Silvestri ヒメアカボシテン
トウ

286. アカボシ (*C. tristis* Fald.) = *Chilocorus ru-*
bidus Hope アカホシテントウ

287. テントウ (*Ptychanatis axyridis* Pallas) =
Harmonia axyridis (Pallas) ナミテントウ

288. アトボシ (*Cryptogonus orbiculus* Gyll.) =
Cryptogonus arbiculus (Gyllenhal) フタモンクロ
テントウ

289. 大テントウ (*Synonycha grandis* Thub.) =
Synonycha grandis (Thunberg) オオテントウ.

290. テントウダマシ (*Epilachna 28-maculata*
Mots.) = *Epilachna vigintioctopunctata* (Fabri-
cius) ニジュウヤホシテントウ

291. シロボシ (*Vibibia 12-gutta* Poda) = *Vibida*
duodecimguttata (Poda) シロホシテントウ

292. カメノコ (*Ithone hexaspilota* Hope) =
Aiolocaria hexaspilota (Hope) カメノコテントウ

293. ヒメカメノコ (*Propyrea conglobata* L.) =
Propyrea japonica (Thunberg) ヒメカメノコテン
トウ

294. コグロテントウ (*Scymnus hiliaris* Motsch.)
= *Scymnus posticalis* Sharp コクロヒメテントウ

295. ベニヘリ (*Novius limbatus* Motsch.) = *Ro-*
dolia limbata (Motschulsky) ベニヘリテントウ

296. マクガタ (*Coccinella crotchii* Lew.) = *Co-*
ccinula crotchii (Lewis) マクガタテントウ

297. カメノコ (*C. japonica* Thunb.) = *Propyrea*
quatuordecimpunctata (Lewis) コカメノコテント
ウ

298. キイロテントウ (*C. 10-punctata* Var.?) =
Illies koebelei Timberlake キイロテントウ

299. 大二星 (*Scymnus* sp.?) = *Hyperaspis japo-*
nica (Crotch.) フタホシテントウ

1922. 栗崎真澄 日本産ナナホシテントウ属に就き て.

動物学雑誌 XXXIV;534-544.

次の兵庫県産の記録がある。

p.536-537. 2. *Coccinella 7-punctata* Linn. var.
Brensk Mus. オホナナホシテントウ.

- 産地。九州,本土(笑面,兵庫)とある。ナナホシテントウに扱っていいと考える。
- p.539. 8. *Coccinella transversoguttata* Fald. クロオビテントウ
- 産地。北海道(函館,札幌),本土(新潟,兵庫)とある。*C.explanata* Miyatake ココノホシテントウのことであると考える。
1929. Ohta, Y. Symninen Japans
Ins. Mats., 4(1/2);1-16.
日本産ヒメテントウ族の1新属, 1未記録属, 11新種, 1新亜種, 10異常型の記載。兵庫県産は2種3新異常型が記録されている。
- p.3. *Pullus niponicus* Lewis ab. *munagronis* Ohta, Takasago.
Pullus niponicus Lewis ab. *nigriceps* Ohta, Takasago.
ともに *Scymnus* (*Neopullus*) *fuscatus* Boheman カバイロヒメテントウのことである。
- p.8. *Pullus hiliaris* Motsch. ab. *awanus* Ohta = *Scymnus* (*Pullus*) *ishihai* M.Araki コクロヒメテントウ, Takasago.
1931. 福貞正三 カメノコテントウに就いての小観察。
関西昆虫学会々報 (2);134.
兵庫県猪名川軍行橋付近の柳の木での観察。
1936. 田中喜洋 長田・名倉(神有電鉄長田)付近の甲虫分布。
Nature(神戸二中博物研究会々誌)(4);27-30.
神戸電鉄の長田駅付近の甲虫の記録であるが和名のみである。現在はすっかり変わってしまったので当時を知る者としては感無量である。テントウムシ科として次の4種が記録されている。テントウムシ, ナナホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ。オオニジュウヤホシテントウのこの地方での産には若干問題がありそうに思われる。
1936. 戸澤信義 紫水遺稿, 別巻。
芝川家所蔵昆虫標本目録 A5,333p.
芝川又之助のコレクション目録で, 鈴木元次郎, 福貞正三, 玉沢修三郎に戸澤信義がまとめられたもので, 全体からすれば2,380種が収録されていることになる。産地の記入されていない種もある。兵庫県産としての記録がある種が56種ある。うちテントウムシ科は5種記録されている。
- p.79. 651. *Harmonia axyridis* Pallas テントウムシ = *Harmoni axyridis* (Pallas,1773) ナミテントウ, 須磨。
653. *Propylea conglobata* Linnaeus ヒメカメノコテントウ = *Propylea japonica* (Thunberg,1781) ヒメカメノコテントウ, 須磨。
654. *Chilocorus similis* Rossi ヒメアカホシテントウ = *Chilocorus kuwanae* Silvestri,1909 ヒメアカホシテントウ, 須磨。
656. *Novius limbatus* Motschulsky ベニヘリテントウ = *Rodolia limbata* (Motschulsky,1866) ベニヘリテントウ, 須磨。
- p.80. 660. *Epilachna nipponica* Lewis オオニジュウヤホシテントウ = *Epilachna nipponica* Lewis オオニジュウヤホシテントウ = *Epilachra vigintioctomaculata* Motschulsky,1857 オオニジュウヤホシテントウ, 甲東園。
1939. 安谷英也 瓢虫科の翅鞘に現れた斑紋の左右不相稱変異。
昆虫界 7(68);618-619.
神戸産ヒメカメノコテントウ, ナナホシテントウの斑紋の変異。
1940. 高橋寿郎 神戸再度山附近産の甲虫目録(2)。
昆虫世界 44(511);76-79.
表題のごとく再度山付近の甲虫目録で, テントウムシ科は次の10種を記録(学名の変わるものあり)。シロホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, アトホシヒメテントウ, ムヂテンタウ=アカイロテントウ, オホニジュウヤホシテントウ, ニジフヤホシテントウ, ナナホシテントウ, テンタウムシ=ナミテントウ, ベニヘリテントウ, ヒメアカホシテンタウ。
上記のうちオオニジュウヤホシテントウは同定誤りである。
1940. 高橋寿郎 神戸産甲虫雑記(4)
観察 (1);4-6.
本報文においてオオニジュウヤホシテントウは神戸に産しないだろうとの考えを述べた。
1941. 増田 寛 ナナホシテントウ新異常型二種に就いて
昆虫界 9(84);65-66.
神戸産(高取山産)ナナホシテントウにおける斑紋変異について, 異常型として命名しているが異常型

として変異の巾の中に入るもの。

1941. 増田 猛・橋本直也 一中附近の昆虫。

A5,39p.(孔版・単行本)。

神戸一中(現神戸高校)付近産の蝶と甲虫の目録である。データは無い。同定の誤りもあるようだし現在の知見からかなりの学名の変更などもある。テントウムシ科は14種記録されている(p.6-7)。

シロホシテントウ, クロヒメテントウ, クワナヒメテントウ(学名からフタホシテントウ), ヒメカメノコテントウ, テントウムシ(=ナミテントウ), ナナホシテントウ, アカイロテントウ, キイロテントウ, ニジウヤホシテントウ, ハラグロオオテントウ, ヒメアカボシテントウ, ベタリヤテントウ, アカヘリテントウ, ベニヘリテントウ(学名から一つ前のアカヘリテントウもこのベニヘリテントウと同じ)。

1943. 高橋寿郎 神戸沿線甲虫相(三)。

昆虫世界 47(545);12-15。

テントウムシ科の13種の記録をしている。データはつけてない。シロホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ヨツボシテントウ, ベタリヤテントウ, アトホシヒメテントウ(=フタホシテントウ), ムデテントウ(=アカイロテントウ), オオニジウヤホシテントウ(?), ニジウヤホシテントウ, ナナホシテントウ, テントウムシ(=ナミテントウ), ベニヘリテントウ, ヒメアカボシテントウ, ジュウロクテントウ(=ジュウロクホシテントウ)。

1950. 樋口繁一・橋本一廣・山田重次 有馬郡の甲虫。

有馬郡生物誌(兵庫県立有馬高等学校普通科生物教室刊);117-124。

次のテントウムシ科の記録あり(データなし。現在の呼称に変えて記す。学名など訂正を要するものあり)。

p.119. ジュウニホシテントウ(=シロジュウニホシテントウ), キイロテントウ, アカボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ナナホシテントウ, トホシテントウ, ニジウヤホシテントウ, テントウムシ(=ナミテントウ)の8種。

1955. 安江安宣 近畿西部におけるニジウヤホシテントウの分布地の新記録。

昆虫 23(1);41。

加古川～氷上郡にかけての分布。

1955. 近畿甲虫同好会編 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編・増補改定版。274p.68Col.pl. (保育社・大阪)

兵庫県産テントウムシ次の図説あり(テントウムシ科担当 中根猛彦博士)。

pl.40,f.912,p.129. ニジウヤホシテントウ, 六甲山。f.921,p.130. マクガタテントウ, 伊丹。f.936,p.131. ハラグロオオテントウ, 西宮。f.937. オオテントウ, 谷上。

1956. 高橋寿郎 きれいな甲虫。

兵庫県生物誌 pp.58-61。

(兵庫県生物学会編・神戸新聞社刊)

ジュウクホシテントウについて解説。

1958. 高橋寿郎 兵庫県産テントウムシ類。

兵庫生物 3(4);258-264,305。

当時の知見による兵庫県産テントウムシ類のまとめを発表した。現在の知見からすれば同定の誤りとか学名が変わるものなどがあるし、神戸市中心のまとめであるから分布などもっと広く詳しくわかっていて、記録した種は次のとおりである。

オオニジウヤホシテントウ, ニジウヤホシテントウ, トホシテントウ, ベタリヤテントウ, アカイロテントウ, ベニヘリテントウ, アミダテントウ, キアシクロヒメテントウ, コクロヒメテントウ, アカスジヒメテントウ(=カバイロヒメテントウ), オオヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, キアシヒメテントウ(=ハレヤヒメテントウ), ウスフタホシテントウ(=フタホシテントウ), ヨツボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, アカボシテントウ, オオテントウ, ハラグロオオテントウ, カメノコテントウ, マクガタテントウ, ナナホシテントウ, クロオビテントウ(=ココノホシテントウ), テントウムシ(=ナミテントウ), シロジュウゴホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ウスキホシテントウ, ウンモンテントウ, ジュウロクテントウ(=ジュウロクホシテントウ), キイロテントウ, ジュウクホシテントウ, シロホシテントウの32種。

1958. 山本義丸 兵庫県氷上郡昆虫目録。

兵庫県立柏原高校生物研究会 NATURA 特別号。氷上の自然, 第3集。

次のテントウムシの記録がある。

p.88-89. ニジウヤホシテントウ, オオニジウヤホシテントウ, トホシテントウ, ベニヘリテントウ, アカヘリテントウ, ヒメカメノコテントウ, ウスフタホシテントウ, ナナホシテントウ, マクガ

タテントウ, テントウムシ, ウスキホシテントウ, シラホシテントウ, キイロテントウ, ハラグロオオテントウ, カメノコテントウ, ヒメアカボシテントウ, アカボシテントウ, クビアカヒメテントウ, コクロヒメテントウ, キアシヒメテントウ, アカスジヒメテントウの21種.

1959. 堀田 久 淡路島産甲虫目録(2).

兵庫生物 3(5);376-378.

テントウムシ科として, ナナホシテントウ, テントウムシ(=ナミテントウ), ヒメカメノコテントウの3種の記録.

1960. 須原ひでみ 妙高山採集記.

Natura (17);23-24.

ナミテントウ, ハラグロオオテントウの記録あり.

1960. 村上雅昭 扇ノ山の甲虫.

Natura (17);33-35.

ナミテントウ, ニジュウヤホシテントウの記録.

1960. 高橋 匡 水上郡昆虫目録追加(第1報).

Natura (17);100-105.

ヨツボシテントウ, シロジウゴホシテントウ(春日町), ジウロクテントウ(山南町), ベタリアテントウ(柏原駅), アカスジヒメテントウ(青垣町, 水上町)の記録あり.

1961. 高橋寿郎 兵庫県産テントウムシ類(第2報).

兵庫生物 4(2);108,96.

兵庫県産テントウムシ類の追加種として次の記録をした. アカヘリテントウ, シロジウホシテントウ, クロツヤテントウ, ツマフタホシテントウ, ダンダテントウ, ヨツボシテントウ, 他に学名変更とか産地追加をも加えた.

1961. 足立 勲 扇ノ山採集記.

Natura (18);29-35.

オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウの記録.

1962. 甲虫班 六甲山系甲虫類目録(II).

Shida(兵庫県立長田高校生物部)(10);11-20.

テントウムシ科10種の記録.

ベニヘリテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, キイロテントウ, ヒメカメノコテントウ, カタボシテントウ, シラホシテントウ, ヒメアカボシテ

ントウ, ウスモンテントウ, ニジュウヤホシテントウ.

1963. Araki, M. Descriptions of four new species of the genus *Scymnus* from Japan. (Coleoptera :Coccinellidae).

Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ., 3(5)A;251-255. p.253-255, fig.

Scymnus (*Scymnus*) *nakanei* M.Araki ナカネヒメテントウ

大台ヶ原, 篠山産でもって新種記載されている. 現在 *Pseudoscymnus* 属.

1963. 辻 啓介 但馬扇ノ山甲虫目録(1).

兵庫農大生物研究部々誌 (3);24-47.

扇ノ山でのテントウムシの記録, 10種あり. シロトホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ, ベニヘリテントウ, ヒメカメノコテントウ, ナナホシテントウ, テントウ, キイロテントウ, ウスフタホシテントウ, コクロヒメテントウ.

1963. 高橋 匡 出石郡昆虫目録第1報.

VITA (1);1-34. (ref.p.22-23)

(兵庫県立出石高等学校科学部生物班刊)

次のテントウムシの記録がある.

オオニジュウヤホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, コクロヒメテントウ, セスジヒメテントウ, クロヘリヒメテントウ, フタホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, ナナホシテントウ, マクガタテントウ, テントウムシ, シロジウシホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウ, シロホシテントウ, ウスキホシテントウ.

1965. 昆虫班 西脇・多可八千代昆虫目録.

会報(西脇自然同好会)1(1);46-58. (ref.p.53). テントウムシ8種の記録.

ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ナナホシテントウ, テントウムシ, オオテントウ, カメノコテントウ.

1970. 仲田元亮 能勢の昆虫(甲虫)

B5,107p.自刊.

テントウムシは次の9種が記録されている. テントウムシ, ナナホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, ヨツボシテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウ, フタモンク

ロテントウ, ジュウロクテントウ.

1970. Miyatake, M. The East-Asian Coccinellid-Beetles Preserved in the California Academy of Sciences, Tribe Chilocorini.

Mem. Coll. Agric. Ehime Univ. 14(3);19-56.
 標題のごとく California Academy of Sciences 所蔵の Chilocorini 族の東亜産テントウムシの分類学的研究であるが, 次の兵庫県産の種の記録がある.

p.318-319. *Chilocorus rubidus* Hope アカホシテントウ

lex., Kobe, Harada, Japan, VIII.31.1911. lex., (f. *fenestratus* Weise) Harima, Japan, V.1916. Van Dyke in California Academy Science.

p.327-329. *Chilocorus kuwanae* Silvestri ヒメアカホシテントウ

lex., Kobe, Harada, V.8.1909, J.C.Tompson. 2exs., Awajishima, VI.17.1909, Thompson. lex., Kobe, VI.1910, Thompson(?).

1971. Sasaji, H. Fauna Japonica, Coccinellidae. (Insecta: Coleoptera). 340p. 16 Col. plats.

日本産テントウムシ科の総説である. この中で次のごとく兵庫県産の記録が収録されている.

p.155-156. ツマアカヒメテントウ (Hyonosen)

p.156-158. ニセツマアカヒメテントウ (Hyonosen)

p.161-162. ナガヒメテントウ (Hyonosen)

p.248-249. ジュウクホシテントウ (Kobe)

p.259. ウスキホシテントウ (Mt. Rokko)

p.284. クロスジチャイロテントウ (Nishinomiya)

1972. 辻 啓介 兵庫県からの新しい甲虫 その1. 兵庫生物 6(3);243.

Serangium punctum Miyatake, 1963 ズグロツヤテントウ 扇ノ山, 1♀, 11.VI.1961 の記録.

1972. 辻 啓介・岸田剛二 但馬扇ノ山の甲虫目録. 「扇ノ山周辺の動物(I)」 B5, 48p.

(兵庫県自然保護協会調査資料第1集)

扇ノ山産の次のテントウムシ13種の記録がある (p.33-34, 46).

トホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, ベニヘリテントウ, コクロヒメテントウ, ウスフタホシテントウ, ズグロツヤテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, シロホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウ, ニジュウヤホシテ

ントウ, ヒメアカホシテントウ.

1973. 高橋寿郎 兵庫県産甲虫相資料-38 1972-1973年度採集の記録を中心として.

MDK NEWS 25(2);13-16.

テントウムシが次のごとく記録されている.

ムクゲチビテントウ, クロツヤテントウ, クロジウニホシテントウ, ムツボシテントウ, トビイロヒメテントウ, アカヘリテントウ, アラキシロテントウ.

1973. 宮武睦夫・古木芳枝ほか 本四架橋ルートの島々の昆虫相.

本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書 p.153-198.

学術調査編(動物部門)財団法人国立公園協会.

p. 187-188.

テントウムシ科次のとおり記録(淡路島からの記録).

クロツヤテントウ, ハレヤヒメテントウ, オニヒメテントウ, カワムラヒメテントウ, コクロヒメテントウ, *Scymnus* sp., クロヘリヒメテントウ, フタホシテントウ, クロテントウ, ヒメアカホシテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ムーアシロホシテントウ, ナミテントウ, キイロテントウの15種.

1974. 畑中 熙・辻 啓介 家島の甲虫ノート.

きべりはむし 2(2);22.

ナナホシテントウの記録.

1974. 高橋寿郎 風物誌(137) 甲虫(続).

山陽ニュース (295);13.

次のテントウムシについて解説.

ベタリヤテントウ, ナミテントウ, ナナホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, カメノコテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ.

1974. 高橋寿郎・辻 啓介 中国山脈東端の甲虫相. 東中国山地自然環境調査報告 pp.173-233

(ref.p.211-212).

テントウムシ類次のように記録. 産地は矢粟郡音水, 赤西, 養父郡氷の山, 美方郡扇の山.

ムクゲチビテントウ, クロツヤテントウ, ツグロテントウ, ムツボシテントウ, ハレヤヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, セスジヒメテントウ, トビ

イロヒメテントウ, ツマアカヒメテントウ, ニセツマアカヒメテントウ, カワムラヒメテントウ, ナガヒメテントウ, クロヒメテントウ, オオサカヒメテントウ, コクロヒメテントウ, フタモンクロテントウ, フタホシテントウ, ツマフタホシテントウ, アミダテントウ, ヨツボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ベニヘリテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, シロトホシテントウ, シロジュウシホシテントウ, シロジュウゴホシテントウ, ウンモンテントウ, テントウムシ, ダンダラテントウ, カメノコテントウ, キイロテントウ, シロジュウニホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ.

1974. 芳賀 馨 テントウムシの大群を目撃.

昆虫と自然 9(14);8.

東灘区での観察.

1974. 宮武睦夫・古木高枝ほか 本四架橋ルートの島々の昆虫相.

本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書(その2) 学術調査編・動物部門;75-96.

淡路島より次のテントウムシの記録.

p.動物88. ムモンヒメテントウ, ベニヘリテントウ, ニジュウヤホシテントウ.

1975. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1・2報).

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊 B5,66p.

但馬地方産テントウムシ, 次のごとく記録あり(p. 15-16).

トホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, コクロヒメテントウ, チビクロテントウ, ヒメアカボシテントウ, アカボシテントウ, カメノコテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, ウスキホシテントウ, シロトホシテントウ, ウンモンテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウ, シロホシテントウの16種.

1975. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報).

兵庫県立豊岡高等学校生物教室 B5,24p.

但馬地域産テントウムシ.

アミダテントウ, セスジヒメテントウ, ウスフタホシテントウ, ムツボシテントウ, ヨツボシテントウの5種記録.

1976. 奥谷慎一 広域基礎林道予定地域自然環境調査報告書・IV昆虫類調査.

(兵庫県農林部治山課)

I. 播但基幹林道 テントウムシ科(担当 遊磨正秀).

ベニヘリテントウ, トホシテントウ 2種の記録.

II. 播磨中部高原・広域基幹林道(担当 高橋寿郎)

テントウムシ科

ハレヤヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, アトホシヒメテントウ, コクロヒメテントウ, オオサカヒメテントウ, フタホシクロテントウ, フタホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, ベニヘリテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ウンモンテントウ, テントウムシ, カメノコテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオテンノウの18種記録.

1976. 高橋寿郎 淡路島の甲虫相.

PARNASSIUS (16);3-9.

淡路島特産テントウムシとしてムモンヒメテントウ, オニヒメテントウを記録.

1976. 堀田 久 先山の昆虫相(I).

PARNASSIUS (16);11-32.

テントウムシとしてハレヤヒメテントウ, カワムラヒメテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウ, ムモンヒメテントウ, ベニヘリテントウの7種記録.

1976. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報).

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊 p.9.

フタホシテントウの記録(竹野).

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

私の昆虫採集記(2)¹⁾

高橋 寿郎

引き続き私の昆虫採集記といった駄文を発表していただきたい。主として甲虫主体の記になっているが、すっかり様相が変わってしまった所ばかりで、かつての状態は現在とはかなり違っていると思われるが、思い出として読んでいただければ幸いである。

○ 音水・赤西溪谷(穴栗郡)

音水・赤西溪谷はそれぞれ音水・赤西原始林として植物関係ではその豊富な樹相が紹介されたり、採集・調査に出かける方々も少なくない。この両溪谷は「氷ノ山・那岐山・後山国定公園」の一部として、さらには「音水深林県立自然公園」にも指定されている。ただし、この国定公園と県立自然公園は環境からして区分することは困難である。

いわゆる自然林は極めて狭小化されている。さらには観光誘致の関係からその自然状態は著しく崩れつつあり、かつての県内最深山地として広葉樹に支えられた地域もスギ、ヒノキの純林に置き換えられて豊富な昆虫相も次第にその数を減少し、様相を変えつつあることは残念である。

私はかねてからこの地での調査を考えていたが、何分にも昆虫についての調査に行かれた方が少ないことから、その昆虫相の片鱗さえも報告されたものを知らなかったので、実際に手にかけることができず(交通もそれほど良くなかったし、遠隔地でもあり)にいた。

1958年8月13日、*大倉正文氏、*河野伊三郎氏とともに初めて音水溪谷を訪れた。この時は音水溪谷の入り口にある営林署の事務所に*河野伊三郎氏が大阪で許可を得ていただいていたので、一泊させて頂いた。生まれてはじめての調査で全く様子の違う鬱蒼とした樹木の中の道を溪流沿いに渡りながら歩いた。初めてのことで、また時期的に若干遅かったのか収穫としてはあまり記憶に残るような思い出はない。翌年、即ち1959年7月21日、こんどは*大倉正文氏と*後藤光男氏と3人で音水溪谷を訪れた。

バス停を降りたすぐそばに草むらがあり、そこでアカアシクワガタが交尾しているのを採集した。この種は県の中央部から北に多く見られる種で、瀬戸内海のような海に面した地域、或いはその近辺には見ることが出来ない種である。氷ノ山以来でうれし

かった。*後藤光男氏が薪に来ていたよといってトラハナムグリの美しいのを見せて下さった。

それから暫くこの地に行く機会がなく、1970年5月10日に行き、初めて行った頃とかなり様相が変わっていることを肌と感じた。ムツボシハムシ、ヨツキボシハムシなどを得て大いに喜んだ。その年の5月31日に行きウスバシロチョウ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、クロアゲハ、オナガアゲハなど多数いるのに出会った。実はこれが最後の採集になるかと出かけたわけであるが、そのころから体調不調にて6月26日神戸西市民病院に入院、7月10日腹部切開手術を受けた。

退院後1年間体力回復に努めるとして裏山の採集のみで過ごした。

1972年度から再度両溪谷の調査を初めてみることにした。今回からは恩恵が大学を卒業して会社勤めに出ており、フォルクスワーゲンを購入していたので、その車による調査を無理を言ってやって貰うことにした。その結果、1972から1979年にかけて13回の調査に出かけた。調査は恩恵も一緒に家族3人で全部実施した。1979年には三木 進、小倉 滋両氏の御好意で赤西溪谷へ3回、坂の谷林道へ1回つれて行って貰った。それ以外に1973年6月に一緒に坂の谷、1979年5月には赤西溪谷の入り口、原にも行った。ずっと後であるが音水の東側にある水谷に蜂谷幸雄氏につれて行って貰った。

1979年5月の赤西溪谷の入り口、原ではウスバシロチョウの最盛期であって、あちらこちらとウスバシロチョウの多いのに驚いた。採集もくたびれるほどであった。この時期、音水・赤西でもウスバシロチョウは多く見ることが出来た。坂の谷も氷ノ山々麓になる関係で結構面白いものが採集できた。1979年7月22日には小倉 滋氏がオオチャイロハナムグリ、ヒメオオクワガタを採集、三木 進氏はヒゲジロホソコバネカミキリ、タカサゴシロカミキリ、キモンカミキリ、オニグルミノキモンカミキリ等々を採集、私もコブヤハズカミキリ、*Sericania*属コガネムシを数種採集、オオキバハネカクシがヒラタケのまわりを群飛する光景に思わず息をのんだ思い出がある。

音水溪谷、赤西溪谷とも巨大なカエデ、ミズキなどの樹に花が咲く頃は、カミキリムシが多数やってくるのであるが、樹が高いので特別製の長い捕虫網

1) 兵庫県甲虫相資料-360

* 故人

でない花にまで届かなく採集は困難である。

次々と樹を伐採しているらしく切り倒された樹のある所にはカミキリムシ、ゾウムシ、タマムシなどが集まっており、恰好の採集場所であるが、一方ではこのような伐採が行われているということはこの付近の荒廃に役かっているわけで非常に残念に思われる。赤西溪谷ではタマムシの新種も多く得られており、遠山雅夫氏は私にちなんでタカハシナガタマムシの記載もして頂いた。小型のハネカクシとかアリツカムシ類もかなり新種が得られているようで、次々記載が行われている。とにかくまだまだ名前がつけられていない甲虫類の出現も期待できる。

ルリボシカミキリ、クスベニカミキリ、オオトラフハナムグリ、トラハナムグリ、ムラサキツヤハナムグリなども多い。ゲンジボタル、ヒメボタル、ヘイケボタルもいる。ミズキの樹であろうかハサミツノカメムシが採集できたし、ベニツチカメムシ、アカスジキンカメムシなども得ている。

最近、坂の谷でミヤマオオハナムグリが採集されている。ただ初めに記したごとく、次々と伐採は行われており、かなり植相も変わってきているので次第に昔の姿をなくしつつあることは事実である。保護対策など立てているのかどうか、貴重な自然林であるだけに注意深く対処して貰いたいものである。

この地域の甲虫相はその一部を兵庫生物誌上に発表しているし(Vol.7, No.1, pp.39-41, 1975)、最近一応のまとめを“てんとうむし”に発表すべく原稿第一報を送っている。

○ 笠形山(神崎郡)

神戸生物クラブの昆虫指導のお手伝いをさせて貰っており、1964年その鑑定会の席上で*猪股涼一博士とお会いして笠形山のアカマダラセンチコガネ採集のニュースをお聞きして、その標本を見せて頂きたく1964年12月13日の夜、*大倉正文氏と同行、同博士宅(清荒神)にお伺いした。そこでの虫談の中で西脇にギフチョウが多いので来年ともに行きましようという話になった。当時*猪股博士によると西脇では時期が良ければ桜の花が散るようにギフチョウの群飛が見られるとのことであった。そこで1965年4月11日、西脇にギフチョウ採集となった。*猪股博士以外に西脇高校にお勤めであった岡本 清先生(東京農大卒)並びに西脇高校生数名とこちらは*大倉正文氏と私というメンバーでギフチョウを求めて出発したが、当日生憎天候が悪く途中で雨が降りだし寒く、ギフチョウどころかといった状況、河原で焚き火をする始末で散々で引き上げたがそこでアカマダラ

センチコガネがとれている笠形山を案内しようという話を持ち上がった。

1966年6月12日、はじめて岡本 清先生、*猪股涼一博士の案内で*大倉正文氏と私、それに西脇高校生の方と笠形山登山をした。日曜日のこととて登山者が結構多く、採集好地点が見つからずほぼ登山に終始してしまった。この山では岡本 清・*猪股涼一両先生によりアカマダラセンチコガネが採集されている。県下での記録はこの地以外に多可郡三国岳があるだけである。兵庫県下での記録はこれだけである。もっとよく調べて見なくてはいけない虫である。また、キベリハムシを多産することが岡本 清先生によって確かめられている。

1975年6月12日、*大倉正文、*石田 裕氏と再び出かけたが、あまり面白いものが今回も得られなかった。私はウンモンテントウを採集し、石の下からオオキイロコガネを得たぐらいであった。

1976年11月6日にはオサムシ掘りに出かけた(クロナガオサムシがいるとの情報を尾崎 勇氏より貰っていたので)。結果はクロナガオサムシは得られなかった。マヤサンオサ、オオオサ、マイマイカブリが得られたぐらいである。はじめのべたようにこの山はもっとゆっくり調べて見なければいけないと思いつつも現在に至っている。最近山麓地あたりでは開発が進んでいて、夏のキャンプとか貸別荘のようなこともやっているようで意外とこの山もかつての虫相とは変わってきた、否変わりつつある山のようなのである。

○ 千ガ峰・三国岳(多可郡)並びにその近傍地域

1974年、播但基幹林道予定地域の自然環境調査が始まった。神戸大学の奥谷禎一博士から連絡があり、播但基幹林道(峰山、砥峯高原の湿原、福知溪谷、須留ヶ峰)の調査は遊磨正秀博士がされ、播磨中部高原広域基幹林道(千ガ峰並びにその近傍、加美町三谷、市原及び鳥羽地域)を私が調べることになった。

この地域は播但基幹林道よりも低山であり、自然林も少ないので、もっぱら山麓地域を中心として調査を行った。特に鳥羽から三谷にかけての地域は糞虫類が豊富で、オオセンチコガネが佃煮にするくらいたくさんいたといった夢のような話が猪股博士、岡本 清先生の記に出ていた(兵庫の自然, p.81, 1960)。私が調査に向かい驚いたことは農村における牛馬の飼育がごく一部の牧場にあるだけで、機械化による農耕から一般的家庭における牛馬の飼育はほとんど見られない状況になっていた。従って、三谷にある牧場がその中でも唯一の拠り所となった。

私はこの調査に加美町三谷地域に1974年2回、1975年9回、1976年1回の調査に出かけた。

この調査地域の一番北の地点になる三国岳(855m)でアカマダラセンチコガネが1頭採集されている。

この虫は県下で笠形山から2頭記録がある以外、全く知られていない珍品である。糞虫類は少し前まではごく普通に見られたのであろうが、私の調査に行った頃はそれほど普遍的には見られなかった。ただ三谷にある牧場ではダイコクコガネ、ゴホンダイコクコガネ、オオセンチコガネはかなりたくさん採集できた。この牧場も閉鎖されてしまったとか、現在他に牧場のようなものがあるのかどうか知らないが、糞虫類をこの地域で見ることは大変困難になってしまっているのではないだろうか。樹木類も杉の樹が多く見られるが、常緑樹などがあまり見られない淋しいもので、昆虫類にとってはあまり特色の見られない地域のように思われる(三谷の奥で杉の伐採が行われており、美しいマダクロホシタマムシが多くいたのはうれしかった)。一応、この地域の甲虫類は58科496種をまとめることが出来た。

(この地域の調査結果は奥谷禎一博士により兵庫県農林部治山課より「広域基幹林道予定地域自然環境調査報告書、1976」として発表されている)

○ 砥峯地区(神崎郡)

神崎郡大河内町犬見川揚水発電所予定地の昆虫相調査として砥峯地区、太田池地区の調査依頼を奥谷禎一博士から受けた。ダム建設のために水没する地域の大部分は杉の植林地帯で、自然植生の多いのは砥峯高原、福知溪谷にかけての地域で、そのあたりはダム建設には直接関係のない地域なので、自然破壊はある程度免れるかと思われる。

私は1977年に10回(5-9月)、愚妻と一緒に調査採集に主として砥峯を中心に受けた。とにかく始めていく地であるから、採集ポイント探しに苦労する。川上の部落でハラグロオオテントウに出会ったのは幸運であった。とにかくびっくりするほどの個体に出会った。この種がこんなに多くいるなんて私の採集歴の中にはないことで、大変興奮した(ハラグロオオテントウのこの地での状況は次のようであった。5月14日野外ではじめて発見、5月21日交尾状態のものを多く見る。6月18日蛹が多くあるのが目につく。7月2日羽化したものが多くいる。また蛹も見受けられる。8月6日孵化直後のような柔らかな個体もいた。9月3日野外で成虫が見られなくなった。砥峯の頂上高原のススキにはクロルリトゲハ

ムシも多くいる。この種も県下でこのように多くいる所は知られていないと考える。頂上で歩行中のアキオサを得たほか、オサムシはマヤサンオサぐらいしか採れなかった。もっといっても不思議ではなかったのに、砥峯に至る途中、ルイスクビナガハムシが1頭だけだが得られた。もっといっても不思議ではない環境だが、キムネナガツツハムシも得られた。麓の方にはムツキボシハムシもとれた。チュウゴクオオネクイハムシは砥峯高原に特産しているのかと思っていたが、最近養父郡大屋町加保坂にも記録がある。砥峯高原に至る登り道は両側にそれほど樹木なども多くない道で、登るのにそれほど苦労しない。砥峯高原は雄大でハナショウブがたくさんあり、それが咲く頃(6月下旬)は実に美しい光景である。だが何分にも標高がそれほど高くない(972メートル)、樹相もそれほど豊富とまでいえない関係で、昆虫相も但馬地域などと比べるとやや少ないような印象を受ける。しかし、ミヤマカラスアゲハ、カラスアゲハ、クロアゲハ、オナガアゲハ等の大型アゲハをたくさん見ることが出来る。砥峯から福知溪谷への方が面白そうに思われた。一応この度の調査で甲虫類は47科353種を記録できた(奥谷禎一、大河内町犬見川揚水発電所予定地の昆虫相。大河内地点自然環境実態調査報告書、p.42-62,1978に収録)。

○ 神戸市北区山の街、藍那地域 山の街

かつて私が日曜日毎のように採集に通っていた山の街は僅かばかりの樹木はあるが、一面田畑で池があり全くの農村地帯であった。今の山の街の様相は全く違ってしまっている。かつての面影の片鱗もなく開発がいかに恐ろしいものか、ただただ昔を知っているものは啞然として言葉にもならない。

戦前、私の家のそばに蝶を集めている小学校の教頭先生がいた。機会がありお伺いして標本を見せて頂くことが出来た。大きな箱にギッシリとオオムラサキが詰まっていた。どこで採集になられたのかと尋ねても産地を教えてくれなかった。しつこく聞くものだからしぶしぶと山の街だと教えてくれた。

山の街の駅を下車し西へ十分足らず行くと、アベマキの相当大きなのが十数本あり、七月ともなればアベマキの梢近くを数多くのオオムラサキが強く高く旋回する。とにかく個体数の多いことは蝶仲間には知られた産地であった。

池にはタガメ、ゲンゴロウが多くいた。トンボも結構多く、この池で採集したトンボを朝比奈正二郎博士に送ったところ大変喜ばれた。クヌギの樹には

カナブン、アオカナブン、クワガタムシ科のヒラタクワガタ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタなどがわりと多くいた。だが何といてもオサムシである。マヤサンオサムシ、オオオサムシはいやになるほど掘り出すことが出来た。クロナガオサムシも多かった。この地のクロナガオサムシは細身のもので、他の地方のクロナガオサムシと若干違っている(このことは中根猛彦博士も触れられている)。私など正月の3,4日頃から雪をかきわけてオサムシ掘りに出かけたものである。今は家が建ってしまっただけでオサムシを探すことなど夢物語である。この地での甲虫相のまとめは残念ながら出来ていない。

藍那地域

藍那地域は木津とともに大昔の植物化石がすくぶる豊富なことで知られている。比較的開発の手が及ばないというか、わりと変化のない地域のように見える。私は家が近い関係もあるので、暇間をやりくりしては採集・調査に出かける。わりと広い地域で田畑も多くあり、それを囲んでの植物群落があったりで手が加わっていないだけに自然環境は良い。特記すべき種は見当たらないが、注目すべき甲虫は結構産する。

オオムラサキが多くいたようだが現在どうなっているか。オオオサムシがむやみと多い。特に春先など道路上を横切るのに多く出会う。勿論、ヤコンオサムシ、マヤサンオサムシも多い。クロナガオサムシは数が少ない。クワガタムシ科は7種を産する。オオクワガタの記録のあるのは特記ものであるが、現在いるかどうかは疑問である。ミヤマクワガタとかノコギリクワガタ、コクワガタなどの普通種が多く見られる。美しいアオマダラタマムシ、ムツボシタマムシも得られている。ヒラズゲンセイを産するのは特筆ものである。

カミキリムシでは特に珍しいものは今のところ見られていない。ハムシ科ではキベリハムシを産する。他には一般的なハムシばかりで、特筆できるような種には出会っていない。

一応、藍那地区での甲虫は48科297種を記録できているが、まだまだ調査不十分な地ではある。(藍那地域の甲虫類は私が藍那地区自然環境調査・兵庫県自然保護協会鈴蘭台支部刊、1979においてまとめを発表している。p.26-33.)

○ 神戸市兵庫区烏原貯水池畔

烏原貯水池は私の家から約20分弱歩いた所である。貯水池周辺は私の家の庭の延長のようなもので

ある。この貯水池は周囲が約2.7キロあり、四方を緑の山に囲まれて横に細長く、広大な湖のようである。掲示によると、堰堤の長さ122.42メートル、頂幅3.64メートル、高さ33.33メートル、貯水量1,315,000立方メートル、水深15.8メートル、海拔91.2メートル、明治34年6月着工、38年5月完成したものであるとのこと。烏原村は南朝年号の正平年間と伝えられるが、烏原貯水池築造のため村は明治37年に水底に没した。中央部が水没したときの戸数98戸、建物35棟、その時の総人口は定かでない。なお付近の樹木から採れた木皮、細木、線香の原料粉(年間二千俵)は品質優秀で、全国から引き合いがあったという。現在でも減水時には水車の石ウスが見え、かつての土橋が現れる。この貯水池を取り囲む山地は水道局の所有地が多いことから開発が抑えられていて自然環境はよい。しかし、何度かの水害で山崩れがあり、地勢が変わった箇所はある。またその為の砂防工事など一部地域の変更が行われた所もある。ただ、全般的には開発のようなことが少ないだけに自然環境は良好のように思われる。

戦前は牛の放牧のようなことを目撃したことがあるが、今はそのようなことはない。池そのものは「水と森の回遊路」が出来て若干公園化するとともに、若干の規制もでき昔のような真の自然に接することの出来ない窮屈な地になってきている。

私は1935年から時間の許す限りこの地を訪れて虫の調査、採集をやっている。60年以上もこの狭い地域での調査が出来たことは大変うれしき限りである。この地は何といてもキベリハムシの多産する地であり、かつてはオオクワガタを産したり、ヒラタクワガタの大きなものが採れたりミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタなどごく普通に採集できた。また、オオムラサキを多く産する。ただ、このことは一般にはあまり知られていないと思う。蜂谷幸雄氏が調べている。乱獲されないことを切に祈る。大型のシロスジカミキリも多いし、ホソカミキリなどオサムシトラップを設置したら多く集まってきた。春にはキバネニセハムシハナカミキリがカエデの花にワンサと集まっているラミーカミキリもいやになるくらい産する。クモガタケシカミキリとかガロアケシカミキリのような小さいカミキリムシも多い。クワカミキリ、ヤハズカミキリ、ゴマダラカミキリなども普通に見られる。春先にはヘリグロベニカミキリとかベニカミキリが多かったが、最近では少なくなってきているようである。タカサゴシロカミキリも少ないが出会うことが出来る。タマムシも多い。アオマダラタマムシも稀に出会う。オサムシで

はクロカタビロオサが山道を歩いているのに出会った。このあたりにいることは特筆ものである。オオオサムシ、マヤサンオサムシ、ヤコンオサムシ、マイマイカブリ、いずれも多い。

コガネムシ科では、アカマダラハナムグリも毎年1頭ずつぐらい採集できたが、現在は出会うことがないようである。チビコエンマコガネも犬糞の多い関係から多く見られる。アオカナブンとかカナブンはかつては極めて普通に見られたが、最近はその姿に接することは少ない。カブトムシなども最近では出会うことは少ない。ヒゲコメツキも多くいる。とにかく狭い地域であるが調査回数が多い、長年月にわたっての調査になっている。従って、街の中にある僅かな自然地のような所ではあるが、私の調べただけでも驚くほどの虫の記録が出ている。メクラカメムシ科などは宮本正一博士に送ったところ名前のついていない種がかなりあった。トラップ採集をし

たら恐らく新種が出てくることは間違いないと考えている。一応、私がこの地で調べた結果では、チョウ類で8科65種、カメムシ目20科145種、コウチュウ目71科895種である(高橋寿郎、神戸市兵庫区鳥原貯水池畔産チョウ・カメムシ・コウチュウ目目録。鳥原貯水池自然調査書、p.1-14、神戸市土木局公園部、(財)兵庫県環境科学技術センター刊、1993)。

ただ前にも記したように、公園化したことから防れる人が多くなり(それだけ汚れることにもなる)、若い人達による貯水池の密漁が横行している。また車の乗り入れが増加して暴走族までやってくる。何だか落ち着かない状況になってきて自然破壊が増加しており、いずれかつての自然は失われる運命にあるように思われる。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

ヒメアカタテハがゼニバアオイで越冬 近藤 伸一

ヒメアカタテハがゼニバアオイを食餌植物にしているのは報告(1997)したが、冬期も幼虫が食餌植物にしているのか、またこの植物で幼虫が越冬出来るのかどうか観察できていなかった。

今春、神戸市西区内でゼニバアオイに造られたヒメアカタテハの巣を見つけた。1株に終令幼虫1、亜終令幼虫2、中令幼虫1の計4匹、別の株に中令幼虫1を確認し、次週にも1終令1亜終令幼虫を観察した。これでヒメアカタテハの幼虫は冬期にもゼニバアオイを食餌植物として利用し、越冬していることが確認できた。

神戸市西区岩岡町(52340756) 1終令3中令幼虫

写真撮影 28-III-1999

神戸市西区岩岡町(52340756) 1終令1亜終令幼虫

写真撮影 03-IV-1999

ゼニバアオイは近年分布を広げ、西区岩岡町でも広い範囲でみられる。肥料を要求する植物なのか、畑の畦や水路の法面など畑地に近接した場所を好む。しかしこのような場所は作物の管理のため、他の雑草とともに刈られたり、除草剤を散布されたり、燃やされたりとヒメアカタテハの幼虫にとっては過酷な環境である。上記観察場所も、4月17日には除

草剤が散布されたようで、畦の植物はすべて枯れ、その後夏までゼニバアオイから幼虫の生育を観察することが出来なかった。

なお本年の春は、ヒメアカタテハの成虫及び幼虫を調査の度に観察することが出来た。調査場所は神戸市西区岩岡町A地区(52340756)、同B地区(5234-0767)、同C地区(52340766)で、観察結果は次のとおりである。また幼虫はヨモギから確認した。

11-IV-1999 B地区 1♀ヨモギに産卵

17-IV-1999 B地区 成虫2exs.

25-IV-1999 A地区 成虫2exs.

5-V-1999 B地区 成虫1ex.

9-V-1999 A地区 成虫1ex., B地区 成虫1ex., 終令幼虫1, C地区 3令幼虫1.

16-V-1999 A地区 成虫1ex., B地区 終令幼虫2, C地区 3令幼虫1.

22-V-1999 A地区 4令幼虫1., C地区 2令幼虫2, 3令幼虫2.

5月以降も調査の度に、成虫、幼虫は観察できたが、ゼニバアオイから幼虫を確認したのは9月5日で終令幼虫であった。

<参考文献>

近藤伸一(1997)ヒメアカタテハの食草ゼニバアオイ きべりはむし25(2):59

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町619-57)

諏訪山公園の蛾

山口 福男

神戸市中央区の諏訪山公園で1985年から1999年までの15年間に採集できた蛾について報告する。ただし、この報告は本格的な目標のもとに計画した調査結果ではなく、公園に植栽された植物を食害していた幼虫を飼育させて羽化させたり、建物や温室の中に迷い込んだもの、また街灯に集まって帰りそびれて壁に止まっていたものを拾い集めて標本にしたのを整理しただけのことである。1年だけではごく僅かの標本しか得られないが、15年も重ねると190種を超えた。種の同定は原色昆虫大図鑑(北隆館)、原色日本産蛾類図鑑(保育社)、日本産蛾類大図鑑(講談社)により絵あわせによった。絵あわせだけでは正確さにいつも問題を残しているが、今回の報告では、その大半がよく知られた普通種であり、注目すべき種は際立った斑紋をもつものであったので、あえて専門家を煩わさなかった。記載の順序や学名は「日本産蛾類大図鑑」及び「日本産蛾類大図鑑以後に公表された日本産蛾類の追加種と学名の変更(Post-MJ)」によった。括弧内は幼虫を採集した植物名である。

ハマキガ科 TORTRICINAE

- Cerace xanthocosma* Diakonoff ビロードハマキ
1990年8月
Homona magnanima Diakonoff チャハマキ
1985年10月 (ツバキ, ヒラドツツジ)
Adoxophyes sp. チャノコカクモンハマキ
1985年6月 (サツキ)
Eucoenogenes ancyrota (Meyrick) モッコクヒメハマキ
1985年6月 (モッコク)
Rhopobota naevana (Hübner) クロネハイイロヒメハマキ
1988年6月 (イヌツゲ, ネズミモチ)
Grapholitha molesta (Busck) ナシヒメシンクイ
1985年7月 (サクラ, ウメ, モモ)

ミノガ科 PSYCHIDAE

- Eumeta japonica* (Heylaerts) オオミノガ
1985年6月 (サクラ, ウバメガシ)
Eumeta minuscula Butler チャミノガ
1985年6月 (サザンカ, ジャノメエリカ)

チビガ科 BUCCULATRIGIDAE

- Bucculatrix firmianella* Kuroko アオギリチビガ

1985年5月 (アオギリ)

コハモグリ科 PHYLLOCNISTIDAE

- Phyllocnistis citrella* Stainton ミカンコハモグリ
1985年8月 (ウンシュウミカン)

アトヒゲコガ科 ACROLEPIIDAE

- Acrolepiopsis sapporensis* (Matsumura) ネギコガ
1985年8月 (ネギ, タマネギ, チャイブ)

スガ科 YPONOMEOTIDAE

- Plutella xylostella* (Linnaeus) コナガ
1985年10月 (ハボタン)
Yponomeuta vigintipunctatus (Retzius) ベンケイソウ
ウスガ 1992年6月 (オオベンケイソウ, ミセバヤ)

スカシバガ科 SESIIDAE

- Synanthedon hector* (Butler) コスカシバ
1986年7月 (ウメ, サクラ)
Melittia bombiliformis (Stoll) オオモモトスカシバ
1987年7月
Nokona regalis (Butler) ブドウスカシバ
1986年6月 (ブドウ)
Nokona pernix (Leech) ヒメアトスカシバ
1986年6月

ニセマイコガ科 STATHMOPODIDAE

- Stathmopoda masinissa* Meyrick カキヘタムシガ
1986年8月 (カキ)

ツツミノガ科 COLEOPHORIDAE

- Coleophora kurokoi* Oku キクツツミノガ
1987年7月 (キク)

キバガ科 GELECHIIDAE

- Stenolechia bathrodyas* Meyrick イブキチビキバガ
1986年7月 (イブキ, ゴールドクレスト)
Brachmia triannulella (Herrich-Schäffer) イモキ

バガ 1986年7月 (ヒルガオ)

ニジュウシトリバガ科 ALUCITIDAE

Alucita flavofascia (Inoue) アヤニジュウシトリバ
1986年8月 (ガーデニア)

マダラガ科 ZYGAEINIDAE

Pryeria sinica Moore ミノウスバ
1986年11月 (マサキ, ツルマサキ)
Pidorus atratus Butler ホタルガ
1987年9月
Elcysma westwoodii (Vollenhoven) ウスバツバメガ
1990年10月 (サクラ)
Artona martini Efetov タケノホソクロバ
1986年8月 (ダイミョウチク, オカメササ)
Illiberis rotundata Jordan ウメスカシクロバ
1986年6月 (ウメ, モモ, サクラ)

イラガ科 LIMACODIDAE

Monema flavescens Walker イラガ
1997年7月 (カキ, ウメ, サクラ)
Parasa consocia Walker アオイイラガ
1990年6月 (ボブラ, ニセアカシア)
Parasa lepida (Cramer) ヒロヘリアオイイラガ
1985年7月 (クスノキ, アラカシ)
Parasa sinica Moore クロシタアオイイラガ
1993年5月
Scopelodes contracta Walker ヒメクロイラガ
1986年6月 (モミジバフウノキ)

メイガ科 PYRALIDAE

Evergestis forficalis (Linnaeus) ナニセノメイガ
1986年9月 (ハボタン)
Hellula undalis (Fabricius) ハイマダラノメイガ
1986年10月 (ハボタン)
Spoladea recurvalis (Fabricius) シロオビノメイガ
1985年10月 (ケイトウ)
Cnaphalocrocis medinalis (Guenée) コブノメイガ
1990年10月 (イネ)
Conogethes punctiferalis (Guenée) モモノゴマダラ
ノメイガ 1986年8月 (モモ)
Botyodes principalis Leech オオキノメイガ
1998年6月 (アカメヤナギ, ボブラ)
Haritalodes derogata (Fabricius) ワタノメイガ
1985年8月 (フヨウ, アメリカフヨウ)
Palpita nigropunctalis (Bremer) マエアカスカシノ

メイガ 1986年3月 (キンモクセイ, ネズミモチ)

Glyphodes perspectalis (Walker) ツゲノメイガ
1985年6月 (ツゲ, クサツゲ)
Maruca vitrata (Hübner) マメノメイガ
1990年9月
Ostrinia scapularis (Walker) フキノメイガ
1990年6月 (バラ, ダリア)
Udea testacea (Butler) クロモンキノメイガ
1986年10月 (キンセンカ, ハボタン)
Pyrausta panopealis (Walker) ベニフキノメイガ
1986年9月 (シソ)
Teliphasa elegans (Butler) ナカアオフトメイガ
1996年10月
Orthaga olivacea (Warren) アオフトメイガ
1986年8月 (クスノキ)

トリバガ科 PTEROPHORIDAE

Platyptilia farfazzella (Zeller) エゾギクトリバ
1987年5月 (キンセンカ)

カギバガ科 DREPANIDAE

Macrauzata maxima Inoue スカシカギバ
1998年8月

トガリバガ科 THYATIRIDAE

Habrosyne fraterna Moore オオアヤトガリバ
1988年8月
Epipiestis ornata (Leech) ムラサキトガリバ
1993年10月
Neoploca aretipennis (Butler) マユミトガリバ
1998年3月

シャクガ科 GEOMETRIDAE

Inurois fletcheri Inoue ウスバフユシャク
1986年1月
Tanaorhinus reciprocata (Walker) カギバアオシャク
1999年6月
Operophtera brunnea Nakajima ナミスジフユナミ
シャク 1986年1月
Operophtera relegata Prout クロオビフユナミシャク
1996年2月
Nothoporia mediolineata (Prout) ナカオビアキナ
ミシャク 1987年12月
Evecliptopera decurrens (Moore) セスジナミシャク
1997年4月

- Abraxas miranda* Butler ユウマダラエダシャク
1997年9月 (マサキ)
- Cystidia stratonice* (Stoll) トンボエダシャク
1995年6月
- Alcis angulifera* (Butler) ナカウスエダシャク
1995年6月
- Heterarmia charon* (Butler) ナミガタエダシャク
1995年5月
- Hypomecis crassestrigata* (Christoph) フトオビエダ
シャク 1998年3月
- Hypomecis roboraria* (Denis & Schiffermüller) ハミ
スジエダシャク 1988年6月
- Cleora repulsaria* (Walker) フトスジエダシャク
1999年8月
- Larerranis miracula* (Prout) ヒロバフユエダシャ
ク 1995年11月
- Pachyerannis obliquaria* (Motschulsky) クロスジフ
ユエダシャク 1987年12月
- Agriopsis dira* (Butler) シロフフユエダシャク
1988年12月
- Erannis golda* Djakonov チャパネフユエダシャク
1996年12月
- Apochima juglansaria* (Graeser) オカモトトゲエ
ダシャク 1989年3月
- Megabiston plumosaria* (Leech) チャエダシャク
1998年11月
- Biston robustus* Butler トビモンオオエダシャク
1998年3月
- Amraica superans* (Butler) ウスイロオオエダシャ
ク 1985年5月
- Wilemania nitobei* (Nitobe) ニトベエダシャク
1997年11月
- Pachyligia dolosa* Butler アトジロエダシャク
1988年3月
- Descoreba simplex* Butler ハスオビエダシャク
1986年3月
- Colotois pennaria* (Linnaeus) カバエダシャク
1991年12月
- Planociampa modesta* (Butler) ホソバトガリエダシ
ャク 1985年3月
- Nothomiza aureolaria* Inoue オオマエキトビエダシ
ャク 1993年10月
- Odontopera arida* (Butler) エグリツマエダシャク
1987年5月
- Corymica pryri* (Butler) ウコンエダシャク
1995年6月
- Oureapteryx maculicaudaria* (Motschulsky) シロツ
バメエダシャク 1986年6月

カレハガ科 LASIOCAMPIDAE

- Malacosoma neustria* (Linnaeus) オビカレハ
1987年6月 (シャリンバイ)
- Dendrolimus superans* (Butler) マツカレハ
1987年9月 (クロマツ, ヒマラヤシーダ)
- Kunugia undans* (Walker) クヌギカレハ
1990年10月
- Poecilocamtamanukii* Matsumura ウスズミカレハ
1998年12月

オビガ科 EUPTEROTIDAE

- Apha aequalis* (Felder) オビガ
1998年8月

ヤママユガ科 SATURNIDAE

- Samia cynthia* (Drury) シンジュサン
1998年6月 (ナンキンハゼ, クロガネモチ)
- Antheraea yamamai* (Guérin-Méneville) ヤママユ
1990年9月 (アラカシ)
- Rinaca japonica* (Moore) クスサン
1990年9月
- Rhodinia fugax* (Butler) ウスタビガ
1994年10月
- Actias gnoma* (Butler) オナガミズアオ
1990年9月

スズメガ科 SPHINGIDAE

- Agrius convolvuli* (Linnaeus) エビガラスズメ
1991年6月
- Acherontia styx* (Rothschild & Jordan) メンガタス
ズメ 1988年6月
- Psilogramma increta* (Walker) シモフリスズメ
1989年6月 (ネズミモチ)
- Clanis bilineata* (Walker) トビイロスズメ
1990年8月
- Marumba gaschkewitschii* (Bremer & Grey) モモ
スズメ 1986年8月 (ウメ)
- Langia zenzeroides* Rothschild & Jordan オオシモフ
リスズメ 1993年3月
- Callambulyx tatarinovii* (Bremer & Grey) ウンモン
スズメ 1986年8月
- Smerinthus planus* Walker ウチスズメ
1986年8月
- Cephonodes hylas* (Linnaeus) オオスカシバ
1986年7月 (クチナシ)
- Acosmeryx castanea* Rothschild & Jordan ブドウスズ
メ 1998年8月 (ブドウ)
- Macroglossum phyrrothicta* Butler ホシホウジャク

1986年10月 (ヘクソカズラ)

Deilephila elenor Butler ペニスズメ

1986年10月 (ホウセンカ, インパチェンス)

Therebra nessus (Drury) キイロスズメ

1990年8月 (ナガイモ)

Therebra japonica (Boisduval) コスズメ

1998年8月 (ブドウ)

Therebra oldenlandiae (Fabricius) セスジスズメ

1986年10月 (カイウ, ムサシアブミ)

シャチホコガ科 NOTODONTIDAE

Neostauropus basalis (Moore) ヒメシャチホコ

1999年8月

Phalera assimilis (Bremer & Grey) ツマキシヤチ

ホコ 1997年7月

Phalera flavescent (Bremer & Grey) モンクロシャ

チホコ 1986年8月 (サクラ, ウメ)

Rabata cristata (Butler) セダカシャチホコ

1986年7月

Torigea straminea (Moore) キシャチホコ

1995年9月

Phalerodonta manleyi (Leech) オオトビモンシャチ

ホコ 1985年10月

Spatalia doerriesi Graeser ウスイロギンモンシャチ

ホコ 1998年6月

Pterostoma sinicum Moore オオエグリシャチホコ

1995年5月

ドクガ科 LYMANTRIIDAE

Calliteara argentata (Butler) スギドクガ

1985年6月 (スギ, ヒマラヤシダ, ゴールドク
レスト)

Orgyia thyellina Butler ヒメシロモンドクガ

1985年6月 (サツキ, ヒメリンゴ)

Leucoma candida (Staudinger) ブチヒゲヤナギド

クガ 1998年6月 (カリナボブラ)

Ivela auripes (Butler) キアシドクガ

1995年6月

Lymantria dispar (Linnaeus) マイマイガ

1985年6月 (アラカシ, バラ, サツキ)

Lymantria mathura Moore カシワマイマイ

1985年6月 (アラカシ, コナラ, ウバメガシ)

Parocneria furva (Leech) ウチジロマイマイ

1985年6月 (イブキ)

Sphrageidus similis (Fuessly) モンシロドクガ

1985年6月 (バラ, サクラ)

Euproctis pseudoconspersa (Strand) チャドクガ

1985年6月 (ツバキ, サザンカ)

ヒトリガ科 ARCTIIDAE

Conilepia nigricosta Leech マエグロホソバ

1992年9月

Bizone hamata Walker アカスジシロコケガ

1991年6月

Spilarctia seriatopunctata Motschulsky スジモンヒ

トリ 1986年6月

Spilosoma punctaria (Stoll) アカハラゴマダラヒト

リ 1985年6月

Spilosoma lubricipeda (Linnaeus) キハラゴマダラ

ヒトリ 1985年6月

カノコガ科 CTEUCHIDAE

Amata fortunei (Orza) カノコガ

1997年6月

ヤガ科 NOCTUIDAE

Trichosea champa (Moore) キバラケンモン

1977年5月 (ヒラドツツジ)

Acronicta major Bremer オオケンモン

1998年8月

Hyboma adacta (Warren) サクラケンモン

1986年5月

Triaena intermedia Hampson リンゴケンモン

1986年6月

Craniophora fasciata (Moore) シマケンモン

1988年6月

Lophonycta confusa (Leech) アミメケンモン

1987年7月

Helicoverpa armigera (Hübner) オオタバコガ

1990年10月 (キク)

Diarsia canescens (Butler) オオバコヤガ

1988年10月

Xestia dilatata (Butler) ウスチャヤガ

1990年10月

Mamestra brassicae (Linnaeus) ヨトウガ

1986年10月 (パンジー, プリムラ, ハボタン)

Sarcopolia illoba (Butler) シロシタヨトウ

1987年10月 (ハボタン)

Panolis lapponica Draudt マツキリガ

1988年4月

Orthosia evanida (Butler) カバキリガ

1988年3月

Orthosia augustipennis (Matsumura) ホソバキリガ

1987年3月

Orthosia odiosa (Butler) チャイロキリガ

1997年4月

- Orthosia limbata* (Butler) シロヘリキリガ
1985年3月
- Orthosia carnipennis* (Butler) アカバキリガ
1988年3月
- Orthosia gothica* (Linnaeus) カシワキリガ
1988年5月
- Pseudaletia separata* (Walker) アワヨトウ
1985年10月
- Leucania striata* Leech スジシロヨトウ
1985年9月
- Cucullia fraterna* Butler ホソバセダカモクメ
1997年10月
- Daseochaeta viridis* (Leech) ケンモンミドリキリガ
1997年11月
- Xylena formosa* (Butler) キバラモクメキリガ
1997年11月 (サツキ)
- Lithophane pruinosa* (Butler) カシワキボシキリガ
1995年11月
- Eupsilia tripunctata* Butler ミツボシキリガ
1997年4月
- Rhynchaglaea fuscipennis* Sugi クロチャマダラキリガ
1990年3月
- Conistra grisescens* Draudt ミヤマオビキリガ
1990年11月
- Telorta divergens* (Butler) ノコメトガリキリガ
1998年11月 (ツバキ)
- Antivaleria viridimacula* (Graeser) アオバハガタヨトウ
1987年11月
- Spodoptera litura* (Fabricius) ハスモンヨトウ
1985年10月 (ハボタン, キク)
- Spodoptera depravata* (Butler) スジキリヨトウ
1985年7月
- Amphipyra monolitha* Guenée オオシマカラスヨトウ
1988年9月 (シャリンバイ)
- Amphipyra livida* (Denis & Schiffertmüller) カラスヨトウ
1988年11月
- Cosmia affinis* Warren ニレキリガ
1997年11月
- Callopietria japonibia* Inoue & Sugi キスジツマキリヨトウ
1998年11月
- Eutelia geyeri* (Felder & Rogenhofer) フサヤガ
1987年9月
- Risoba prominens* Moore リュウキュウキノカワガ
1990年9月
- Blenina senex* (Butler) キノカワガ
1985年10月
- Earias roseifera* Butler ベニモンアオリンガ
1986年6月 (サツキ)
- Ariolica argentea* (Butler) ギンボシリンガ
1997年7月
- Xanthodes transversa* Guenée フタトガリコヤガ
1990年9月 (フヨウ)
- Macdunnoughia purissima* (Butler) ギンモンシロウワバ
1988年10月
- Autographa nigrisigna* (Walker) タマナギンウワバ
1986年10月
- Thysanoplusia intermixta* (Warren) キクキンウワバ
1988年10月 (キク)
- Ctenoplusia albostrata* (Bremer & Grey) エゾギクキンウワバ
1985年10月 (セイタカアワダチソウ)
- Ctenoplusia agnata* (Staudinger) ミツモンキンウワバ
1985年10月
- Anadevidia peponis* (Fabricius) ウリキンウワバ
1997年11月 (ヒョウタン)
- Catocala patala* C. & R. Felder キシタバ
1999年8月
- Catocala praegnax* Walker コガタキシタバ
1986年7月
- Dysgonia arctotaenia* Guenée ホソオビアシブトクチバ
1990年8月
- Arcte coerulesa* (Guenée) フクラスズメ
1986年2月 (マオ)
- Erebus ephesperis* (Hübner) オオトモエ
1997年6月
- Perinaenia accipiter* (Felder & Rogenhofer) モクメクチバ
1997年6月
- Anomis mesogona* (Walker) アカキリバ
1988年8月
- Goniocraspidum pryori* (Leech) プライヤキリバ
1988年8月
- Oraesia excavata* (Butler) アカエグリバ
1986年10月
- Adris tyrannus* (Guenée) アケビコノハ
1985年11月

トラガ科 AGARISTIDAE

- Sarbanissa subflava* Moore トビイロトラガ
1990年8月 (ツタ)
- Maikona jezoensis* Matsumura マイコトラガ
1994年3月

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神の谷3丁目6-4)

池田市北部のシャチホコガ科

木下 修一

筆者はこれまで池田市北部のマンスションの照明に集まる蛾を数年間にわたり観察し報告してきた [1-3]。今回は、前報 [3] に引き続いて、観察・採集された蛾のうちシャチホコガ科の蛾について報告したい。

表 1 には1995年1月から1999年8月の4年半にわたってほぼ毎朝20分ほどの間に、マンスションの壁や天井にとまっている蛾の個体数を記録した結果をまとめてみた。表には月別、年別の個体数を示したが、目視によるものも多いため正確さに欠けるのはご容赦願いたい。年によって数のばらつきはあるものの多産する種類ではほぼ一定した発生数が見られているようである。シャチホコガ科とメイガ科は真夏の8月に多く発生する数少ない種類である。実際、月別の発生数は8月が最高となっている。

池田市北部ではセグロシャチホコ、オオエグリシャチホコ、シャチホコガ、オオトビモンシャチホコ、ホソバシャチホコが個体数のベスト5となっている。直線距離にして2,3 kmのところに箕面公園があるが、ここでは山本により蛾の詳しい報告がなされている [4]。そこで池田市北部で4年半の間に見られた種の個体数1, 2-4, 5-10, 11-19, 20以上をそれぞれ1から5の5段階に分け、また、箕面の報告で「記載なし」、「少ない」、「多くない」、「やや普通」、「普通」をそれぞれ1から5の5段階に記して、個体数の相関を調べてみた。その結果を図1に示す。○で囲った領域は個体数に相関が強いと考えられる部分で約70%の種が該当し比較的強い相関があると言って良いだろう。大きくはずれる種については名前を列記してあるが、その理由については生息環境によるものか観察方法によるものか今のところよく分かっていない。

シャチホコガ科は食草が樹木に依存する種類が多いので、その地域の自然環境を知る上でも重要で、また、日本に産する種類数も120種あまりとまとま

った科であるので注目されることが多い。しかし、それよりも筆者の興味をひいたのはそのとまり方である。シャチホコガ(写真1)やルリモンシャチホコ、アオシャチホコなどは止まったときに後翅の方が前翅より前にでて止まるので、まるで花びらのような止まり方をする。このとき、後翅の前縁には前翅とつながるような模様がちゃんとできているのである。ギンモンスズメドキ、セグロシャチホコ、ツマアカシャチホコ(写真2)、ヒナシャチホコなどは腹部末端の毛の束をつんと突き上げた格好をしてとまっている。擬態として面白いのはムラサキシャチホコとツマキシャチホコの仲間である。写真3に示すように、ムラサキシャチホコは枯れ葉を立体的に再現したような独特の模様をしている。いろいろと枯れ

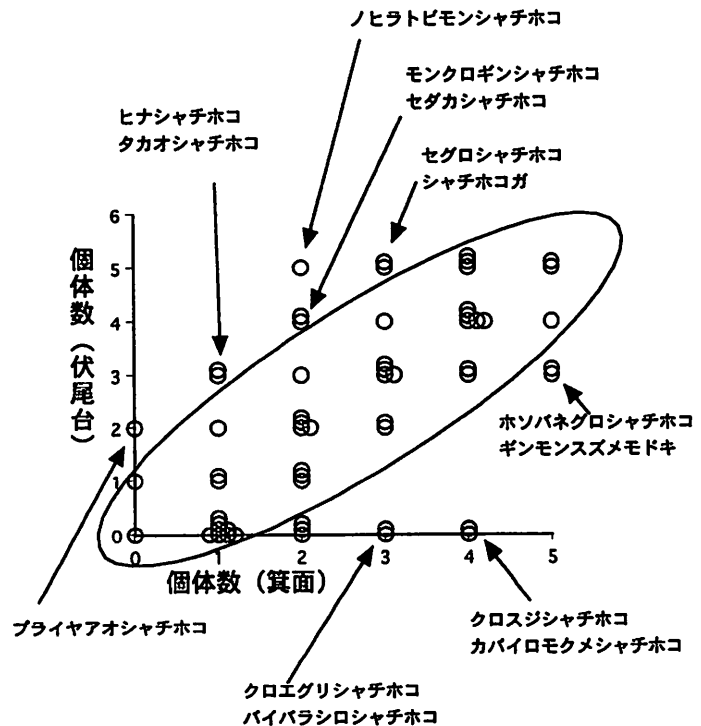


図1 池田市北部(伏尾台)と箕面公園[4]で記録されたシャチホコガ科の蛾の個体数の相関

葉を集めて比べてみたが、ケヤキのようなニレ科の葉っぱがよく似合うようである(写真4)。一方、ムクツマキシヤチホコ(写真5)は折れた枯れ枝とそっくりの形をしている。サクラの木の下にはこれと同じ様な枝が多く落ちていて(写真6)、一見すると蛾と区別がつかないくらいである。これらはいずれも食草とは異なるが、我々の身の回りには多く見られるもので、どうしてこのような形態になったのか大変興味深い。

採集目録を次に示すが、この目録では採集したもののうち2標本だけ選び採集年月日を記している。ハガタエグリシャチホコについては写真のみで標本を所持していない。

採集目録

NOTODONTIDAE シャチホコガ科

1. *Tarsolepis japonica* Wileman & South
ギンモンスズメドキ 3072
(1.IX.1996, 1♂)
2. *Stauropus fagi* (Linnaeus)
シャチホコガ 3074
(8.IX.1996, 1♂)
3. *Neostauropus basalis* (Moore)
ヒメシャチホコ 3077
(24.VII.1999, 1♂, 29.VIII.1999, 1♂)

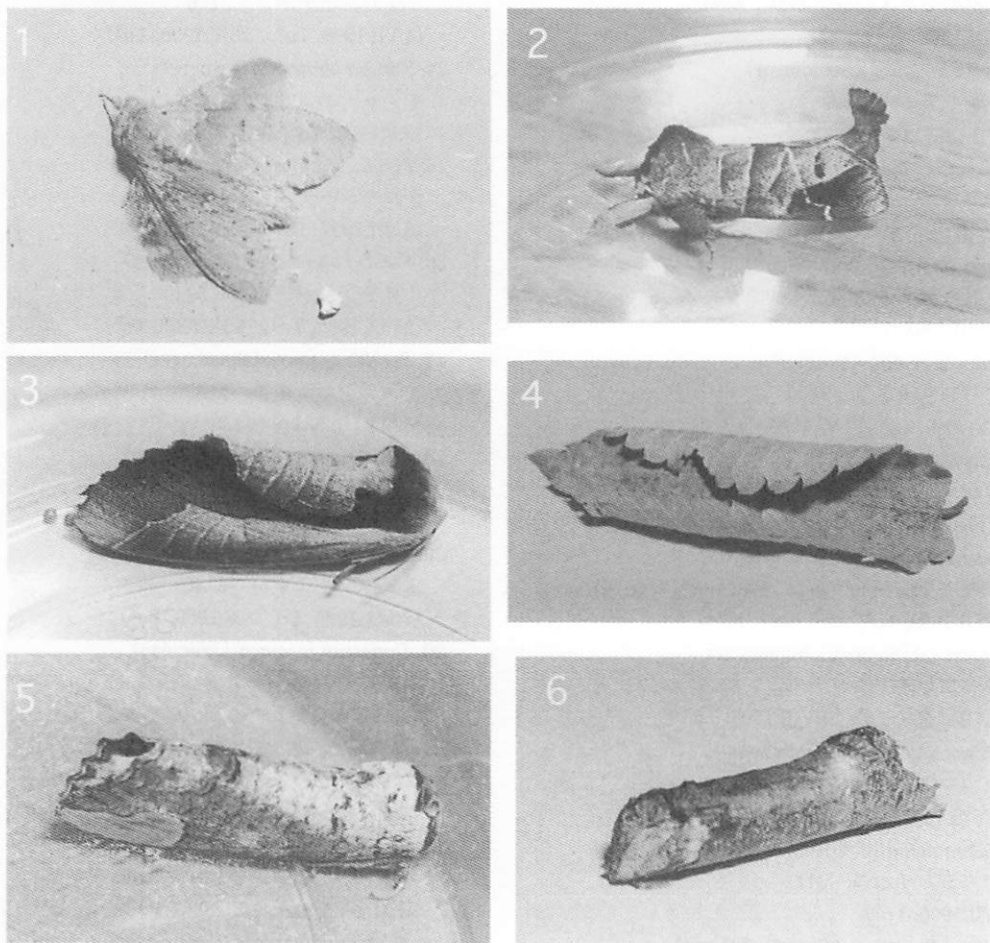


図2 1 : シャチホコガ、2 : ツマアカシャチホコ、3 : ムラサキシヤチホコ、4 : 3 に似た枯れ葉
5 : ムクツマキシヤチホコ、6 : 5 に似た木切れ

4. *Quadricalcarifera pryeri* (Leech)
ブライヤアオシャチホコ 3079
(14.VI.1996, 1♂)
5. *Quadricalcarifera japonica* Nakatomi
アオシャチホコ 3080
(9.IX.1998, 1♂, 18.IV.1999, 1♀)
6. *Quadricalcarifera cyanea* (Leech)
オオアオシャチホコ 3082
(15.VI.1996, 1♀, 9.IV.1999, 1♂)
7. *Cerura menciana* (Moore)
オオモクメシャチホコ 3091
(26.VI.1997, 1♂)
8. *Furcula furcula* (Clerck)
ナカグロモクメシャチホコ 3094
(15.IV.1998, 1♂)
9. *Harpyia umbrosa* (Staudinger)
ギンシャチホコ 3095
(3.VII.1997, 1♂)
10. *Wilemanus bidentatus* (Wileman)
モンクロギンシャチホコ 3098
(15.VII.1996, 1♂)
11. *Uropyia meticulodina* (Oberthür)
ムラサキシシャチホコ 3099
(24.VIII.1998, 1♀)
12. *Fentonia ocypte* (Bremer)
ホソバシャチホコ 3100
(28.V.1996, 1♂, 12.VI.1996, 1♂)
13. *Mesophalera sigmata* (Butler)
クロシタシャチホコ 3101
(17.VIII.1997, 1♂, 21.VII.1999, 1♂)
14. *Disparia variegata* (Wileman)
ホソバネグロシャチホコ 3102
(19.VII.1998, 1♂, 23.V.1999, 1♂)
15. *Phalera takasagoensis* Matsumura
タカサゴツマキシシャチホコ 3109
(22.VIII.1996, 1♂, 14.VIII.1997, 1♂)
16. *Phalera angustipennis* Matsumura
ムクツマキシシャチホコ 3110
(16.VIII.1996, 1♂, 3.IX.1997, 1♂)
17. *Phalera assimilis* (Bremer & Grey)
ツマキシシャチホコ 3111
(8.VII.1996, 1♂)
18. *Phalera flavescens* (Bremer & Grey)
モンクロシャチホコ 3113
(3.VIII.1996, 1♂)
19. *Ellida arcuata* (Alpheraky)
ユミモンシャチホコ 3114
(16.IV.1997, 1♂, 7.IV.1997, 1♀)
20. *Neopheosia fasciata* (Moore)
ヘリスジシャチホコ 3122
(10.VIII.1996, 1♂, 20.VII.1999, 1♂)
21. *Zaranga permagna* (Butler)
アオバシャチホコ 3123
(10.IX.1996, 1♂)
22. *Shaka atrovittatus* (Bremer)
クビワシャチホコ 3124
(26.VI.1996, 1♂, 26.VII.1997, 1♂)
23. *Raabtala cristata* (Butler)
セダカシャチホコ 3126
(4.VII.1996, 1♂, 18.V.1998, 1♂)
24. *Torigea straminea* (Moore)
キシシャチホコ 3129
(9.V.1998, 1♂, 18.V.1998, 1♂)
25. *Peridea gigantea* Butler
ナカキシシャチホコ 3139
(3.VII.1997, 1♂, 6.IX.1997, 1♂)
26. *Peridea oberthueri* (Staudinger)
ルリモンシャチホコ 3140
(27.IX.1997, 1♂, 15.IX.1998, 1♂)
27. *Peridea graeseri* (Staudinger)
イシダシャチホコ 3143
(12.IX.1996, 1♂)
28. *Fusadonta basilinea* (Wileman)
ネスジシャチホコ 3145
(13.V.1997, 1♂, 11.VI.1999, 1♂)
29. *Pheosiopsis cinerea* (Butler)
スズキシシャチホコ 3146
(20.IX.1998, 1♂, 8.V.1999, 1♂)
30. *Drymonia japonica* (Wileman)
コトビモンシャチホコ 3150
(26.VIII.1996, 1♂, 27.V.1998, 1♂)
31. *Drymonia basalis* Wileman & South
ノヒラトビモンシャチホコ 3151
(16.IV.1996, 1♂, 8.IV.1997, 1♂)
32. *Phalerodonta manleyi* (Leech)
オオトビモンシャチホコ 3156
(6.XI.1996, 1♂, 9.XI.1996, 1♂)
33. *Hiradonta takaonis* (Matsumura)
タカオシャチホコ 3157
(3.IX.1998, 1♂, 6.IX.1996, 1♂)

表1 1995年1月～1999年8月の池田市北部で観察されたシャチホコガ科の蛾の月別、年別個体数

	MONTH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	SUM	1995	1996	1997	1998	1999
1	ギンモンスズメドキ						1	2	9					12	1	3	2	4	2
2	シャチホコガ				7	7	4	2	10	10				40	14	4	6	10	6
3	ヒメシャチホコ							1	3					4	2				2
4	ブライヤアオシャチホコ					5	1							6	5	1			
5	アオシャチホコ				3	1		3	3	1				11	2	2	2	1	4
6	オオアオシャチホコ				2	2	1		5					10	1	3	2	3	1
7	オオモクメシャチホコ						1							1			1		
8	ナカクロモクメシャチホコ				1									1				1	
9	ギンシャチホコ							1						1			1		
10	モンクロシャチホコ							3	13	1				17	7	5	2	2	1
11	ムラサキシャチホコ								1					1				1	
12	ホソバシャチホコ					7	7	9	5	2				30	5	8	3	5	9
13	クロシタシャチホコ						1	1	16	2				20	2	4	6	3	5
14	ホソバネグロシャチホコ					1		4						5	1			2	2
15	タカサゴツマキシャチホコ								5					5	1	1	2	1	
16	ムグツマキシャチホコ								6	2				8	1	5	2		
17	ツマキシャチホコ							2						2		2			
18	モンクロシャチホコ							1	28					29	9	7	5	2	6
19	ユミモンシャチホコ				5	1								6		1	2	1	2
20	ヘリスジシャチホコ						1	1	1					3	1	1			1
21	アオバシャチホコ				1	1	1		1	4	1			9	3	3	1	2	
22	クビウシャチホコ						2	6	14	6				28	2	4	11	8	3
23	セダカシャチホコ					2	2	7	8	1	1			21	6	5	5	5	
24	キシャチホコ					3		1						4	1			3	
25	ナカキシャチホコ							1		1				2			2		
26	ルリモンシャチホコ							3	3	3				9	1	3	2	2	1
27	イシダシャチホコ									1				1		1			
28	ネスジシャチホコ					1	1			1				3		1	1		1
29	スズキシャチホコ				2	3				7				12	2		3	5	2
30	コトビモンシャチホコ					3			2	1				6	1	2		2	1
31	ノヒラトビモンシャチホコ				34									34	3	5	10	11	5
32	オオトビモンシャチホコ											15		15	4	2	5	4	
33	タカオシャチホコ								2	4	2			8	5		1	2	
34	ツマシロシャチホコ					2	2	1	7	13	1			26	5	5	7	8	1
35	ハガタエグリシャチホコ									1				1	1				
36	ブライヤエグリシャチホコ						1	4	5	2				12	1	2	3	3	3
37	ウスイロギンモンシャチホコ					2	3	3	12					20	7	8		4	1
38	オオエグリシャチホコ				1	8		8	19	8				44	14	2	9	16	3
39	トビギンボシシャチホコ						3	4	6	3				16	5	7	1	3	
40	クワゴモドキシャチホコ							1	1					2				1	1
41	ヒナシャチホコ					1		1	2	1				5	1		2	2	
42	ツマアカシャチホコ				1			1		2	1			5		1	2	2	
43	セグロシャチホコ					8	4	3	9	27	8			59	20	5	13	13	6
	SUM	0	0	0	57	58	36	74	196	104	14	15	0	554	134	103	114	134	69

34. *Hexafrenum leucodera* (Staudinger)
ツマジロシャチホコ 3158
(6.IX.1996, 1♀, 8.IX.1996, 1♂)
35. *Hagapteryx admirabilis* (Staudinger)
ハガタエグリシャチホコ 3161
(14.IX.1995: 写真のみ)
36. *Lophontesia pryri* (Butler)
ブライヤエグリシャチホコ 3170
(8.VII.1998, 2♂♂)
37. *Spatalia doerriesi* Graeser
ウスイロギンモンシャチホコ 3179
(16.VI.1996, 1♂)
38. *Pterostoma sinicum* Moore
オオエグリシャチホコ 3181
(2.V.1996, 1♂)
39. *Rosama ornata* (Oberthür)
トビギンボシシャチホコ 3184
(25.VIII.1996, 1♂, 14.VII.1997, 1♂)
40. *Gonoclostera timoniorum* (Bremer)
クワゴモドキシャチホコ 3185
(12.VIII.1998, 1♀, 27.VII.1997, 1♀)
41. *Micromelalopha troglodyta* (Graeser)
ヒナシャチホコ 3186
(31.V.1997, 1♂, 20.IX.1997, 1♀)
42. *Clostera anachoreta* (Denis & Schiffermüller)
ツマアカシャチホコ 3188
(9.VII.1996, 1♂, 23.IX.1998, 1♂)
43. *Clostera anastomosis* (Linnaeus)
セグロシャチホコ 3190
(3.VI.1996, 1♂, 27.VII.1997, 1♀)

<参考文献>

- 木下修一(1996)、池田市のマンションに来たフユシャク類、Nature Study 42: 7-8.
- 木下修一(1998)、池田市のマンションに来た蛾、蛾類通信 199: 403-406.
- 木下修一(1999)、池田市北部のキリガ類、きべりはむし 27: 16-21.
- 山本義丸(1996)、箕面山蛾類目録、誘蛾会Supplement 5.

(SHUICHI KINOSHITA)

池田市伏尾台5-1-5-901)

丹生・帝釈山系のイシガケチョウ(続報) 平尾 栄治

本誌第23巻第2号(1995年)で報告したイシガケチョウ(1995.8.1採集)から丸4年経過した本年8月22日午後1時30分頃、前回とほぼ同じ神戸市北区山田町坂本の丹生神社参道においてイシガケチョウ(雌雄は不明)1頭を目撃したので報告する。

丹生・帝釈山系で同種が定着しているものと思われるが、引き続き調査をしたい。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)

丹生・帝釈山系で クロコノマチョウを採集 平尾 栄治

1999年7月10日午前11時頃、神戸市北区山田町坂本の丹生神社参道沿いの雑木林斜面で飛翔中の新鮮なクロコノマチョウ1♀を採集したので報告する。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)

播州雪彦山のムカシトンボ 平尾 栄治

夢前川の源流域、飾磨郡夢前町雪彦山では1960-70年代までかなりの個体数が見られたが、'80年以降の原生林の伐採、豪雨による山地被害などでその姿が見られなくなっていた。1999年5月15日の午後1時頃、同山中腹の溪流沿いで占有飛翔中の1♂を発見し、採集したので報告する。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)

兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(3)

高橋 寿郎

71. 仲田元亮(1970) 能勢の昆虫(甲虫)

B5, 107p. (自刊)

次のように兵庫県産のゾウムシ類が記録されている。データは皆ついている。

ヒゲナガゾウムシ科3種。

シリジロヒゲナガゾウムシ, スネアカヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科を含む)4種。

ブドウハマキチョッキリ, ハギルリオトシブミ, オオメイクビチョッキリ, ハギツルクビオトシブミ *Cycnotrachelus nitens*=エゴツルクビオトシブミ *C. roelofsi* (Harold, 1877)

ゾウムシ科(オサゾウムシ科を含む)15種。

オオゾウムシ, シロコブゾウムシ, マダラアシゾウムシ, マリアナキゾウムシ, チュウジョウアナキゾウムシ, マツシラホシゾウムシ=ニセマツノシラホシゾウムシ, イネゾウムシ, フレイアナキゾウムシ=クリアアナキゾウムシ, ツヤケシヒメゾウムシ, ゴボウゾウムシ, ナツグミシギゾウムシ, クロホシクチブトゾウムシ, クロコブゾウムシ, ツチイロヒゲボソゾウムシ。

72. 辻 啓介・岸田剛二(1972). 但馬扇ノ山の甲虫目録 扇ノ山周辺の動物(1)p. 20-48.

兵庫県自然保護協会調査資料, 第1集

次のゾウムシ類の記録が示されている。

ヒゲナガゾウムシ科7種。

クロオビヒゲナガゾウムシ, キノコヒゲナガゾウムシ, マダラフトヒゲナガゾウムシ, カオジロヒゲナガゾウムシ, シリジロヒゲナガゾウムシ, チャマダラヒゲナガゾウムシ, ナガアシヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科を含む)17種。

ヤドカリチョッキリ, イタヤハマキチョッキリ, ドロハマキチョッキリ, ファウストハマキチョッキリ, チャイロチョッキリ, クチブトチョッキリ, ピロウドアシナガオトシブミ, カシルリオトシブミ, ゴマダラオトシブミ, ヒメコブオトシブミ, ムツモンオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, ウスアカオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ハギツルクビオトシブミ, アカクビナガオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ。

ミツギリゾウムシ科1種。

ムツモンミツギリゾウムシ。

ゾウムシ科24種。

リンゴコフキゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ, アカヒョウタンゾウムシ *Catapionus cuprescens* Motschulsky (総目録では分布日本のみとありよくわからない種である), マルヒョウタンゾウムシ, コフキゾウムシ, サビマルクチゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, ゴボウゾウムシ, ツツゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, キスジアシナガゾウムシ, ホホジロアシナガゾウムシ, フタキボシゾウムシ, マツアナキゾウムシ, ナガアナキゾウムシ, コクロアナキゾウムシ, フライアナキゾウムシ=クリアアナキゾウムシ, クロコブゾウムシ, マダラメカクシゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, シロホシヒメゾウムシ, ミヤマシギゾウムシ。

73. 宮武睦夫(1973) 本四架橋ルートの島々の昆虫相 本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書 学術調査編 p. 80-97.

財団法人 国立公園協会刊

兵庫県からの記録が次のとおりある(主として淡路島産)。

チョッキリゾウムシ科1種。

ヒメクロケシツブチョッキリ。

ホソクチゾウムシ科2種。

ケブカホソクチゾウムシ, モンチビゾウムシ。

ゾウムシ科8種。

ムネスジノミゾウ, ツヤケシヒメゾウ, カシワクチブトゾウ, トビイロヒョウタンゾウ, ミスジマルゾウ, オジロアシナガゾウムシ, チビクチカクシゾウ, ボウサンゾウ。

オサゾウムシ科1種。

ニセキイサビゾウ。

74. 畑中 熙・辻 啓介(1974) 家島の甲虫ノート きべりはむし 2(2):22.

ハスジカツオゾウムシの記録あり。

75. 畑中 熙・高橋寿郎(1974) 中国山脈東端の昆虫相・昆虫目録

東中国山地自然環境調査報告 p. 226-230.

扇ノ山, 氷ノ山, 鉢伏山, 妙見山, 蘇武岳, 三室山(音水・赤西を含む), 日名倉山, 船越山地域で調査採集できたもの。

ヒゲナガゾウムシ科21種.

アカアシヒゲナガゾウムシ, クロフヒゲナガゾウムシ, カオジロヒゲナガゾウムシ, コモンヒゲナガゾウムシ, チャマダラヒゲナガゾウムシ, アカミヒゲナガゾウムシ, シリジロヒゲナガゾウムシ, キマダラヒゲナガゾウムシ, オオマダラヒゲナガゾウムシ, スネアカヒゲナガゾウムシ, クロオビヒゲナガゾウムシ, ナガアシヒゲナガゾウムシ, シロヒゲナガゾウムシ, マダラフトヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガゾウムシ, キノコヒゲナガゾウムシ, ツツヒゲナガゾウムシ *Hypsens cylindricus*=ツツケナガヒゲナガゾウムシ *Hab-rissus*, クロホシヒゲナガゾウムシ *Ulorinus aberrans*=*Phaulimia* クロホシオナガヒゲナガゾウムシ, タマカイガラヒゲナガゾウムシ, エグリヒゲナガゾウムシ *Directarius incisus*=*Gibber* エグリコブヒゲナガゾウムシ, スネアカヒゲナガゾウムシ.

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)39種.

ゴマダラオトシブミ, ヒメゴマダラオトシブミ, ヒメコブオトシブミ, ウスモンオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, オトシブミ, ムツモンオトシブミ, ウスアカオトシブミ, アカクビナガオトシブミ, エゴツルクビオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ, ルイスアシナガオトシブミ=リュウイスアシナガオトシブミ, ハギルリオトシブミ, コブルリオトシブミ, ルリオトシブミ, ケシルリオトシブミ, カシルリオトシブミ, ドロハマキチョッキリ, ファウストハマキチョッキリ, ベニホシハマキチョッキリ, イタヤハマキチョッキリ, サメハダハマキチョッキリ, ピロウドアシナガオトシブミ=ピロウドハマキチョッキリ, クチブトチョッキリ, マダラケブカチョッキリ, ルリホソチョッキリ, チャイロチョッキリ, チュウジョウマルムネチョッキリ=マルムネチョッキリ, シリブトチョッキリ, ルリイキビチョッキリ, コナライキビチョッキリ, オオメイキビチョッキリ, ヤドカリチョッキリ, オオケブカチョッキリ, クロケツツチョッキリ.

ミツギリゾウムシ科1種.

ムツモンミツギリゾウムシ.

ホソクチゾウムシ科6種.

ヒレルホソクチゾウムシ, アカアシホソクチゾウムシ, キヒゲホソクチゾウムシ, ナガホソクチゾウムシ, ヒゲナガホソクチゾウムシ, マメホソクチゾウムシ.

ゾウムシ科(オサゾウムシ科を含む)124種.

ミヤマヒゲボソゾウムシ, リンゴコフキゾウムシ,

コヒゲボソゾウムシ, コブヒゲボソゾウムシ, ヒラズネヒゲボソゾウムシ, リンゴヒゲナガゾウムシ, ウスイロヒゲボソゾウムシ, ハダカヒゲボソゾウムシ, クチブトヒゲボソゾウムシ, キンヒゲボソゾウムシ=キュウシュウヒゲボソゾウムシ, クロホシクチブトゾウムシ, オオクチブトゾウムシ, クリイロクチブトゾウムシ, ウスアカクチブトゾウムシ, ミドリクチブトゾウムシ, イタヤクチブトゾウムシ *Cyphycerus aeri* Kono=イタヤクチブトクイゾウムシ *Stenosselis aceri* Konishi, 1962, アオヒゲナガゾウムシ, チビヒョウタンゾウムシ, トゲアシゾウムシ, クワゾウムシ, シュウホウチビツチゾウムシ=アキヨシチビツチゾウムシ, シロコブゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ, ウスヒョウタンゾウムシ, アカヒョウタンゾウムシ, ハナウドゾウムシ, フキヒョウタンゾウムシ, ハイイロヒョウタンゾウムシ, マルヒョウタンゾウムシ, カキゾウムシ, クワヒョウタンゾウムシ, コフキゾウムシ, サビマルクチブトゾウムシ=サビマルクチゾウムシ, オオキボシゾウムシ, オオミズゾウムシ, ミスジマルゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, ナガカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, アイノカツオゾウムシ, ゴボウゾウムシ, シラクモゴボウゾウムシ, チビクロツツクイゾウムシ, フトカツオゾウムシ=ツツゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, ホホジロアシナガゾウムシ, キスジアシナガゾウムシ, フタキボシゾウムシ, マツアナアキゾウムシ, コクロアナアキゾウムシ, ホソアナアキゾウムシ, モンキアナアキゾウムシ *Hylobius exsulphus*=クリアナアキゾウムシ *Dyscerus*, フレイアナアキゾウムシ=クリアナアキゾウムシ, ナガアナアキゾウムシ, ガロアナアキゾウムシ, ヤクアナアキゾウムシ *Hylobius yakui*=リンゴアナアキゾウムシ *Dyserus shikokuensis* (Kono), ミヤマタマゴゾウムシ, ムラカミカレキゾウムシ, コクロアナアキゾウムシ, ヒメクロカレキゾウムシ=アトジロカレキゾウムシ, ナカグロカレキゾウムシ, クロカレキゾウムシ, ナカスジカレキゾウムシ, シロオビカレキゾウムシ=マダラカレキゾウムシ, アシナガオニゾウムシ, マダラメカクシゾウムシ, ナガクチカクシゾウムシ=マエバラナガクチカクシゾウムシ, ボウサンゾウムシ, ヒメクチカクシゾウムシ, オオクチカクシゾウムシ, ニセマツシラホシゾウムシ=ニセマツノシラホシゾウムシ, マダラクチカクシゾウムシ, ハスジクチカクシゾウムシ, ウンモンクチカクシゾウムシ=ウンモンナガクチカクシゾウムシ, アタマクチカクシゾウムシ, ノコギリクモゾウムシ,

ツノクモゾウムシ, ヤマトヒラセクモゾウムシ, キアシクチブトサルゾウムシ=アカアシクチブトサルゾウムシ, クロクチブトサルゾウムシ, ツツジトゲムネサルゾウムシ, タデサルゾウムシ, カタビロサルゾウムシ=トゲカタビロサルゾウムシ, ジュウジコブサルゾウムシ, クロツヤサルゾウムシ, キイチゴトゲサルゾウムシ, アササルゾウムシ, チャイロアカサルゾウムシ, オビアカサルゾウムシ, タバゲササラゾウムシ, クロツブゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, ユアサハナゾウムシ, ナシハナゾウムシ, ヘリアカナガハナゾウムシ, ツヤチビヒメゾウムシ, シロホシヒメゾウムシ=シラホシヒメゾウムシ, ウミベヒメゾウムシ, マダラヒメゾウムシ, タテスジアカヒメゾウムシ, ツヤケシヒメゾウムシ, コナラシギゾウムシ, ツバキシギゾウムシ, クリシギゾウムシ, クロシギゾウムシ, ナツグミシギゾウムシ, モンキシギゾウムシ=アキグミシギゾウムシ, チャバネセダカシギゾウムシ, ミヤマシギゾウムシ, クロオビシロタマゾウムシ, カミヤコバンゾウムシ, ヨツコブノコギリゾウムシ, ヤドリノミゾウムシ, アカアシノミゾウムシ, リンゴノミゾウムシ, チビデオゾウムシ, アカイネゾウムシ=アカイネゾウムシ, クロイネゾウムシ=クロイネゾウムシ, マツチャイロクイゾウムシ, ハンノキコブクイゾウムシ, オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ.

76. 宮武睦夫(1974) 本四架橋ルートの島々の昆虫相

本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書(その2) pp. 75-96.

ゾウムシ類が次のようにある。産地は全部淡路島。オトシブミ科1種。

ハギルリオトシブミ。

ゾウムシ科4種。

ヒラセノミゾウ, コフキゾウ, サビヒョウタンゾウ, トビイロヒョウタンゾウ。

77. 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1・2報)

兵庫県立豊岡高等学校生物学教室刊. B5. 66p.

但馬地方で採集された昆虫類標本の目録であり、各種については採集データがついている。ゾウムシ類については森本 桂博士の同定になるものが多い。

【第1報】

ヒゲナガゾウムシ科1種。

カオジロヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)18種。

モンケシツブチョッキリ, マルムネチョッキリ, ベニホシハマキチョッキリ, ファウストハマキチョッキリ, チャイロチョッキリ, マダラケブカチョッキリ, ヒメケブカチョッキリ, ピロウドアシナガオトシブミ=ピロウドハマキチョッキリ, カシルリオトシブミ, ムツモンオトシブミ, ウスモンオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, ウスアカオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ。

ホソクチゾウムシ科1種。

ヒゲナガホソクチゾウムシ。

ゾウムシ科34種。

リンゴコフキゾウムシ, コヒゲボソゾウムシ, クチブトヒゲボソゾウムシ, コブヒゲボソゾウムシ, ハダカヒゲボソゾウムシ, ケブカクチブトゾウムシ, ウスアオクチブトゾウムシ, チビメナガゾウムシ, トゲアシゾウムシ, シロコブゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ, フキヒョウタンゾウムシ, カキゾウムシ, コフキゾウムシ, マツキボソゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, オオカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, ナガカツオゾウムシ, アイノカツオゾウムシ, シラクモゴボウゾウムシ, ツツゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, キスジアシナガゾウムシ, フレイアナアキゾウムシ, クリアナアキゾウムシ, ミヤマタマゴゾウムシ, マダラアシゾウムシ, ヤナギシリジロゾウムシ, オビアカサルゾウムシ, キイチゴトゲサルゾウムシ, セダカシギゾウムシ, カミヤコバンゾウムシ, マダラノミゾウムシ, イネゾウムシ。

オサゾウムシ科4種。

クイサビゾウムシ, オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ, コクゾウ=ココクゾウムシ。

【追補】

ヒゲナガゾウムシ科1種。

アカアシヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科1種

ルリオトシブミ。

ゾウムシ科4種。

カシワクチブトゾウムシ, クロツヤサルゾウムシ, ツヤハダヒメゾウムシ, マダラヒメゾウムシ。

オサゾウムシ科1種。

ホオアカサルゾウムシ=ホオアカオサゾウムシ。

【第2報】

ヒゲナガゾウムシ科2種。

シロオビヒゲナガゾウムシ, シリジロヒゲナガゾウムシ。

チョッキリゾウムシ科1種。

ルリイキビチョッキリ。

ゾウムシ科 6 種.

ウスモンカレキゾウムシ, アシナガオニゾウムシ,
ツバキシギゾウムシ, ヒレルクチプトゾウムシ,
イクヤクチプトゾウムシ=ミドリクチプトゾウム
シ, フタホシカギアシゾウムシ.

78. 畑中 照(1975) 兵庫県産ゾウムシ類の記録(1)
きべりはむし 3(2): 2-9.

兵庫県下各地で得られたゾウムシ類の記録. 各種
ごとに詳しいデータがついている.

ヒゲナガゾウムシ科 19 種.

アカアシヒゲナガゾウムシ, クロオビヒゲナガゾ
ウムシ, タマカイガラヒゲナガゾウムシ, ウスモ
ンツツヒゲナガゾウムシ, キノコヒゲナガゾウム
シ, オビキノコヒゲナガゾウムシ, マファラフト
ヒゲナガゾウムシ, エグリヒゲナガゾウムシ, ア
カミヒゲナガゾウムシ *Tropideres rufescens* Roe-
lofs=*Liotocerus seaurus* Boheman, クロヒゲナガ
ゾウムシ, カオジロヒゲナガゾウムシ, シリジロ
ヒゲナガゾウムシ, オオマダラヒゲナガゾウムシ,
チャマダラヒゲナガゾウムシ, キマダラヒゲナガ
ゾウムシ, スネアカヒゲナガゾウムシ, ツツヒゲ
ナガゾウムシ *Hypseus cylindricus*=ツツケナガヒ
ゲナガゾウムシ *Habrissus cylindricus*, クロホソヒ
ゲナガゾウムシ *Phaulimia aberrans*, ナガアシヒ
ゲナガゾウムシ.

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む) 33 種.

モンケシツブチョッキリ, マルムネチョッキリ,
ヤドカリチョッキリ, シリプトチョッキリ, オオ
メイクビチョッキリ, コナライクビチョッキリ,
ルリイクビチョッキリ, イタヤハマキチョッキリ,
ベニホシハマキチョッキリ, ファウストハマキチ
ョッキリ, ブドウハマキチョッキリ, チャイロチ
ョッキリ, カシルリチョッキリ, マダラケブカチ
ョッキリ, ヒメケブカチョッキリ, アシナガオト
シブミ, ルイスアシナガオトシブミ=リュイスア
シナガオトシブミ, ピロウドアシナガオトシブミ,
カシルリオトシブミ, ハギルリオトシブミ, ルリ
オトシブミ, コブルリオトシブミ, ゴマダラオト
シブミ, ヒメゴマダラオトシブミ, ヒメコブオト
シブミ, オトシブミ, ムツモンオトシブミ, ウスモ
ンオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, ウスアカ
オトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ハギツルクビ
オトシブミ=ヒメクロオトシブミ, ヒゲナガオト
シブミ.

79. 畑中 照(1975) 兵庫県産ゾウムシ類の記録(2)
きべりはむし 4(1/2): 8-15.

兵庫県下産ゾウムシ 51 種の記録.

リンゴコフキゾウムシ, コヒゲボソゾウムシ, ヒ
ラズネヒゲボソゾウムシ, コブヒゲボソゾウムシ,
クチプトヒゲボソゾウムシ, ハダカヒゲボソゾウム
シ, カシワクチプトゾウムシ, クロホシクチプトゾ
ウムシ, ケブカクチプトゾウムシ, ヒレルクチプト
ゾウムシ, クリイロクチプトゾウムシ, イタヤクチ
プトゾウムシ=ミドリクチプトゾウムシ, アオヒゲ
ナガゾウムシ, チビヒョウタンゾウムシ, トゲアシ
ゾウムシ, シュウホウチビツチゾウムシ=アキヨシ
チビツチゾウムシ, シロコブゾウムシ, ヒメシロコ
ブゾウムシ, ウスヒョウタンゾウムシ, フキヒョウ
タンゾウムシ, カキゾウムシ, マツトビゾウムシ, コ
フキゾウムシ, マツキボシゾウムシ, ツチイロゾウ
ムシ, ハコベタコゾウムシ, カギアシゾウムシ, オオ
ミズゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウ
ムシ, ナガカツオゾウムシ, アイノカツオゾウムシ,
シラクモゴボウゾウムシ, ゴボウゾウムシ, ヒメゴ
ボウゾウムシ, チビクロツツキクイゾウムシ, ツツ
ゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, キスジアシナ
ガゾウムシ, ホホジロアシナガゾウムシ, カシアシ
ナガゾウムシ, フタキボシゾウムシ, マツアナアキ
ゾウムシ, コクロアナアキゾウムシ, ガロアナア
キゾウムシ, オリブアナアキゾウムシ, フライア
ナアキゾウムシ=クリアナアキゾウムシ, ホソアナ
アキゾウムシ, ミヤマタマゴゾウムシ, クロコブゾ
ウムシ, チュウジョウアナアキゾウムシ.

80. 辻 啓介(1975) 兵庫県産オトシブミの産地追
記 きべりはむし 4(1/2): 44-45.

オトシブミ科, チョッキリゾウムシ科 10 種の記録.

マルムネチョッキリ, シリプトチョッキリ, ベニ
ホシハマキチョッキリ, ファウストハマキチョッキ
リ, ブドウハマキチョッキリ, ヒメケブカチョッキ
リ, ウメチョッキリ, アシナガオトシブミ, ナラルリ
オトシブミ, ケシルリオトシブミ.

81. 的場 頼(1975) 能勢地方のオトシブミ

きべりはむし 4(1/2): 46-47.

オトシブミ科, チョッキリゾウムシ科 15 種の記録.

コナライクビチョッキリ, ベニホシハマキチョ
ッキリ, ブドウハマキチョッキリ, ヒメケブカチョ
ッキリ, アシナガオトシブミ, ルイスアシナガオトシ
ブミ, カシルリオトシブミ, ルリオトシブミ, ゴマダ
ラオトシブミ, ヒメゴマダラオトシブミ, ヒメコブ
オトシブミ, ウスモンオトシブミ, ヒメクロオトシ
ブミ, ハギツルクビオトシブミ, ヒゲナガオトシブ
ミ.

82. 堀田 久(1975) 淡路島産ゾウムシ類について
PARNASSIUS (15) : 1-4.

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)8種。
ルリイキビチョッキリ, ファウストハマキチョッキリ,
ハイイロチョッキリ, モモチョッキリ, アシ
ナガオトシブミ, カシルリオトシブミ, ヒメコブ
オトシブミ, ヒメクロオトシブミ。

ゾウムシ科22種。

ウスアオクチブトゾウムシ, クリイロクチブトゾ
ウムシ, シロコブゾウムシ, ハイロヒョウタンゾ
ウムシ, クロキボシゾウムシ, ハコベタコゾウム
シ, ハスジカツオゾウムシ, ゴボウゾウムシ, オジ
ロアシナガゾウムシ, キスジアシナガゾウムシ,
マツアナキゾウムシ, クスアナキゾウムシ,
オリブアナキゾウムシ, フライアナキゾウ
ムシ=クリアナキゾウムシ, ツツジトゲムネサ
ルゾウムシ, キイチゴトゲサルゾウムシ, ダイコ
ンサルゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, マツシラ
ホシゾウムシ *Cryptorrhynchidius insidicus* Roelofs
=マツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo insidio-*
sus (Roelofs), クリシギゾウムシ, ツバキシギゾウ
ムシ, イネゾウムシ。

オサゾウムシ科3種。

オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ, コクゾウム
シ=ココクゾウムシ。

83. 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第
3報)

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊B5. 24p.

次の但馬地方のゾウムシ類の記録がある。全部デ
ータがついている。

ヒゲナガゾウムシ科1種

キノコヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)4種。

カシルリチョッキリ, ブドウハマキチョッキリ,
ヒメクロケシツブチョッキリ, ハギツルクビオト
シブミ *Cycnotrachelus nitens* Roelofs=ヒメクロオ
トシブミ *Apoderus erythrogaster* Vollenhoven, 1865.

ミツギリゾウムシ科2種。

ミツギリゾウムシ, ムツモンミツギリゾウムシ。

ホソクチゾウムシ科1種。

ヒレルホソクチゾウムシ。

ゾウムシ科7種。

クビアオゾウムシ *Macrocarynus viridulus* Roelofs
=ミドリクチブトゾウムシ *Cyphicerus viridulus*
(Roelofs), クリイロクチブトゾウムシ, ポプルス
イネゾウムシ=ポプラインゾウムシ, アカコ
ブゾウムシ=アカコブコブゾウムシ, ヒラセノミ

ゾウムシ, シロホシヒメゾウムシ=シラホシヒメ
ゾウムシ。

オサゾウムシ科2種(1種は種名未確定)

Diocalandra sp., オオシロオビゾウムシ。

84. 奥谷 慎一(1976) 広域基幹林道予定地昆虫類調
査。

広域基幹林道予定地域自然環境調査報告書。pp.
57-73. (兵庫県農林水産部治山課刊)

播磨基幹林道: 峰山, 砥峰高原, 須留ヶ峰。

播磨中部高原広域基幹林道: 加美町三谷, 市原及
び鳥羽, 千ヶ峰

以上の地域を主に調べ, 甲虫類については高橋寿
郎が担当, 調査・同定・とりまとめを全部実施。オ
リジナルには各種についてはデータも詳しくつけて
あるが本報文では和名のみによる表示になっている。
峰山・砥峰高原一福知溪谷

ヒゲナガゾウムシ科1種。

スネアカヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科3種。

ヒゲナガオトシブミ, ウスアカオトシブミ, ハギ
ツルクビオトシブミ=ハギルリオトシブミ。

ホソクチゾウムシ科1種。

ヒレルホソクチオトシブミ。

ゾウムシ科12種。

ギシギシクチブトサルゾウムシ, コフキゾウムシ,
クチブトヒゲボソゾウムシ, ナガクチカクシゾウ
ムシ, カシワクチブトゾウムシ, ケバクチブト
ゾウムシ, クロカレキゾウムシ, ナカスジカレキ
ゾウムシ, アトジロカレキゾウムシ, オオミズゾ
ウムシ, カグヤヒメキクイゾウムシ, キイチゴト
ゲサルゾウムシ。

須留ヶ峰 朝来町側

スネアカヒゲナガゾウムシ(ヒゲナガゾウムシ科),
オオメキビチョッキリ, ファウストハマキチョ
ッキリ(チョッキリゾウムシ科), リンゴコフキゾ
ウムシ, クチブトヒゲボソゾウムシ, アオヒゲナ
ガゾウムシ, コフキゾウムシ, ナカスジカレキゾ
ウムシ(ゾウムシ科)。

大屋町側

ヒゲナガオトシブミ(オトシブミ科), コモンヒメ
ヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガゾウム
シ(ヒゲナガゾウムシ科), ツツゾウムシ, コヒゲ
ボソゾウムシ, カシワクチブトゾウムシ, トゲア
シゾウムシ, アカコブゾウムシ。

播磨中部高原広域基幹林道周辺(加美町三谷, 市原,
鳥羽)

ヒゲナガゾウムシ科5種。

スネアカヒゲナガゾウムシ, チビヒョウタンヒゲナガゾウムシ, クロヒゲナガゾウムシ, コモンヒゲナガゾウムシ, キノコヒゲナガゾウムシ.

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科を含む)15種.
ヒメコブオトシブミ, ウスモンオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, オトシブミ, ウスアカオトシブミ, ハギツルクビオトシブミ=エゴツルクビオトシブミ, カシルリオトシブミ, クロケシツブチョッキリ, ブドウハマキチョッキリ, ヒメケバカチョッキリ, ヤドカリチョッキリ, オオメイクビチョッキリ.

ゾウムシ科18種.

キアシクチブトサルゾウムシ, カタピロサルゾウムシ, クロツヤサルゾウムシ, ツノクモゾウムシ, セダカシギゾウムシ, コフキゾウムシ, シロコブゾウムシ, リンゴコフキゾウムシ, コヒゲボソゾウムシ, カシワクチブトゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, ホボジロアシナガゾウムシ, カシアシナガゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, マツアナキゾウムシ, ホソアナキゾウムシ.

オサゾウムシ科3種.

オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ, コクゾウムシ.

85. 高橋寿郎(1976) 淡路島の甲虫相

PARNASSIUS (16) : 8.

具体的に説明してあるのは次の種類.

ケバカホソクチゾウムシ, ハイイロヒョウタンゾウムシ=チビクチカクシゾウムシ, クスアアナキゾウムシ, ニセキクイサビゾウムシ.

86. 堀田 久(1976) 先山の昆虫相(1)

PARNASSIUS (16) : 31.

次のゾウムシ類が記録されている.

ヒメクロケシツブチョッキリ, ハイイロチョッキリ, ハギルリオトシブミ, コフキゾウムシ, ツツジゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, ツバキシギゾウムシ, ニセキクイサビゾウムシ, オサゾウムシ, トホシゾウムシ.

87. 大野正男(1976) オオシロオビゾウムシ

昆虫と自然 11(11) : 15-18.

城崎郡日高町金山(高橋,1955), 水上郡青垣町神楽, 佐治(山本,1958)の記録が含まれる.

88. 高橋 匡(1976) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報).

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊.

但馬地方産のゾウムシ類が次のように記録されている. 全部データが入っている(同定は大部分森本桂博士).

ヒゲナガゾウムシ科5種.

クロオビヒゲナガゾウムシ, マダラヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガゾウムシ, キマダラヒゲナガゾウムシ, ウスグロヒゲナガゾウムシ.

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科を含む)7種(うち3種は種名が決定されていない. 日本未記録種, 新種ならんとの注書きあり).

サメハダハマキチョッキリ=サメハダチョッキリ, イタヤハマキチョッキリ, ルイスアシナガオトシブミ, コナライクビチョッキリ.

ホソクチゾウムシ科1種.

ヒメケバカホソクチゾウムシ.

ゾウムシ科9種(うち1種は種名が未決定)

ヒラセクモゾウムシ, オオクチブトゾウムシ, マツトビゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, タデサルゾウムシ, アカアシノミゾウムシ, ツヤケシヒメゾウムシ, ノコギリクモゾウムシ.

89. 伊丹市立博物館(1977) 昆陽池生物目録. B5. 35p.

データはないが昆陽池周辺で採集された生物の学名と和名が記録されている. ゾウムシ類は次の3種が記録されている.

ブドウハマキチョッキリ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウムシ.

90. 広地 昇・奈良隆史・木戸和伸(1977) 三熊山の昆虫について.

PARNASSIUS (17) : 23.

三熊山で採集できた次のゾウムシ類の記録あり. いずれもデータ付き.

カシルリオトシブミ, ツヤケシヒメゾウムシ, クリシギゾウムシ, ヒラセノミゾウムシ, ムネスジノミゾウムシ.

91. 畑中 照(1977) 兵庫県産ゾウムシ類の記録(4). きべりはむし 5(1/2) : 21-31.

県下各地産ゾウムシ科64種, オサゾウムシ科3種の記録. 全て詳しいデータがついている.

マダラカレキゾウムシ, ナカグロカレキゾウムシ, アトジロカレキゾウムシ, ウスモンカレキゾウムシ, クロカレキゾウムシ, ナカスジカレキゾウムシ, マダラアシゾウムシ, ホソクチカクシゾウムシ, アシナガオニゾウムシ, マダラメカクシゾウムシ, ナガ

クチカクシゾウムシ, タカオマルクチカクシゾウムシ, ヒサゴクチカクシゾウムシ, ヒメクチカクシゾウムシ, ニセマツシラホシゾウムシ, マダラクチカクシゾウムシ, ウンモンクチカクシゾウムシ=ウンモンナガクチカクシゾウムシ, ハスジクチカクシゾウムシ, アタマクチカクシゾウムシ, アラハダクチカクシゾウムシ, ノコギリクモゾウムシ, ツノクモゾウムシ, ヤマトヒラセクモゾウムシ, トウキョウクモゾウムシ, ヒラセクモゾウムシ, キアシクチプトサルゾウムシ=アカアシクチプトサルゾウムシ, ツツジトゲムネサルゾウムシ, タデサルゾウムシ, カタピロサルゾウムシ=トゲカタピロサルゾウムシ, ジュウジコブサルゾウムシ, クロツヤサルゾウムシ, アカガネサルゾウムシ, キイチゴトゲサルゾウムシ, ダイコンサルゾウムシ, クロツブゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, ユアサハナゾウムシ, ナシハナゾウムシ, ヘリアカナガハナゾウムシ, シロホシヒメゾウムシ, マダラヒメゾウムシ, タテスジアカヒメゾウムシ, クワヒメゾウムシ, ツヤケシゾウムシ, ジュウジチビシギゾウムシ, レロフチビシギゾウムシ, モンキシギゾウムシ=アキグミシギゾウムシ, セダカシギゾウムシ, チャバネセダカシギゾウムシ, ツバキシギゾウムシ, エゴシギゾウムシ, ナツグミシギゾウムシ, ヒゲブトシギゾウムシ, マルモンタマゾウムシ, シロオビタマゾウムシ, クロタマゾウムシ, オカダノコギリゾウムシ, ガロアノミゾウムシ, ウスモンノミゾウムシ, マダラノミゾウムシ, ヤドリノミゾウムシ, イネゾウムシ, マツチャイロクイゾウムシ, ハンノキコブクイゾウムシ.

オサゾウムシ科3種.

オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ, コクゾウムシ=ココクゾウムシ.

92. 的場 續(1977) オカダノコギリゾウム永ノ山に産す.

PARNASSIUS 5(1/2) : 31.

氷ノ山で3exs.採集された(15.IX.1973)記録.

93. 仲井啓郎(1977) 竹田川の昆虫.

ひかみ(丹波自然友の会) (9) : 104-109.

1972年7月より1976年8月にかけて竹田川周辺で採集された昆虫類86科317種のリストで, 全部和名のみでデータはない. ゾウムシ類は次の記録がある.

オトシブミ科, カシルリオトシブミ, オトシブミの2種. ゾウムシ科はシロコブゾウムシ, クシアナアキゾウムシ=クスアナアキゾウムシ, ゴボウゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, フライアナアキゾウムシ=クリアナアキゾウムシ.

94. 磯野昌弘(1978) オオシロオビゾウムシの採集例. 昆虫と自然 13(1) : 8.

美方郡浜坂での採集記録.

95. 高橋寿郎(1978) 兵庫県神崎郡大河内町川上～砥峯地区の甲虫相

大河内地点自然環境実態調査報告書, p. 56-61.

表記地域で調査の結果, 47年353種を記録したがそのうちゾウムシ類は次のように記録した.

ヒゲナガゾウムシ科2種.

クロオビヒゲナガゾウムシ, カオジロヒゲナガゾウムシ.

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)11種.

ヒメコブオトシブミ, ウステンオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, ムツモンオトシブミ, ウスアカオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ, ルイスアシナガオトシブミ, ルリオトシブミ, カシルリオトシブミ, チャイロチョッキリ.

ゾウムシ科21種.

タデサルゾウムシ, キイチゴトゲサルゾウムシ, オオサルゾウムシ=リュウイスサルゾウムシ, シロホシヒメゾウムシ=シラホシヒメゾウムシ, チャバネセダカシギゾウムシ, コフキゾウムシ, シロコブゾウムシ, リンゴコフキゾウムシ, コヒゲボソゾウムシ, コブヒゲボソゾウムシ, ツチイロヒゲボソゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, ハコベタコゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, ホホジロアシナガゾウムシ, マダラアシゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, シラクモゴボウゾウムシ, カグヤヒメクイゾウムシ.

オサゾウムシ科3種.

オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ, コクゾウムシ=ココクゾウムシ.

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

カナブンの色彩変化その後 並びに兵庫県におけるカナブン 3 種の分布*

高橋 寿郎

日本にはカナブン類としてカナブン、アオカナブン、クロカナブン、イシガキアオカナブンの4種を産し、うちイシガキアオカナブンは石垣島、西表島に産地が限定されているが、他の3種はほぼ日本の全土に産し(カナブンは北海道に分布していない)、まず普通に近いものからやや個体数の少ないものと分布にムラがあるようである。

兵庫県にもこの3種は分布している。兵庫県産の分布を述べる前にこの3種が日本でどのように研究されてきたのか簡単に述べてみる。

研究史

1841年に F.W.Hope は "Description of some new Lamellicorn Coleoptera from Northern India" (Trans. ent. Soc. London, II: 62-67) なる論文を発表した。標題のごとく北インド地方からの鯉角類甲虫新種の記載というものであるが、この論文の p.64 に *Rhomborrhina japonica* Hope なる新種が日本産で記載されている。産地は書いてないが、シーボルトが日本で得た標本で、Leyden の De Hann 教授から送られたとある (Willem de Hann, 1801-1855 は Leiden 生まれの昆虫学者で、同地博物館で無脊椎動物を担当し、また Fauna Japonica の中の甲殻類を執筆した人である - 江崎, 1952)。これがカナブンの新種記載であり、日本から初めて世に紹介された種なのである。続いて 1842 年に Burmeister, H は "Sechate Ordnug Coleoptera Zuft. Lamellicornia, Erste Familia Melitophila Gatt. Rhomborrhina, Gatt. Anthracophora" (Handbuch der Entomologie, Band. III, Berlin, xii + 828pp.) を発表、日本産新種の記載が p.194, 4 にある。4. *Rhomborrhina opalina*, 5. *Rhomborrhina clypeata* Dup.

ともに Japan から記載されているが、現在の知見では *Pseudotorynorrhina japonica* (Hope, 1841) カナブンのことである。

1860年に V.I.Motschulsky は "Insects du Japan" (Etud. Ent. tome 9, pp.4-39) を発表した。

Motschulsky は「日本の昆虫」と題して3篇の論文、1篇の「日本産昆虫目録」を発表している。この論文

は函館駐在のロシア領事 Goschkevitch の夫人の採集品の目録で、鞘翅目及び鱗翅目の多数が記録されている。主として函館産のものようであるが、一部下田または江戸で採集されたと思われるものも含まれている。p.8に *Rhomborrhina unicolor* Motschulsky アオカナブンの新種記載がある。

1866年、V.I.Motschulsky は "Catalog des Insects recus du Japan." (Bull. Soc. Imp. Nat. Moscou, 39(1): 163-300) を発表、その中で次の種の記録がある。p.10, *Rhomborrhina unicolor* Motsch. アオカナブン, *Rhomborrhina japonica* Hope = *Pseudotorynorrhina japonica* Hope カナブン。

Rhomborrhina clypeata Burm. 前種と同じカナブンのこと。

1869年出版の Gemminger et B. de Harold. Catalogus Coleopterorum Tome. IV: 979-1346 (London) の中で分布地 Japonica として次の2種が含まれている。

p.1278, *Rhomborrhina japonica* Hope = *Pseudotorynorrhina* カナブン, p.1279, *Rhomborrhina unicolor* Motsch. アオカナブン。

1874~1880年の間、神戸に在住していた商人 Lenz, Tuison は主として神戸を中心に甲虫類を採集し、F.v.Harold に提供し、それに基づいて 1874年、Harold は "Verzeichniss der von Herrn T.Lenz in Japanese gesammelten Coleoptera." (Abhandl. Nat. Ver. Bremen, IV: 283-296) なる論文を発表した。その p.293, 25に *Rhomborrhina unicolor* Motschulsky, アオカナブンを記録している。もちろん神戸での採集品だと考える。

George Lewis は 1867(慶応3)年から 1872(明治5)年にかけて日本に滞在して(厳密に言えば 1864年 - 元治元年 - と 1865年に日本に立ち寄っていったん帰国して再び 1867年に来日、1872年まで5年間滞在した)。その間長崎、神戸、大阪を中心に横浜、鹿児島なども含めて採集して多くのコガネムシを採集し、持ち帰ったものを 1875年、Waterhouse, C.O. は "On the Lamellicorn Coleoptera of Japan" (Trans. ent. Soc. London, Part. I: 41-46, pl. III) として発表した。その中で、p.113, *Rhomborrhina japonica* Hope = *Pseudotorynorrhina* カナブン, Hab.-Japan. Very common in all the islands. *Rhomborrhina unicolor* Motsch. アオ

* 兵庫県甲虫相資料-362

カナブン, Hab.-Japan. Less common than the preceding, but associated with it. p.113-114, *Rhomborrhina polita* Waterhouse クロカナブン, Hab.-Yokohama. 本種はここで新種記載されている。1875年, E. v. Harold は T. Lenz の採集品による研究報告第2報を発表, "Bericht über eine Sendung Coleopteren aus Hiogo" (Abhandl. Nat. Ver. Bremen, V:115-135). これには49種を記録, うち1新属, 3新種の記載がある。なかでカナブンの記録がある, p.127, 27, *Rhomborrhina japonica* Hope = *Pseudotorynorrhina*.

Rein, Johann Justus (1835-1918) がプロシア公使館顧問として東京に滞在したのは1874-1875年の2年間である。その間前後6回にわたり日本の本州, 四国, 九州を丹念に歩いて採集, 主として甲虫を採集, その結果を L. v. Heyden が次の論文にまとめた。"Die Coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875" (Deut. Ent. Zeit. XXIII, Heft. II: 321-365. 1879). その中には次のカナブンの記録がある。

p.346, 70, *Rhomborrhina unicolor* Motsch. (1861). Hiogo, 71, *R. japonica* Hope (1841). Bei Hiogo 1♂ und 4♀. ともに Lenz の採集品のようなものである。1879年, G. Lewis は日本の甲虫目録を発表した。"A Catalogue of Coleoptera from the Japan Archipelago, p.1-31, London". その中では3種のカナブン類が入っている。

1009. *Rhomborrhina unicolor*, 1010. *Rhomborrhina polita*, p.1011. *Rhomborrhina japonica* = *Pseudotorynorrhina*.

rynorrhina.

1877年, G. Lewis は次の論文を発表した。"On the Cetoniidae of Japan, with Notes of new Species, Synonymy and Localities" (Ann. Mag. Nat. Hist. (5) XIX: 197-202). その中でカナブン類についても記録している。即ち, p.197, 1. *Rhomborrhina unicolor*, Motsch. アオカナブン, 本種は日本の北部では稀ではないが九州では少ないとある。2. *Rhomborrhina polita*, C. Waterh. クロカナブン, Bukeyi (神奈川県横浜市中区豊島寺)に産する。8月には Kadzusa 上総=千葉, 佐渡島にも産する。p.198, 3. *Rhomborrhina japonica* Hope = *Pseudotorynorrhina* カナブン, 本種は大変多く Pryer氏は24時間で125頭も採集したとある。

1887年には Schonfeldt, H. v. による日本産の甲虫目録が発表になった。"Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezüglichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte" (Jahrb. d. nass. Ver. Naturhunde 40: 31-204, ref. 101-111). 当時まで知られた日本産の甲虫目録で, 文献と産地を記入してある。ここでカナブン類は次の種の記録がある。p.110. *Rhomborrhina gigantea* Kraatz, Java 産を Japan と間違えている。*R. japonica* Hope = *Pseudotorynorrhina*, *R. sequamuligera* Thomson 上記種と同一。*R. unicolor* Motsch. Schonfeldt, H. v. は1891年 "Catalog der Coleopteren von Japan Zweiter Nachtrag (Jahrb. d. nass. Ver. f. Nat. 44: 239-274)" を発表しているが, その中で次の種の記録がある。*Rhomborrhina gigantea*.



Rhomborrhina unicolor Motschulsky, 1861
アオカナブン(♂) (箱根・宮ノ下産)



Pseudotorynorrhina japonica (Hope, 1841)
カナブン(♂) (神戸産?)

ジョージ・ルイスが採集したカナブン2種

ジョージ・ルイスが日本で採集した標本で1992年日本甲虫学会が大英博物館から寄贈を受け, 県立人と自然の博物館に再寄贈されたもの。

カナブン2種があり, アオカナブン(♂)は Miyanoshita(宮ノ下, 箱根)とラベルがあるが, カナブン(♂)の方はラベルが無い。神戸市産ではないかと考えられる標本である。

撮影は県立人と自然の博物館の沢田佳久博士にお願いした。厚く御礼申し上げます。

tea Kraatz, Für. Japan zustreichen とあるが Java 産のことである。

1921年には S.Schenkling による W. Junk Coleopterorum Catalogus Pars. 72, Scarabaeidae, Cetoniinae が出版され、日本産カナブン 3種は記載されている。p.63. *Rhomborrhina japonica* Hope = *Pseudotorynorrhina*, p.64. *R. polita* Waterh. p.65. *R. unicolor* Motsch.

1923年になって今までヨーロッパの人々によって研究されてきた日本産 3種のカナブンについて、初めて日本人学者によって分類学的論文の発表があった。それが新島善直・木下栄次郎両博士の「こがねむしに関する研究報告(第二) 我国に産するこがねむし及其分布(北海道帝国大学農学部演習林研究報告Vol.12, No.2:1-253, 7pls.)」である。その中に次のように記述されている。

p.156-157, Taf.V, f.16. *Rhomborrhina japonica* Hope カナブン。分布, China, Korea (Fusan-Söul), Japan (very common in all the island), 熊本, 東京, 熱海, 秩父, 京都, 播磨。変種 var. *clypeata* Burm. (Hand. Ent. III.1842, p.199) は其形短く巾広きものなり, 然れ共予等の標本には形状色沢に於て多少の変化を認むるも特に此区別をなし難しとす。

p.157, Taf.7, fig.15. *Rhomborrhina unicolor* Mot. アオカナブン。分布, Japan, 北海道(札幌, 軽川, 苫小牧, 天塩), 青森, 伊賀, 京都, 熊本, 長野。

p.158. *Rhomborrhina polita* Waterh. クロカナブン。分布, Yokohama, 東京, 山形, 秩父, 熱海, 鹿児島, 秋田。

1933年には原色の図鑑が 3種出版された。カナブン類は学名も安定しているので特に問題になるようなことはない。図鑑名のみを掲げておく。神谷一男・安立綱光, 原色甲虫図譜(1933), 平山修次郎, 原色千種昆虫図譜(1933), 加藤正世, 原色日本昆虫図鑑第八輯, 鞘翅目(1933), なお, 1940年に平山修次郎は原色甲虫図譜を出版したが, その中でカナブンの分布に北海道が加えられている。1935年加藤正世博士は日本人によるはじめての金亀子目録「主要金亀子科の分類」を発表になった(昆虫界 Vol.3, No.17, p.283-289)。その中でカナブン 3種は *Rhomborrhina* 属で記されている。

1939年, 三輪勇四郎・中條道夫両博士は「日本産鞘翅目分類目録Pars.5 金亀子虫科(野田番房・台北)」を発表になった。その中で(p.81-82)カナブン, クロカナブン, アヲカナブンを *Rhomborrhina* (s.str.) で記されている。カナブンの分布で北海道が入っており, var. *clypeata* Burmeister が記されている。

以上, 一応戦前の文献によるカナブン類の研究の

経緯で, 特に問題になるようなことはなく, 戦後に続く。

1950年, 戦後初めての日本昆虫図鑑が出版された(北隆館・東京)。そこには村山醸造博士の「かなぶん」の図説はあるが(p.1319, f.3809), その他のアオカナブン, クロカナブンについては簡単な説明がついているだけである。1955年, 近畿甲虫同好会のメンバーによってカラーによる原色日本昆虫図鑑 甲虫編が出版された。その中で伊賀正汎担当により, 3種のカナブンがカラーで図説された(p.101-102, pl.32, f.695-698)。カラーはあまり良いではなく残念である。属名は *Torynorrhina* を使用している。

1960年, 野村 鎮による戦後初めてのコガネムシ目録「List of the Japanese Scarabaeoidea (Coleoptera)」(Tōhō Gakuho, No.10:39-79), ここでは(p.73-74) 3種が *Rhomborrhina* として記録されている。1963年, 中根猛彦・野村 鎮その他による原色昆虫大図鑑 第2巻(甲虫篇)が出版された(北隆館・東京)。その中で3種はともに *Rhomborrhina* で図説されている(p.135, pl.68, fig.1-3)。1964年版のロシアの「S.N.Medvedev, Fauna U.S.S.R. Scarabaeidae Vol.X, No.5, pp.1-344, 850figs.」が出版され, その中で日本産3種のカナブンが *Rhomborrhina* (s.str.) で図を付け記載されている(p.40, f.17-25, p.45, f.38-41, 42)。同じ年野村 鎮は石垣島からイシガキアオカナブンの記載をされた。

Rhomborrhina hamai Nomura (p.57-58, pl.8, f.15). Holotype♂, allotype♀, Mt.Omoto Ishigaki Is., 15 Jul. 1963 leg.Y.Hama, in coll. S.Nomura & T.Shibata (Ent. Rev. Japan, Vol.XVI, No.2, pp.50-60, pl.7-8, 1964)。

1967年, R.Mikšić は「Revision der Gattung *Rhomborrhina* Hope」(Entom. Abh. Mus. Tierk. Dresden, XXXV, 3:267-335)において *Rhomborrhina* 属の分類学的再検討で *Rhomborrhina* 属を亜属に分けて分類しており, 日本のカナブンをタイプとして *Pseudotorynorrhina* 亜属を創設している。

日本産次の3種についての記載もあり, 多くの日本産検視標本も示されている。

p.288-289. *Rhomborrhina* (*Rhomborrhina* in sp.)

unicolor Motschulsky アオカナブン

大陸に *Rh. unicolor vernicata* Fairmaire を分布とされている。

p.291-292. *Rhomborrhina* (*Rhomborrhina* in sp.)

polita Waterhouse クロカナブン

p.309. Subgenus *Pseudotorynorrhina* Mikšić

Type. *Rh. japonica* Hope

p.312-314. *Rhomborrhina* (*Pseudotorynorrhina*) *japonica* Hope カナブン

1975年、中根猛彦博士監修学研中高生図鑑昆虫II、甲虫が出版され、そこで林 長閑博士が、p.76,221, カナブン、p.76,165, アオカナブン、p.76,248, クロカナブンを図説、全部 *Rhomborrhina* 属で解説。

1977年、Miksic, R. は "Monographie der Cetoniinae der Palaarktischen und Orientalischen Region, Band 2 : 1-400, 15 pls." を発表され、その中で1967年の論文にあるごとく記載されている。

1978年、C.W. Kim は "Distribution Atlas of Insects of Korea, Series 2, Coleoptera, 414p." を出版、その中で *Rhomborrhina japonica* Hope の分布状況を地図で示され (pl. xxxviii, SC52a, p. 381), それに加えて *Rhomborrhina polita* Waterhouse (pl. xxxviii, SC52b.) の分布について言及している。カナブンの方は広く分布しているようだがクロカナブンは釜山、漢陽山、雪岳山だけに記録があるようである。

1985年、黒沢良彦博士は原色日本甲虫図鑑(III) (保育社・大阪)においてこれら4種のカラーによる図説をされている。いずれも *Rhomborrhina* 属の種と取り扱っており、カナブンの体色変化についての言及もある。

1988年、石田正明・藤岡昌介により "日本産コガネムシ主科目録" が発表になった (LAMELLICORNIA 別冊2)。この中でカナブンは亜属 *Pseudotorynorrhina* に属し、他の3種は *Rhomborrhina* 属、亜属に扱っている。

1989年に平島義宏監修の日本産昆虫目録・I が出版された。この中では日本産カナブン類は総て *Rhomborrhina* 属の種として扱われている。

1993年、酒井 香は美しいカラー写真を付けて "日本及び台湾産カナブン類" (月刊むし No. 272: 3-9) を発表、この論文でその特徴をあげてカナブンを従来の *Rhomborrhina* 属から *Pseudotorynorrhina* 属の種に扱っている。

1994年、小林裕和は [カラーハンドブック] 地球博物館 2 甲虫 (PHP研究所・東京) を発表、カナブンの色彩について言及、4種についてカラーで図説した。属名は全部 *Rhomborrhina* を使用している。

1996年、深石隆司は "サキシマアオカナブンの生態" (月刊むし No. 299: 19-21) を発表、詳しくその生態を紹介されている。

1988年、酒井 香・永井信二は "世界のハナムグリ大図鑑" (むし社・東京) を発表になった。ここでは4種をカラーで解説されている。カナブンは *Pseudotorynorrhina* 属の種として、他の3種は *Rhomborrhina* 属の種として扱われている。ここでは、クロカナブンに北海道の分布を追加。カナブンの色彩についても詳しく解説されている。

以上、日本産カナブンの研究の歴史を述べてみた。

カナブンの色彩変化その後

筆者はかつてカナブンの色彩について拙文を発表して頂いた (IRATSUME No. 18: 5-15, 1994)。その後、カナブンの色彩についての詳しい記述のある文献も発表されている (酒井 香, 1993, 小林裕和, 1994, 酒井 香・永井信二, 1998, 牧林 功, etc., 1998)。筆者も各地の標本をかなり入手したが、その色彩変化は酒井 香氏の表現 (1993) が的確に示されていると思われる。"背面は銅褐色、赤褐色、緑銅色、暗緑色、稀に青藍色、さまざまなカラーバリエーションがある。この中で青藍色の個体は極端に少ないことが知られている"。

酒井 香氏も述べているごとく "日本の島嶼においてわずかながら地理的な変異も認められる。例えば対馬産は平均して小型であり、屋久島産と本土産の中間的な個体群といった具合である"。確かに筆者の手許にある対馬産標本はやや平均より小さい個体であり、屋久島産のものは色調がやや明るいといった傾向はうかがえる。こういった色彩の変化とか地理的な変異といった違いはかなりの多くの個体を見比べてみないとはっきりした区分は出てこないのではないだろうか。ただ青藍色の個体は筆者が採集を始めた頃 (1936年頃) はわりと採集できる個体があったのであるが (関 公一は "御影町付近産の甲虫目録、昆虫界 Vol. 1, No. 3, p. 232 ではルリカナブン (假稱) として記録" しており、"大阪・神戸付近の金亀子虫、昆虫界 Vol. 2, No. 9, pp. 308-313, 1934" においてはアログロカナブンとして学名 *Rhomborrhina nigra* Saunders をつけて記録している。もちろんこれは間違いで当時このカナブンの青藍色のものはわりと話題にのぼるぐらい採集されていたのではと考えられる)。現在ではほとんどその姿を見なくなっているのではないだろうか、もっとも基本的なカナブンそのものの姿が神戸付近では極端に少なくなってきたようで、かつてあれほど多数見られ、たやすく採集できたものが今では稀少種の仲間に近いような感じがするが、これは筆者の偏見であろうか。次のような矢野宗幹氏の面白い記録を見ることができた。古い文献になるが "矢野宗幹・コガネムシの色彩" (Lupe, No. 10, pp. 37-38, 創刊 5 周年記念特別号 — 大阪府立北野高校生物研究室刊, 1953) の中で、"筑前の東部ではカナブンの青緑色を帯びたものが多く、無論それには濃淡色々で中にはアオカナブンと区別の出来ないような緑色のものもあり又青藍色かかったものもある。又赤褐色の光沢のある

ものもある。此の色は正確にいい現はせないが生活した時と標本として乾燥し年を経たものとは同一ではない。標本となってからの方が緑はむしろ濃くなったかと思ふ。この緑の型のものは京都から以南に在るといふやうに以前からいわれていたが採集してみてその著しい色変りに驚いた。私が今知りたいと思ふことはこの緑色がかった色変りは京都以南、云い換えれば温かな地方に普通に見られることなのか、そうではなく色変りの多い地方が所々に点在するのであろうかと云うことである(原文通り)"と述べられており、カナブンの色彩変化についての参考になる考え方のように思われる。確かに阪神地方でもこの濃淡は見られる。何か法則というか傾向のようなものがあるのか、まだよくわからない色彩変化がカナブンにはあるように思われる。

カナブンは朝鮮、中国にも分布している。朝鮮産の標本は所有していないが中国四川省花萼山で14~20th.VIII.1958採集された7♂9♀を入手した。交尾器など日本産のものとの相違は見られなかった。それ

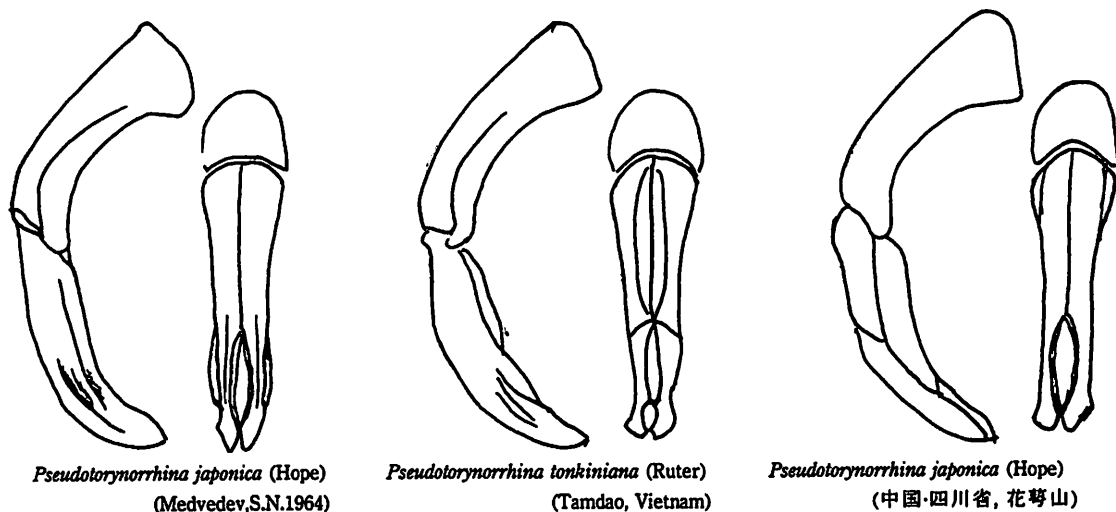
らを見るとこれだけの個体の中にオレンジ色をしたものが1♀、青藍色型のものが2♂1♀入っていた。

酒井 香氏も述べているが、中国では地域により多様な色彩集団も認められるということであるからもっと各地の数多くの標本を集めてみなくてはその傾向はよくわからない。

ベトナムのTAMDAO産の3♂1♀(3Jun.1990)の標本が私の手許にある。交尾器は日本のものと若干違うようである。色彩は極めて強い光沢のある茶褐色で、一見して別種と考えられる。従来亜種として扱われていたが、酒井 香氏は大図鑑において次の特徴から独立種に昇格されている。

"体長26.0~30.9mm。背面はつやのある緑褐色から赤褐色、まれに黒色、腹面はつやのある緑色、♂の触片片状部は♀より長く触角の付け根内側は明瞭に隆起する。後胸腹板は黄褐色の長毛で覆われ、中胸膜板突起は卵形"、以上の特徴から *Pseudotorynorrhina tonkiniana* (Ruter, 1965) として独立種扱いにされた(酒井,1998)。

カナブン 3 地域産交尾器



兵庫県における3種のカナブンの分布状況

さて、兵庫県におけるカナブン類は3種が分布しているのであるが、普通種と考えられるカナブン類でも記録されている地点はそれほど多くない。普通種ということで記録があまりされていないからでは

と考えられる。アオカナブンは神戸近傍では以前ごく普通に見られたが、現在ではカナブン以上にその姿を見ることが少なくなっている。クロカナブンは以前から記録の少ない種である。もっと分布していると考えられるが依然記録は現れない。これらのカナブン類も次第にその姿が少なくなりつつある状況

のように思われる。

ここで現在まで記録された産地を記すとともに、地図上でその分布を示してみた。

当地では普通と考えられているカナブンが東北地方での産が極めて僅かしか記録がないことと、北海道に分布していないように思われる(平山修次郎は北海道の分布と書いているし、1939年の三輪勇四郎、中條道夫博士の日本産鞘翅目分類目録の中でもカナブンの分布地に北海道を掲げている)こと、このことは酒井 香も“東北地方での分布状況は詳しく調べる必要があると思われる”と述べている(1993)。兵庫県の分布を示す前にこの3種の日本での分布状況を示しておく。

Rhomborrhina (s.str.) *unicolor* Motschulsky, 1861

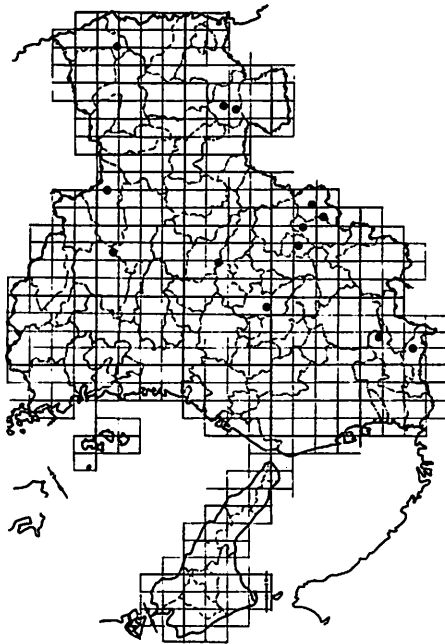
アオカナブン

分布。日本(北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 平戸島, 五島列島, 対馬?)。

Rhomborrhina (s.str.) *polita* Waterhouse, 1875

クロカナブン

分布。日本(北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 伊豆諸島, 対馬, 飯島, 屋久島)。



兵庫県におけるクロカナブンの分布

Pseudotorynorrhina japonica (Hope, 1841)

カナブン

分布。日本(本州, 四国, 九州, 粟島, 佐渡, 伊豆諸島, 隠岐, 平戸島, 奄岐, 対馬, 黒島, 屋久島, 種子島), 朝鮮半島, 中国。

兵庫県におけるカナブン3種の分布

Rhomborrhina polita Waterhouse, 1875

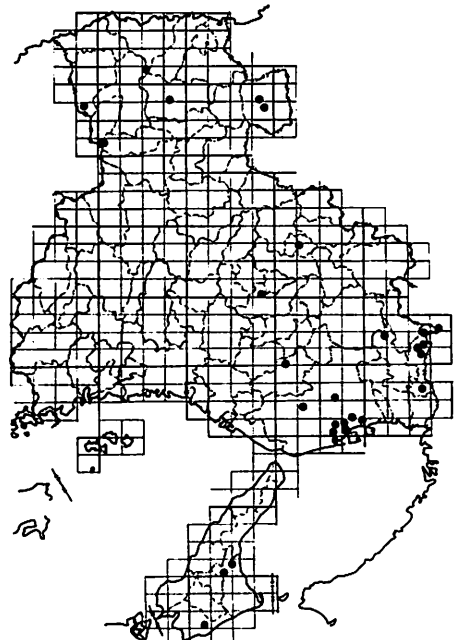
クロカナブン

産地。川西市芋生[仲田, 1982]。宝塚市香合新田[田中, 1992]。神崎郡笠形山[森田, 1989]。多可郡八日山[西脇, 1965]。宍粟郡音水[1♀, 8.VIII.1976, 山本勝也採集, 1ex., 24.VIII.1971, S.Ogura leg., 1♀, 5.VIII.1986, T.Takahashi leg.], 一宮町黒尾山[森田, 1986]。水上郡柏原町(1♀, 6.VIII.1955, 1♀, 25.VIII.1955, Y.Yamamoto leg.), 黒井町(1♂, 5.VIII.1955, 1♀, 10.VIII.1955, Y.Yamamoto leg.), 市島(1♀, 3.VIII.1955, Y.Yamamoto leg.), 妙高山(1♀, 15.VIII.1955, Y.Yamamoto leg.)。出石郡出石町内町[高橋, 1963, 1981]。出石郡桐野[高橋, 1975, 1981]。美方郡浜坂町久斗山本谷[黒井, 1995]。

Rhomborrhina unicolor Motschulsky, 1861

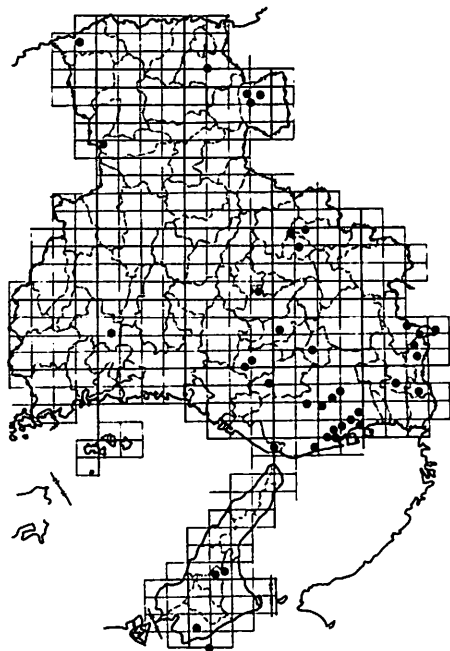
アオカナブン

産地。洲本市安乎町[堀田, 1959, 1974]。先山[久松, 1974]。三原郡鯉鶴羽山[久松, 1974]。川西市笹部(2♀,



兵庫県におけるアオカナブンの分布

21.VII.1959, Tsukaguchi leg.), 多田(1♀, 24.VII.1968), 能勢妙見山(1♀, 30.VII.1982), 笹部, 早野, 横地, 東畦野[仲田, 1978, 1982]. 伊丹市昆陽池[河上, 1985]. 宝塚市香合新田[田中, 1992]. Hiogo[Heyden, 1879 leg., Schonfeldt, 3♂1♀, Miksic, R., 1977], Kobe[leg. Bode meyer, 3♂1♀, Miksic, R., 1977], Kobe, Hiogo[Miksic, 1967], 神戸市御影[関, 1933], 摩耶山[増田, 橋本, 1941], 箕谷(1♀, 25.VI.1948), 山の街(1♀, 19.VII.1953), 多井畑(3♀, 26.VII.1990), 垂水区下畑[竹中, 1937], 垂水下畑[竹中, 1935], 妙法寺[鳥居, 1962], 下谷上(1ex, 29.VIII.1979), 木津(1♀, 27.VII.1984), 鳥原(4♀, 6.VIII.1939, 1♀, 11.VII.1939, 1♀, 16.VII.1939, 2♀, 12.VII.1938, 1♀, 22.VII.1938, 1ex, 6.VII.1972, 1♂1♀, 7.VII.1980, 3♂1♀, 8.VII.1980, 3♀, 17.VII.1980, 1♀, 15.VII.1980, 1ex, 19.VII.1980, 1♀, 9.VIII.1980, 1♀, 11.VIII.1980, 1♀, 18.VII.1981, 1♂, 11.VII.1981, 1♀, 9.VII.1982, 1♀, 15.VII.1982, 1♂3♀, 17.VII.1982, 1♀, 4.VII.1983, 3♀, 6.VII.1983, 1♀, 3.VII.1984, 2♂1♀, 6.VII.1984, 2♀, 7.VII.1984, 2♀, 10.VII.1984, 2♀, 17.VII.1984, 1♀, 31.VII.1984, 1♀, 2.VIII.1990). 三木市口吉川(1♀, 14.VII.1986). 多可郡寺山[西脇, 1965]. 揖保郡[大上, 1901]. 氷上郡柏原(1♀, 6.VIII.1955, 1♂, 8.VIII.1955). 出石郡神美村[北村, 1937], 出石郡中村[高橋, 1963, 1981]. 城崎郡神鍋山[原, 1938], 三川山[高橋, 1975, 1981]. 養父郡水ノ山(2♀, 27.VII.1956,



兵庫県におけるカナブンの分布

2♀, 21.VII.1958) [高橋, 1981]. 美方郡扇の山[湯浅, 1961, 辻, 岸田, 1972].

Pseudotorynorrhina japonica (Hope, 1941)

カナブン

産地. 洲本市三熊山[堀田, 1959, 1974], 先山[堀田, 1976]. 三原郡輪鶴羽山[久松, 1974], 沼島[楠井, 1992]. 川辺郡猪名川町肝川, 内馬場[仲田, 1978], 槻並(1♂, 2.VII.1977). 川西市多田(5♂, 24.VII.1938, 5♀, 24.VII.1978, 2♂1♀, 4.VII.1941), 笹部(1♀, 21.VII.1959, Tsukaguchi leg.), 笹部, 見野, 横地, 東畦野, 山原, 芋生[仲田, 1978, 1982], 能勢妙見山(1♀, 30.VII.1982). 伊丹市[河上, 1984]. 宝塚市武庫川町[新家, 1988]. Hiogo[Harold, 1876, Heyden, 1879, leg., Rein, 1♂, Miksic, R., 1977], Kobe[leg., Fruhstorfer, Gottsche and Trotzig, 3♂2♀, Miksic, R., 1977], Kobe, Harima, Hiogo[Miksic, R., 1967]. 神戸市御影[関, 1933], 摩耶山[増田, 橋本, 1941], 鳥原(3♂1♀, 12.VII.1938, 1♀, 10.VII.1938, 1♀, 22.VII.1938, 2♀, 14.VII.1973, 1♂, 11.VII.1981, 1♂, 13.VII.1982, 1♂1♀, 9.VII.1982, 3♂1♀, 4.VII.1983, 1♂, 6.VII.1983, 1♀, 3.VII.1984, 1♀, 4.VII.1984, 2♂1♀, 16.VII.1984, 1♂1♀, 7.VII.1984, 1♂, 8.VII.1984, 5♂, 9.VII.1984, 1♂1♀, 10.VII.1984, 1♂, 8.VII.1984, 5♂, 9.VII.1984, 1♂1♀, 10.VII.1984, 3♂5♀, 17.VII.1984, 2♂, 31.VII.1984, 3♂, 21.VII.1985, 1♀, 16.VIII.1987, 2♀, 22.VII.1971), 藍那(2♀, 28.VI.1993, 3exs., 15.VII.1973), 山の街(14♂4♀, 11.VIII.1957, 1♂6♀, 19.VII.1953), 木津(1♀, 22.VII.1984), 須磨[北村, 1937], 妙法寺[鳥居, 1962], 多井畑(4♀, 18.VII.1990), 鈴蘭台大山公園(1♂, 5.V.1930), 白川(1♂2♀, 26.VII.1998, 1♂, 25.VII.1979), 下谷上(1♀, 29.VIII.1979). 播磨[新島, 木下, 1922], Harima[leg. Kriechaldolf 2♂2♀, Miksic, R., 1977]. 明石市明石公園(2exs., 29.VI.1975, 1♂, 26.VI.1978, 1♂, 12.VII.1979). 美濃郡吉川(2♂1♀, 26.VIII.1985, 2♂, 2.VIII.1985). 三木市口吉川(1♂1♀, 14.VII.1986). 小野市大上(1♂1♀, 8.VII.1987), 来住町(1♀, 26.VI.1991). 加東郡社町三草(2♂2♀, 6.VII.1989, 1♂1♀, 14.VII.1989). 飾磨郡家島[上田, 1981, 楠井, 1992]. 多可郡寺山[西脇, 1965]. 揖保郡[大上, 1907], 新宮町福原(2♂2♀, 7.VII.1992, 2♂3♀, 15.VII.1992). 氷上郡[山本, 1958], 黒井(1♂, 2.VII.1955), 妙見山(1♂, 15.VIII.1955). 出石郡神美村[北村, 1937], 松ヶ枝[高橋, 1963], 出石町内町[高橋, 1975, 1981]. 豊岡市京町[高橋, 1975, 1985]. 養父郡水ノ山(2♂1♀, 27.VII.1956) [高橋, 1981]. 美方郡浜坂町城山[黒井, 1995].

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区水室町1-44)

兵庫県のカギバガ科・オオカギバガ科・トガリバガ科

兵庫県産蛾類分布資料・14

高島 昭

カギバガ科、オオカギバガ科の蛾は、夜間採集を行ってもよく飛来し、比較的良好に目立つ。一部の種を除いては同定も容易である。データの集積も進んでいるのでこれまでの記録を整理し、分布状況をまとめてみる。掲載した記録は1999年8月20日現在で入手できた資料に基づいた。記載要領等は前報「兵庫県のカレハガ上科とカイコガ上科」(きべりはむし27(1), p.28-39)に準じる。

カギバガ科 <DREPANIDAE>

カギバガ科の蛾は一般に幅広い翅を持ち、前翅頂は鎌状にとがることが多くこの仲間の名の由来になっている。小型から中型のものが多く、主にアジアの熱帯地方に繁栄する。日本には30種が分布し、そのうち県内には25種が確認されている。

地域別に見ると神戸9種、阪神・北摂15種、中東播南部5種、中東播北部9種、西播南部14種、西播北部19種、南但19種、北但11種、丹波15種、淡路北部5種、淡路南部10種となっており(第1表参照、1999年8月20日現在)、西播から南但にかけて種類数が多い。これは他の種類にも共通した傾向で、言い換えれば平凡な分布状況を示す種群であるといえる。そのなかでオガサワラカギバ、エゾカギバ、ウスイロカギバ、オオギンモンカギバ、ヨスジシロカギバ、モンウスギヌカギバ、ナカモンカギバ、オキナワカギバは採集記録が少なく注目種である。また、近隣府県で記録のあるヒメウコンカギバ、オオフトカギバは今後の発見が期待される。

<カギバガ亜科 DREPANINAE>

1. *Agnidra scabiosa* (Butler) (2080)

マエキカギバ

北海道から九州、対馬にかけて分布する。クヌギ、コナラ、クリなどを食べる。県下では各地に普通に見られ、5~6月と8~9月の2回発生する。記録のない淡路北部にも普通に産すると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃³⁾)

宝塚市(西谷西部, 14.V.1977, 1♂; 28.V.1977, 1♂; 27.VI.1987, 1♂; 6.VIII.1988, 1♂; 20.VIII.1988, 1♂1♀; 17.VI.1989, 1♀; 8.VI.1991, 1♀, 東正雄²⁾; 武田尾, 2.VI.1987, 1♀, 東正雄²⁾)
川西市(黒川, 18.V.1996, 1♀; 7.VI.1997, 1♀, 高島昭³²⁾; 同, 7.IX.1996, 2♂1♀, 近藤伸一³²⁾)
猪名川町(上阿古谷, 21.VII.1982, 1♂, 夏秋ほか⁹⁾)
黒田庄町(喜多, 12.IX.1960, 1ex., 岡本清; 同, 12.VI.1961, 1ex., 岡本清; 同, 15.VI.1961, 1ex., 岡本清; 同, 18.VI.1961, 1ex., 岡本清)
姫路市(広嶺山, 22.VI.1996, 1♀, 高島昭³⁰⁾)
一宮町(福知溪谷, 16.VI.1975, 1♂, 遊磨正秀⁶⁾)
波賀町(引原, 26.VI.1988, 1♂, 高島昭²⁷⁾; 坂の谷, 15.V.1998, 1♂, 高島昭)
相生市(瓜生, 24.V.1989, 1♀, 高島昭²⁸⁾)
上郡町(行頭, 7.IX.1995, 1♂, 高島昭²⁹⁾)
三日月町(下本郷, -.-.VIII.1983, -; -.-.V.1984, -; -.-.VI.-, -; -.-.IX.-, -, 川副昭人⁷⁾)
豊岡市(山本, 7.VI.1973, -, 山根政之²⁵⁾)
村岡町(瀬川平, 12.VIII.1989, 1♂1♀, 近藤伸一)
大屋町(田淵山, 5.VIII.1975, 目, 遊磨正秀⁶¹⁾)
水ノ山(-.-.-, -, 山本義丸⁴⁶⁾; 同, -.-.-, -, 遠山ほか¹⁹⁾)
水上郡(-.-.-, -, 山本義丸⁴⁴⁾)
南淡町(賀集, 8.IX.1994, -, 藤平明⁴⁾)

2. *Microblepsis acuminata* (Leech) (2081)

オガサワラカギバ 注目種

東北北部から九州にかけて分布し、ツノハシバミ、サワシバ、オニグルミなどを食べる。マンレイカギバによく似るが前翅横脈上に2個の黒褐色点があることで区別できる。県下では山地性で、西播北部から北但地域の山地帯から見つかっているが個体数は少ない。

[採集記録]

波賀町(坂の谷, 5.VI.1998, 1♂; 19.VIII.1998, 1♀, 高島昭³⁴⁾)

村岡町(瀬川平, 12.VIII.1989, 1♀, 近藤伸一)

大屋町(横行溪谷, 4.VI.1999, 1♂, 高島昭)

3. *Microblepsis manleyi* (Leech) (2082)

マンレイカギバ

東北北部から九州にかけて分布する。カマツカを食べる。オガサワラカギバとは前翅横脈上の黒褐色点が1個しかないので区別できる。県下での採集例は少なく5市町で記録されているだけである。山地よりむしろ内陸の低山地帯に主たる分布域があるようで、6月の記録が多い。

【採集記録】

宝塚市(西谷西部,17.VI.1989,1♂,東正雄²⁶)
八千代町(笠形山,26.VI.1960,1ex.,岡本清)
一宮町(福知溪谷,16.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁰)
三日月町(下本郷,-.VI.-,-;-.VI.1984,-,川副昭人⁷)
柏原町(柏原,-.-,-,山本義丸⁴⁷)

4. *Pseudalbara parvula* (Leech) (2083)

ヒメハイロカギバ

北海道から九州にかけて生息する。幼虫はノグルミ、オニグルミを食べる。県下では西部から北部にかけて採集されている。低山地から山地帯まで幅広く生息するようで、記録のない県東南部からも見つかると思われる。年2回発生する。

【採集記録】

姫路市(書写山,8.V.1961,1ex.,岡本清)
安富町(大河溪谷,7.V.1999,1♂,高島昭)
波賀町(引原,5.VIII.1988,1♀,高島昭²⁷:坂の谷,27.V.1998,1♂,高島昭)
相生市(瓜生,13.V.1989,1♀,高島昭²⁸:同,30.IV.1997,1♀,高島昭)
上郡町(行頭,2.VI.1995,1♀,高島昭²⁹)
大屋町(横行溪谷,25.VI.1999,1♂,高島昭:同,8.VIII.1999,1♀,高島昭)
関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁴)
氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)
柏原町(柏原,-.-.-,山本義丸⁴⁷)

5. *Nordstromia japonica* (Moore) (2084)

ヤマトカギバ

東北北部から九州、対馬にかけて分布し、各地に多産する。幼虫はクヌギ、コナラ、クリなどを食べる。県下では各地に普通に見られ、本科中の最普通種である。記録のない神戸、北但、丹波の各地域にも広く生息していると思われる。

【採集記録】

宝塚市(宝梅,25.IX.1988,1♂,東正雄²⁶:光明町,30.IX.1988,-,新家勝²⁶:切畑検見,14.IX.1986,-,新家勝

²⁶:西谷西部,24.IX.1977,1♀;9.VII.1988,1♂;5.VIII.1988,1♂;17.IX.1989,1♀,東正雄²⁶)

川西市(黒川,3.V.1997,1♂,高島昭³²)

猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,1♂;12.VIII.1982,1♂,夏秋ほか⁹)

黒田庄町(喜多,12.IV.1960,1ex.,岡本清:同,13.IX.1960,1ex.,岡本清:同,12.VII.1961,1ex.,岡本清:同,2.V.1962,1ex.,岡本清)

姫路市(広嶺山,-.-,1982,-,木村三郎⁸:同,13.V.1982,2♂,相坂耕作)

波賀町(引原,22.IX.1988,1♂,高島昭²⁷)

相生市(瓜生,13.V.1989,1♂;24.V.1989,1♀,高島昭

²⁸:同,28.IV.1997,1♂,高島昭:同,18.VII.1997,1♀,高島昭:同,22.VIII.1997,1♀,高島昭:同,25.IX.1997,1♀,高島昭)

上郡町(船坂,8.IV.1998,1♂,高島昭)

三日月町(下本郷,-.VII.1983,-;-.VIII.1983,-;-IV.-,-;-.-.VI.-,-;-.-.V.1984,-;-.-.VI.1984,-;-.-.VII.1984,-;-.-.IX.1984,-,川副昭人⁷)

和田山町(久世田,12.VII.1998,1♂,柴田剛)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♀,遊磨正秀⁵¹:横行溪谷,8.V.1999,1♂,高島昭:同,15.V.1999,1♀,高島昭)
津名町(大町畑,29.IV.1973,1♂;30.IV.1973,1♂,登日邦明⁴⁰)

洲本市(厚浜,4.VI.1981,-,藤富正昭⁵)

南淡町(阿万,18.V.1974,-,藤平明¹:賀集,3.V.1995,-,藤平明⁴:福良甲,3.V.1996,-,藤平明⁴:福良向谷,11.V.1996,-;7.IX.1996,-;22.IV.1997,-,藤平明⁴:灘大川,7.V.1994,-,藤平明⁴)

6. *Nordstromia grisearia* (Staudinger) (2085)

エゾカギバ 注目種

北海道、本州、九州に分布する。幼虫はブナ、ツノハシバミ、ダケカンパなどを食べる。ヤマトカギバによく似るが翅表の色彩は暗く、翅の裏面は無紋である(前種では前・後翅の裏面に外横線と横脈点がある)。西南日本では山地性となり、県下では西播北部から北但にかけての高地帯を中心に記録されている。播但山地や丹波地域にも生息していると思われる。

【採集記録】

波賀町(引原,7.VI.1988,1♂;17.IX.1988,1♀,高島昭²⁷:坂の谷,26.VIII.1998,1♀,高島昭:同,17.IX.

1998,1♀,高島昭)

温泉町(扇ノ山,25.VIII.1984,1♀,谷田昌也³⁷)

氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)

7. *Sabra harpagula* (Esper) (2087)

ウスオビカギバ

北海道から九州にかけて分布するが、西南日本では山地性である。シラカンバ、ダケカンバが食樹として知られるが、ほかにも食樹として利用される植物があると思われる。

県下では、西播北部から北但地域にかけての山地帯に広く分布すると思われる。

[採集記録]

波賀町(坂の谷,15.V.1998,1♂,高島昭:同,5.VI.1998,1♂,高島昭)

温泉町(扇ノ山,11.VIII.1984,1♀,谷田昌也³⁷:同,11.VIII.1984,1♀,川副昭人⁹⁷)

朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,1♂,遊磨正秀⁴⁹)

大屋町(横行溪谷,28.V.1999,1♂,高島昭:同,4.VI.1999,1♂,高島昭)

氷ノ山(ー.ー.ー,ー,遠山ほか¹⁹)

関宮町(鉢伏高原,23.VII.1975,1♀,山本義丸⁴⁸:氷ノ山,ー.ー.1954,ー,山本義丸⁴⁴)

8. *Drepana curvatula* (Borkhausen) (2088)

オビカギバ

第1表 カギバガ科、オオカギバガ科各種の兵庫県下における地域別記録状況

20. VIII. 1999現在	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	特記事項
カギバガ科													
1. マエキカギバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	19	
2. オガサワラカギバ						○	○	○				3	注目種 山地性
3. マンレイカギバ		○		○	○	○			○			5	
4. ヒメハイロカギバ			○	○	○	○	○		○			9	
5. ヤマトカギバ		○	○	○	○	○	○			○	○	22	
6. エソカギバ						○	○	○				4	注目種 山地性
7. ウスオビカギバ						○	○	○				6	山地性
8. オビカギバ						○	○	○				6	山地性
9. うコンカギバ		○	○	○	○	○	○	○	○		○	28	
10. ギンモンカギバ	○	○		○	○	○	○	○	○		○	15	
11. ウスイロカギバ						○						2	注目種
12. オオギンモンカギバ											○	1	注目種 暖地性
13. ヨスジシロカギバ							○					1	注目種 山地性
14. フタデシロカギバ	○				○	○	○		○	○		7	
15. ホシベッコウカギバ	○	○		○		○	○	○	○			11	
16. マダラカギバ		○				○	○					7	
17. ヒトツメカギバ	○	○			○	○	○		○			9	
18. ウスギヌカギバ	○	○	○		○	○	○	○	○		○	20	
19. モンウスギヌカギバ					○				○			3	注目種
20. ナカモンカギバ		○							○			2	注目種
21. スカシカギバ	○	○		○	○		○	○	○	○	○	16	
22. アシベニカギバ	○	○			○	○	○		○	○	○	20	
23. オキナワカギバ		○										1	注目種
24. クロスシカギバ		○		○	○	○	○	○	○		○	14	
25. アカウラカギバ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	18	
計	9	15	5	9	14	19	19	11	15	5	10		
オオカギバガ科													
1. オオカギバ		○				○			○			5	
2. ギンスジカギバ						○	○		○			8	
計		1				2	1		2				

北海道から九州にかけてと千島に産する。食樹としてヤマハンノキ、シラカンバ、ダケカンバ、ヤシヤブシが知られている。県下では、前種と同様西播北部から北但地域にかけての山地帯で採集されている。

[採集記録]

波賀町(引原,1.IX.1988,1♂,高島昭²⁷:坂の谷,28.IV.1998,1♂1♀,高島昭:同,24.VII.1998,1♂,高島昭:同,28.VIII.1998,1♀,高島昭)
村岡町(澁川平,12.VIII.1989,1♀,近藤伸一)
朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁴⁹)
大屋町(横行溪谷,15.VII.1999,1♀,高島昭)
関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁴)

9. *Tridrepana crocea* (Leech) (2089)

ウコンカギバ

本州北部から九州、対馬にかけて分布し、各地に多産する。幼虫はカシ類を食べるという。県下においても各地に多産し普遍的な分布を示す。

[採集記録]

宝塚市(南口2丁目,3.X.1979,-,新家勝¹³:中山寺2,21.X.1978,-,新家勝²⁸:大原野,23.VI.1979,1♂,東正雄²⁸:西谷西部,24.IX.1977,1♂1♀;19.X.1986,1♂;27.VI.1987,1♂;6.VIII.1988,1♂1♀,東正雄²⁸:武田尾,2.VI.1987,1♂,東正雄²⁸)
妙見山(26.VIII.1983,1♂,夏秋ほか¹¹)
三田市(香下,24.VII.1989,1♂,東正雄²⁸)
黒田庄町(喜多,13.IX.1960,1ex.,岡本清:同,29.X.1960,1ex.,岡本清:同,14.VI.1961,2exs.,岡本清:同,18.X.1961,1ex.,岡本清:同,22.X.1962,1ex.,岡本清)
高砂市(米田町,5.XI.1974,1ex.,岡本清¹⁸)
姫路市(広嶺山,-.-.1982,-,木村三郎⁸)
安富町(皆河,21.X.1988,1♀,高島昭:大河溪谷,5.VI.1999,1♂,高島昭)
波賀町(引原,7.VI.1988,1♂;5.VIII.1988,1♂;9.VIII.1988,1♀;1.X.1988,1♂,高島昭²⁷:同,21.X.1997,1♂,高島昭:坂の谷,25.IX.1998,1♂,高島昭)
三室山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)
相生市(瓜生,30.VI.1989,1♂,高島昭²⁸)
上郡町(船坂,23.X.1997,1♀,高島昭)
三日月町(下本郷,-.VIII.1983,-;-.-.VI.-,-;-.-.IX.-,-;-.-.X.1984,-,川副昭人⁷)
豊岡市(山本,27.V.1973,-,山根政之²⁴)
竹野町(森本,30.VIII.1998,1♀,柴田剛)
和田山町(久世田,3.X.1988,2♀,近藤伸一:同,8.X.1988,1♀,近藤伸一:同,17.X.1988,1♀,近藤伸一:

同,28.VIII.1989,1♂,近藤伸一:同,23.X.1998,1ex.,柴田剛)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,目,遊磨正秀⁵¹)

氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁴⁴)

南淡町(阿万,18.V.1973,-,藤平明¹:阿万上町,25.X.1983,-;20.VII.1995,-,藤平明⁴:筒井,12.IX.1993,-,藤平明⁴:福良向谷,11.V.1997,-;30.VII.1997,-,藤平明⁴:灘大川,25.X.1994,-,藤平明⁴:灘黒岩,18.VII.1998,-;11.X.1998,-,藤平明⁴)

10. *Callidrepana patrana* (Moore) (2091)

ギンモンカギバ

東北北部から九州、対馬に分布する。各地にごく普通に見られる。幼虫はヌルデを食べる。県下においても各地に普通で、記録のない中東播南部、北但、淡路北部の各地域にも広く分布すると思われる。

[採集記録]

神戸市(六甲山,-.-.1933,-,戸澤信義⁴³:摩耶山,-.-.-,田中蕃³⁴)
宝塚市(波豆,22.VII.1979,1♀,東正雄²⁸)
川西市(黒川,3.V.1997,1♂,高島昭³²)
八千代町(笠形山,5.VIII.1962,1ex.,岡本清)
三室山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)
波賀町(引原,29.VII.1988,1♂;17.IX.1988,1♀,高島昭²⁷:坂の谷,28.IV.1998,1♂,高島昭:同,12.VIII.1998,1♂,高島昭)
三日月町(下本郷,-.V.1984,-;-.-.VI.-,-;-.-.VIII.1983,-;-.-.IX.1984,-,川副昭人⁷)
朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,2♂,遊磨正秀⁴⁹)
和田山町(久世田,12.IX.1989,1♀,近藤伸一:同,23.IX.1989,1♀,近藤伸一:同,24.IV.1998,1♂,柴田剛)
氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)
関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁴)
氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁴⁴)
南淡町(賀集,3.V.1995,-,藤平明⁴:灘黒岩,4.V.1997,-,藤平明⁴)

11. *Callidrepana palleola* (Motschulsky) (2092)

ウスイロカギバ 注目種

北海道から九州まで分布する。幼虫はウルシ、ヤマウルシを食べる。県下では現在のところ西播北部の波賀町で得られているだけで少ない種のようなのである。大阪府箕面市でも記録があるので、よく調査すれば案外広く分布しているかもしれない。

[採集記録]

波賀町(引原,5.IX.1987,1♂;25.VII.1988,1♂,高島昭

²⁷: 坂の谷, 31.VII.1998, 1♂, 高島昭)

12. *Callidrepana hirayamai* Nagano (2094)

オオギンモンカギバ 注目種

南方系の種で本州南西部、四国南部、九州南部、屋久島、沖縄に分布する。県下では、最近淡路島の諭鶴羽山で採集されており、同地では定着している可能性がある。

[採集記録]

南淡町(鎌黒岩, 29.VII.1997, -; 4.V.1998, -, 藤平明⁴)

13. *Ditrigona quinquelineata* (Leech) (2096)

ヨスジシロカギバ 注目種

局地的な分布をする種で、東北南部、関東、近畿、九州山地から得られている。幼虫はミズキ、ヤマボウシを食べる。県下では氷ノ山から得られた1例しか知られていない。今後の再発見が期待される。

[採集記録]

関宮町(氷ノ山, -, 1954, -, 山本義丸⁴⁴)

14. *Ditrigona virgo* (Butler) (2097)

フタテンシロカギバ

北海道から九州にかけてと屋久島に分布する。幼虫はミズキ、クマノミズキを食べることが知られている。県下では、分布は比較的広いが採集例はそれほど多くない。年1回、夏に発生するようである。

[採集記録]

神戸市(有馬, 25.VII.1949, 1♂, 東正雄²⁶)

波賀町(坂の谷, 17.VII.1998, 1♀, 高島昭: 同, 31.VII.1998, 1♀, 高島昭)

相生市(瓜生, 16.VI.1996, 1♀, 高島昭³³)

大屋町(横河溪谷, 8.VIII.1999, 1♀, 高島昭)

関宮町(氷ノ山, -, 1954, -, 山本義丸⁴⁴)

青垣町(神楽, -, -, -, 山本義丸⁴⁷)

北淡町(常隆寺山, 5.VIII.1972, 1♀, 登日邦明⁴²)

15. *Deroca inconclusa* (Walker) (2098)

ホシベッコウカギバ

東北北部から九州、対馬、屋久島にかけ分布する。西南暖地では山地性となる。幼虫はクマノミズキ、ヤマボウシを食べるといふ。県下では山地に分布が偏り、淡路地域からは記録がない。

[採集記録]

神戸市(東六甲, 10.VIII.1931, 1♂, 東正雄²⁶: 谷上, 27.VIII.1936, 1♀, 東正雄²⁶)

宝塚市(立合新田, 6.VII.1987, -, 新家勝²⁶: 玉瀬,

29.VII.1990, -, 新家勝²⁶)

加美町(三国岳, 23.IX.1959, 1ex., 岡本清)

波賀町(引原, 9.VIII.1988, 1♀, 高島昭²⁷)

日高町(神鍋山, -, VI.1987, 1♂, 相坂耕作)

生野町(段ヶ峰, 8.VIII.1953, 1♂, 山本義丸⁴⁸)

大屋町(田淵山, 5.VIII.1975, 1♀, 遊磨正秀⁵¹)

氷ノ山(-, -, -, 山本義丸⁴⁸: 同, -, -, -, 遠山ほか¹⁹)

関宮町(氷ノ山, 3.VIII.1961, 1ex., 岡本清)

青垣町(神楽, 11.VIII.1953, 1♂; 3.X.1953, 1♀, 山本義丸⁴⁷)

16. *Callicilix abrazata* Butler (2099)

マダラカギバ

北海道から九州、屋久島にかけて分布する。西南暖地では山地性となる。幼虫はミズキ、クマノミズキを食べる。県下では西播北部から南但にかけての山地帯に記録が多いが、能勢妙見山からも得られている。大阪府の北摂地方にも記録があり、北摂山地や六甲山系にも分布すると思われる。

[採集記録]

妙見山(20.VIII.1963, 1ex., 岡本清)

安富町(大河溪谷, 19.VI.1999, 1♂, 高島昭)

波賀町(引原, 5.IX.1987, 1♂, 高島昭²⁷: 坂の谷, 28.VIII.1998, 1♂, 高島昭)

大屋町(田淵山, 5.VIII.1975, 1♂, 遊磨正秀⁵¹: 横河溪谷, 25.VI.1999, 1♂, 高島昭)

関宮町(氷ノ山, -, 1954, 3♀, 山本義丸⁴⁵)

氷ノ山(-, -, -, 遠山ほか¹⁹)

17. *Auzata superba* (Butler) (2100)

ヒトツメカギバ

北海道から九州にかけて分布する。幼虫はミズキ、クマノミズキを食べる。各地にごく普通に産する。県下では必ずしも普遍的ではなく、中東播から淡路地域にかけて大きな分布の空白域があり、北但地域も記録が見られない。これらの地域にも生息すると思うが調査が必要である。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -, -, -, 田中蕃³⁶)

宝塚市(中山寺, 27.IX.1987, 1♂, 東正雄²⁶: 西谷西部, 29.VIII.1976, 1♀, 東正雄²⁶)

波賀町(引原, 26.IX.1987, 1ex.; 2.VII.1988, 1♀; 17.IX.1988, 1♂1♀, 高島昭²⁷: 坂の谷, 26.VI.1998, 1♀, 高島昭: 同, 19.VIII.1998, 1♀, 高島昭: 同, 28.VIII.1998, 1♀, 高島昭: 同, 17.IX.1998, 1♀, 高島昭)

相生市(瓜生,7.VI.1989,1♀,高島昭²⁸:同,16.VI.1996,1♂,高島昭)

朝来郡(須留ヶ峰,9.VI.1975,-,遊磨正秀⁴⁰)

氷ノ山(-,-,-,-,山本義丸⁴⁶)

氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁴)

18. *Macrotilix mysticata* (Walker) (2101)

ウスギヌカギバ

関東以西の本州から九州、対馬、奄美に産する。コナラ属を食樹とし、各地で多産する。県下においても各地に普通である。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁶)

宝塚市(西谷西部,6.VIII.1988,1♂; 16.VI.1990,1♂,東正雄²⁶:武田尾,23.VI.1987,2♂,東正雄²⁶)

川西市(平野,8.IV.1992,1♂,東良雄²⁶)

猪名川町(上阿古谷,19.VIII.1983,1♂,夏秋ほか¹⁰)

姫路市(広嶺山,-,-,-1982,-,木村三郎⁹:同,8.IV.

1982,1♂,相坂耕作:同,6.VII.1996,1♂,高島昭³⁰)

安富町(皆河,21.X.1988,1♀,高島昭:大河溪谷,16.IV.1999,1♂,高島昭)

波賀町(引原,20.VIII.1988,1♀,高島昭²⁷)

相生市(瓜生,13.V.1989,1♂; 24.V.1989,1♂,高島昭²⁸:同,25.IV.1996,1♂,高島昭:同,21.V.1997,1♂,高島昭)

上郡町(船坂,8.IV.1998,1♀,高島昭:行頭,26.V.1995,1♂,高島昭²⁹)

三日月町(下本郷,-.IV.1984,-;- .VI.-,-;- .VI.1984,-;- .VII.1983,-;- .VII.1984,-;- .VIII.1983,-;- .IX.1984,-,川副昭人⁷)

豊岡市(正法寺,8.V.1988,1♀,柴田剛:同,19.X.1998,1ex.,柴田剛)

朝来町(須留ヶ峰,9.VI.45,1♂; 31.VII.1975,目,遊磨正秀⁴⁰)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,目,遊磨正秀⁵¹)

氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁴)

南淡町(阿万,19.X.1984,-,藤平明²:阿万上町,26.III.1985,-; 11.V.1989,-; 25.IV.1995,-,藤平明⁴:灘大川,14.IV.1994,-,藤平明⁴:灘黒岩,4.V.1997,-; 1.IX.1997,-; 7.X.1997,-; 29.III.1998,-; 29.VI.1998,-,藤平明⁴)

19. *Macrotilix maia* (Leech) (2102)

モンウスギヌカギバ 注目種

関東以西の本州から九州にかけて分布する。幼虫はコナラ属を食べる。ウスギヌカギバとよく似てい

るが、前翅の横脈から翅底へ延びる帯が大きく、CuA₂上で内方に鋭く突起する。県下での採集例は少なく、三日月町、柏原町、市島町で得られているにすぎない。いずれも内陸に偏っているが、本種の分布傾向であるのかどうかは不明である。

【採集記録】

三日月町(下本郷,-.VI.-,-;- .VI.1984,-;- .IX.-,-;- .IX.1984,-;- .X.1984,-,川副昭人⁷)

柏原町(柏原,-,-,-,-,山本義丸⁴⁷)

市島町(妙高山,-,-,-,-,山本義丸⁴⁷)

20. *Cilix filipjevi* Kardakoff (2103)

ナカモンカギバ 注目種

全国的にも局地的で稀な種で、岐阜、愛知、兵庫、島根、香川、山口の各県で記録がある。幼虫はズミ、リングを食べることが記録されている。

県下では、宝塚市と市島町で記録が見られるだけで少ない。

【採集記録】

宝塚市(西谷西部,22.IX.1990,1♂; 13.IV.1991,1♀,東正雄²⁶)

市島町(妙高山,30.IV.1955,-,山本義丸⁴⁴)

21. *Macrauzata maxima* Inoue (2104)

スカシカギバ

宮城県以南の本州から九州にかけてと対馬、屋久島、奄美、沖縄、御蔵島に分布する。幼虫はクヌギ、シラカシ、ウバメガシなどにつくことが知られる。県下では各地に普通に見られる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁶)

宝塚市(中山寺2,21.X.1978,-,新家勝²⁶:南口2丁目,11.XI.1983,-,新家勝¹⁶:西谷西部,18.VI.1988,1♂,東正雄²⁶)

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂,夏秋ほか⁹)

黒田庄町(喜多,22.X.1962,1ex.,岡本清)

相生市(瓜生,1.VI.1989,1♂,高島昭²⁸)

三日月町(下本郷,-.VI.-,-;- .IX.-,-;- .X.1984,-,川副昭人⁷)

豊岡市(山本,27.V.1973,-,山根政之²⁴)

和田山町(久世田,21.X.1989,1♂,近藤伸一:同,23.X.1989,1♀,近藤伸一)

氷ノ山(-,-,-,-,遠山ほか¹⁹)

関宮町(氷ノ山,-,-,-1954,-,山本義丸⁴⁷)

市島町(妙高山,-,-,-,-,山本義丸⁴⁷)

北淡町(常陸寺山,31.VII.1967,-,登日邦明³⁸:同,5.

VIII.1972,1♂,登日邦明⁴²⁾

洲本市(厚浜,1.VI.1981,-,藤富正昭⁶⁾)

南淡町(阿万上町,22.X.1969,-,藤平明¹⁾:同,24.X.

1988,-,藤平明⁴⁾:福良甲,3.VIII.1995,-,藤平明⁴⁾)

<フトカギバ亜科 ORETINAE>

22. *Oreta pulchripes* Butler (2105)

アシベニカギバ

北海道から九州、対馬、屋久島にかけて分布する。前・後翅に黄色の帯のある型と全体が赤褐色で前翅に細い黄色線のある型がある。幼虫はガマズミ、サンゴジュ、ゴマキなどを食べる。県下では各地に普通に見られる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-,-,-,田中蕃³⁶⁾)

宝塚市(西谷西部,8.VIII.1987,1♂1♀; 6.VIII.1988, 1♂,東正雄²⁶⁾)

妙見山(5.VIII.1984,1♂1♀,夏秋ほか¹¹⁾)

安富町(大河溪谷,29.V.1999,1♀,高島昭)

波賀町(引原,10.IX.1987,1♂; 18.VI.1988,1♂; 22.IX. 1988,1♀,高島昭²⁷⁾:坂の谷,20.VI.1998,1♀,高島昭 :同,31.VII.1998,1♀,高島昭:同,28.VIII.1998,1♂, 高島昭:同,10.IX.1998,1♂,高島昭)

三室山(-,-,-,遠山ほか¹⁹⁾)

相生市(瓜生,1.VI.1989,1♂,高島昭²⁸⁾:同,24.VII.1997, 1♂,高島昭)

南光町(船越,5.VIII.1963,3exs.,岡本清)

三日月町(下本郷,-.VIII.1983,-; -.VII.1984,-; -. IX.-,-; -.IX.1984,-,川副昭人⁷⁾)

朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,目,遊磨正秀⁴⁹⁾)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♂,遊磨正秀⁵¹⁾:横行溪 谷,8.VIII.1999,1♀,高島昭)

関宮町(氷ノ山,-.1954,-,山本義丸⁴⁴⁾)

氷ノ山(-,-,-,遠山ほか¹⁹⁾)

氷上郡(-,-,-,山本義丸⁴⁴⁾)

北淡町(常陸寺山,31.VII.1967,-,登日邦明³⁸⁾)

洲本市(中津川,3.VII.1972,1♂; 15.VIII.1972,1♂,登 日邦明⁴²⁾)

南淡町(阿万上町,10.VII.1972,2♂,登日邦明⁴²⁾: 6.VII. 1991,-; 15.X.1995,-,藤平明⁴⁾:福良向谷,11.V. 1996,-,藤平明⁴⁾:灘黒岩,29.VI.1997,-; 1.IX.1997, -,藤平明⁴⁾)

23. *Oreta loochooana* Swinhoe (2106)

オキナワカギバ 注目種

四国南部以南と対馬に分布するが、近年大阪府、神奈川県でも採集記録が見られる。アシベニカギバに似るが前翅横脈上の斑紋が本種では白点であるのに対し前種では「く」の字形の斑紋であることで区別できる。兵庫県からは宝塚市から1例の報告がある。当時は偶産の要素が強いと思われたが、この頃から阪神間でも時折見られるようになった。

[採集記録]

宝塚市(武庫川町,5.XI.1989,1ex.,新家勝¹⁶⁻²⁾)

24. *Oreta turpis* Butler (2107)

クロスジカギバ

北海道から九州にかけて分布する。幼虫はガマズミ、サンゴジュ、ゴマキ、オオカメノキを食べる。県下では平地から山地まで比較的普通に見られるようである。

[採集記録]

宝塚市(武田尾,23.V.1990,1♂; 23.VI.1990,1♀,東正雄²⁶⁾)

黒田庄町(喜多,1.VIII.1962,1ex.,岡本清)

一宮町(福知溪谷,16.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁰⁾)

波賀町(引原,9.VIII.1988,1♀,高島昭²⁷⁾)

相生市(瓜生,1.VI.1989,1♂,高島昭²⁸⁾)

南光町(船越,5.VIII.1963,1ex.,岡本清)

三日月町(下本郷,-.VI.-,-; -.VII.1984,-; -.IX. 1984,-; -.X.1984,-,川副昭人⁷⁾)

豊岡市(山本,10.VI.1973,-,山根政之²⁶⁾)

朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁴⁹⁾)

氷ノ山(-,-,-,山本義丸⁴⁶⁾:同,-,-,-,遠山ほか¹⁹⁾)

鉢伏山(-,-,-,遠山ほか¹⁹⁾)

関宮町(大久保,3.VIII.1961,1ex.,岡本清)

氷上郡(-,-,-,山本義丸⁴⁴⁾)

三原町(八木養宜,13.V.1993,-,藤富正昭⁶⁾)

25. *Hypsomadius insignis* Butler (2109)

アカウラカギバ

宮城以南の本州、四国、九州、対馬、種子島、屋久島、奄美、沖縄、石垣島、西表島に分布する。幼虫はユズリハを食べる。県下では、各地に普通に見られる。

[採集記録]

神戸市(有馬,27.IX.1947,1♂; 27.IX.1952,1♀,東正雄²⁶⁾)

宝塚市(南口2丁目,21.IX.1979,-,新家勝¹³⁾:宝梅1, 12.XII.1983,1♀,東正雄²⁶⁾)

黒田庄町(喜多,-.X.1958,1ex.,岡本清:同,18.VII.1960,1ex.,岡本清:同,12.IX.1960,1ex.,岡本清:同,27.X.1961,1ex.,岡本清)
 波賀町(引原,5.VIII.1988,1♀; 22.IX.1988,1♀; 7.X.1988,1♂,高島昭²⁷)
 三室山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)
 上郡町(船坂,23.X.1997,1♂,高島昭)
 村岡町(澁川平,12.VIII.1989,1♂,近藤伸一)
 和田山町(久世田,12.IX.1989,1♀,近藤伸一:同,23.IX.1989,1♂,近藤伸一:同,9.X.1989,1ex.,近藤伸一:同,24.IX.1998,1ex.,柴田剛)
 関宮町(氷ノ山,-.-.1955,-,山本義丸⁴⁵)
 氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)
 柏原町(柏原,-.-.-,山本義丸⁴⁷)
 北淡町(常陸寺山,31.VII.1967,-,登日邦明³⁹:同,1.VII.1972,1♂,登日邦明⁴¹)
 洲本市(中津川,2.VII.1972,1♂; 3.VII.1972,3♂; 15.VIII.1972,1♂1♀,登日邦明⁴¹)
 南淡町(阿万上町,10.VII.1972,2♀,登日邦明⁴¹:阿万,5.VII.1961,-; 4.V.1974,-,藤平明¹:福良甲,3.V.1996,-,藤平明⁴:福良向谷,6.VII.1996,-; 18.VIII.1996,-; 7.IX.1996,-; 21.X.1997,-,藤平明⁴)

<今後兵庫県で記録される可能性のある種>

1. *Tridrepana unispina* Watson (2090)

ヒメウコンカギバ

南方系の種で四国南部、九州、対馬、屋久島、奄美、沖縄に分布するが、最近群馬県赤城山でも採集されている。南部地域、とくに淡路では採集される可能性があると思われる。

2. *Oreta fuscopurpurea* Inoue (2108)

オオフトカギバ

別名インドカギバ、タイワンキオビカギバともいう。山口県、四国南部、対馬、九州、沖縄で採集されている。

オオカギバガ科 <CYCLIDIDAE>

カギバガ科にごく近縁であるが、幼虫は尾状突起を欠く。全部で2属しかない小さなグループで、インドマレー区と旧北区東部にしか分布しない。

日本にはオオカギバ、クロスジカギバの2種が分布し、いずれも兵庫県に産する。各種の地区別分布

状況を第1表に示した(1999年8月20日現在)。

1. *Cyclidia substigmatica* (Hübner) (2110)

オオカギバ

北海道から九州にかけてと対馬、種子島、屋久島に分布する。幼虫はウリノキにつく。県下からは記録が少なく、猪名川町、波賀町、南光町、青垣町から報告されているだけである。比較的目立つ蛾なのでもっと記録されてもいいのであるが、局地的な種なのかもしれない。8月に採集されている。

【採集記録】

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂,夏秋ほか⁹)
 波賀町(引原,12.VIII.1987,1♂,高島昭²⁷:坂の谷,19.VIII.1998,1♂,高島昭)
 南光町(船越,5.VIII.1963,1ex.,岡本清:同,23.VIII.1963,1ex.,岡本清)
 青垣町(神楽,-.-.-,山本義丸⁴⁷)

2. *Mimozethes argentilinearia* (Leech) (2111)

ギンスジカギバ

別名ギンスジフタオともいう。北海道南部から九州にかけて分布し、幼虫はウリノキを食べる。

県下では山地性で、西播北部、南但、丹波の山地帯から記録されている。

【採集記録】

波賀町(引原,9.VII.1988,1♂1♀,高島昭²⁷:坂の谷,5.VI.1998,1♂,高島昭:同,12.VI.1998,1♂,高島昭:同,10.VII.1998,1♂,高島昭)
 朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁴⁹)
 大屋町(横行溪谷,25.VI.1999,1♂,高島昭)
 関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁴:福定,18.VIII.1964,1ex.,岡本清)
 柏原町(柏原,-.-.-,山本義丸⁴⁷)
 青垣町(神楽,-.-.-,山本義丸⁴⁷)

トガリバガ科 <THYATIRIDAE>

カギバガ科と近縁であるが口吻と翅刺はよく発達し、翅型はヤガ科によく似て細長い種が多い。オーストラリア地区を除いて全世界に分布するがアジアが分布の中心となっている。日本には38種が分布するがそのうち兵庫県では24種が記録されている。ただ、そのうちマエベントガリバについては日本における分布状況を考えると兵庫県での記録には疑問があり、再確認されるまで県産種としての掲載を保

留したい。したがって、このまとめでは兵庫県産の本科の蛾は23種を紹介する。

地域別に見ると神戸5種、阪神・北摂12種、中東播南部8種、中東播北部6種、西播南部9種、西播北部16種、南但13種、北但3種、丹波6種、淡路北部4種、淡路南部11種(第2表参照、1999年8月20日現在)となる。このように西播北部から南但地域の山地帯で比較的多くの種が確認されている。また、阪神・北摂、淡路南部でもそれぞれ11~12種が確認されている。反対に北但、淡路北部、神戸の各地域では少ない。トガリバガ科の蛾には早春や晩秋に年1回発生する種が多く、その時期の調査密度の濃淡が反映されたものと思われる。

種別に見ると、ウスベントガリバ、ウスベニアヤトガリバ、ヒトテントガリバ、ナカジロトガリバ、ニッコウトガリバ、ネグロトガリバ、クラマトガリバ、ナミスジトガリバの8種は記録が少なく注目種としているが、調査不十分によるものも多いと思われる。前述のようにマエベントガリバは記録が見られるが疑問種である。

また、ヒメウスベントガリバ、ウスムラサキトガリバの2種は分布域に入っているが、県下から記録がない。今後の調査が期待される。

1. *Euparyphasma maxima* (Leech) (2112)

ナガトガリバ

東北北部から四国にかけてと対馬に産する。

幼虫はヤマボウシを食べるという。県下では山地性で西播北部から南但地域の山地帯で採集されている。

[採集記録]

波賀町(引原,5.IX.1987,1ex.,高島昭²⁷:坂の谷,5.VI.1998,1♂,高島昭)
朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂;31.VII.1975,1♂,遊磨正秀⁴⁹)
大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♀,遊磨正秀⁵¹:横河溪谷,6.VII.1999,1♂,高島昭)
関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁴)

2. *Thyathia batis* (Linnaeus) (2113)

モントガリバ

北海道から九州、屋久島、奄美、沖縄に分布する。幼虫はキイチゴ類につく。春から夏にかけて少なくとも年2回発生する。県下では各地に普通に見られる。記録のない中東播南部や北但地域にも普通に分布すると思われる。

[採集記録]

神戸市(六甲山,-.-.1933,-,戸澤信義⁴³:摩耶山,-.-.-,田中蕃³⁶)
西宮市(名塩,27.VII.1936,1♂,東正雄²⁶)
宝塚市(川面4,2.V.1980,-,新家勝²⁶:西谷西部,14.V.1977,1♀;24.IX.1977,1♂,東正雄²⁶)
川西市(黒川,3.V.1997,1♂;7.VI.1997,1ex.,目,高島昭³²)
猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,2♂;1.IX.1982,1♂,夏秋ほか⁹)
三田市(香下,3.IX.1991,1♀,東正雄²⁶)
黒田庄町(喜多,9.V.1962,1ex.,岡本清:同,5.VI.1962,1ex.,岡本清)
安富町(大河溪谷,14.V.1999,1♂,高島昭)
一宮町(福知溪谷,16.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁰)
波賀町(引原,25.VIII.1987,1ex.,;5.IX.1987,1ex.;18.VI.1988,1♂;1.IX.1988,1♂;22.IX.1988,1♂,高島昭²⁷:坂の谷,12.VIII.1998,1♂,高島昭)
相生市(瓜生,1.VI.1989,1♂,高島昭²⁸:同,22.VIII.1997,1♂,高島昭:同,25.IX.1997,1♂,高島昭)
三日月町(下本郷,-.VI.-.-,川副昭人⁷)
朝来町(須留ヶ峰,9.VII.1975,1♂;31.VII.1975,目,遊磨正秀⁴⁹)
大屋町(横河溪谷,25.VI.1999,1♂,高島昭)
関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁴)
氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)
鉢伏山(-.-.-,遠山ほか¹⁹)
氷上郡(-.-.-,山本義丸⁴⁴)
北淡町(常陸寺山,7.VII.1972,2♀,登日邦明⁴²)
南淡町(薮,5.VI.1970,-,藤平明¹:阿万,22.IX.1973,-,藤平明¹:阿万上町,16.VII.1993,-,藤平明⁴)

3. *Macrothyatira flavida* (Butler) (2115)

キマダラトガリバ

北海道から九州にかけての本土域に分布する。県下では山地性で、西播北部から但馬地域にかけての山地帯で採集される。

[採集記録]

波賀町(引原,26.VIII.1988,1♂;1.IX.1988,1♂,高島昭²⁷:坂の谷,5.VI.1998,2♂,高島昭:同,12.VIII.1998,1♂,高島昭)
温泉町(扇ノ山,11.VIII.1984,2exs.,谷田昌也³⁷)
生野町(段ヶ峰,6.VIII.1953,1♀,山本義丸⁴⁴)
関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁴)
氷ノ山(29.VIII.1973,-,山根政之²⁴)

4. *Monothytira pryri* (Butler) (2116)

ウスベントガリバ 注目種

北海道から九州にかけて分布する。幼虫はミズキを食べる。年1回早春に発生する。県下ではこれまで産地が見つかっていなかったが筆者は大屋町で採集している。西播北部から但馬にかけての山地帯には広く分布するものと思われる。

【採集記録】

大屋町(横行溪谷,2.V.1999,1♂1♀,高島昭³⁵⁾)

5. *Habrosyne pyritoides* (Hufnagel) (2117)

アヤトガリバ

北海道から九州にかけてと対馬に分布する。幼虫はカジイチゴを食べるという記録があるが、本種かオオアヤトガリバかわかっていない。大図鑑には山地性と記されているが、県下では平地から山地まで広く分布し、各地で普通に見られる。

【採集記録】

猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,3♂1♀,夏秋ほか⁹⁾)

姫路市(広嶺山,-.-.1982,-,木村三郎⁸⁾)

波賀町(引原,25.VIII.1987,1ex.; 5.IX.1987,1ex.; 17.

IX.1988,1♂,高島昭²⁷⁾; 同,24.IV.1988,1♂,高島昭)

竹野町(森本,15.IX.1998,1ex.,柴田剛; 同,2.X.1998,1ex.,柴田剛)

温泉町(扇ノ山,2.VI.1984,1♂,谷田昌也³⁷⁾)

和田山町(久世田,22.IX.1998,1ex.,柴田剛)

柏原町(柏原,-.-.-,山本義丸⁴⁷⁾)

奇壇町(神桑,-.-.-,山本義丸⁴⁷⁾)

篠山市(-,2.IX.1962,2♂,-¹⁸⁹⁾)

洲本市(鮎屋,7.V.1969,-,坂口操²⁰⁾; 中津川,4.V.1972,1♂,登日邦明³⁹⁾)

南淡町(阿万,13.X.1971,-,藤平明¹⁾; 灘,30.V.1968,-,藤平明¹⁾)

第2表 トガリバガ科各種の兵庫県下における地域別記録状況

	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	
1. ナガトガリバ						○	○					6	山地性
2. モントガリバ	○	○		○	○	○	○		○	○	○	23	
3. キマダラトガリバ						○	○	○				5	山地性
4. ウスベントガリバ							○					1	注目種 山地性
5. アヤトガリバ		○	○			○	○	○	○		○	13	
6. オオアヤトガリバ		○			○	○					○	12	
7. ウスベニアヤトガリバ						○	○					3	注目種 山地性
8. オオバトガリバ		○	○	○	○	○	○		○		○	15	
9. ホソトガリバ		○	○	○	○	○	○		○	○	○	15	
10. オオマエベントガリバ		○	○		○	○	○	○	○			10	
11. ヒトテントガリバ						○						1	注目種 山地性
12. ナカジロトガリバ		○									○	2	注目種
13. キンモントガリバ			○			○	○					5	
14. ウスジロトガリバ		○				○	○					4	注目種 山地性
15. ムラサキトガリバ		○			○						○	8	
16. ニッコウトガリバ		○									○	2	注目種
17. ネグロトガリバ	○					○	○					4	注目種 山地性
18. サカハチトガリバ	○		○	○	○						○	6	
19. タケウチトガリバ		○				○	○					6	
20. クラマトガリバ						○						1	注目種
21. マユミトガリバ	○		○	○	○				○	○	○	9	
22. ホシボシトガリバ	○	○	○	○	○					○	○	12	
23. ナミスジトガリバ						○	○					2	注目種 山地性
計	5	12	8	6	9	16	14	3	6	4	11		

6. *Habrosyne fraterna* Moore (2119)

オオアヤトガリバ

アヤトガリバより暖地性で、関東以西の本州、四国、九州北部、対馬、屋久島、奄美、沖縄に分布する。幼虫はノイバラを食べるという。アヤトガリバとよく似ており、同定には注意が必要である。アヤトガリバに比べて前翅の白色斜線が細く、腎状紋と環状紋の周囲の白色の縁取りは弱いことを欠くことが特徴である。県下では阪神地域、西播地域と淡路南部で得られているがそれ以外の地域からは見つからない。西播では広く分布しているようであるが、県全体で見るとやや局地的な分布を示す。

[採集記録]

宝塚市(逆瀬川, 26.X.1975, -, 東正雄²⁶ : 宍布, 19.X.1988, 1♂, 東正雄²⁶)
 猪名川町(上阿古谷, 10.VI.1983, 1♂1♀, 夏秋ほか¹⁰)
 安富町(大河溪谷, 7.V.1999, 1♂, 高島昭)
 一宮町(福知溪谷, 16.VI.1975, 1♀, 遊磨正秀⁴⁰)
 波賀町(引原, 26.IX.1987, 3exs., 高島昭²⁷ : 坂の谷, 28.VIII.1998, 1♂, 高島昭)
 上郡町(鉛坂, 4.X.1997, 1♂, 高島昭)
 南淡町(阿万上町, 30.V.1986, - ; 13.X.1971, -, 藤平明⁴ : 灘大川, 14.IV.1994, -, 藤平明⁴ : 灘山本, 30.V.1968, -, 藤平明⁴ : 灘黒岩, 4.V.1997, -, 藤平明⁴)

7. *Habrosyne dieckmanni* (Graeser) (2121)

ウスベニアヤトガリバ 注目種

北海道から四国にかけて分布するが山地性でやや局地的である。幼虫はキイチゴ類を食べる。県下では西播北部から南但地域の氷ノ山周辺山地からのみ得られている。発生地では普通に見られ少ないものではない。

[採集記録]

波賀町(坂の谷, 26.VIII.1988, 1♂, 高島昭³¹ : 同, 15.V.1998, 1♂, 高島昭 : 同, 27.V.1998, 1♂, 高島昭 : 同, 24.VII.1998, 1♂1♀, 高島昭)
 大屋町(横行溪谷, 15.V.1999, 1♂, 高島昭 : 同, 4.VI.1999, 1♂, 高島昭)
 関宮町(氷ノ山, -, 1954, -, 山本義丸⁴⁴)

8. *Tethea ampliata* Butler (2125)

オオバトガリバ

北海道から九州にかけてと対馬に分布する。幼虫はクヌギを食べる。各地に普通に産する。

県下においても各地に普遍的に産するようで、記録のない神戸市や北但、淡路北部にも分布すると思

われる。

[採集記録]

宝塚市(大原野, 23.VI.1979, -, 東正雄²⁶ : 西谷西部, 24.VI.1977, 1♂ ; 23.VI.1979, 1♂ ; 18.VI.1988, 1♂ ; 17.VI.1989, 1♂, 東正雄²⁶)
 川西市(黒川, 13.VII.1996, 1♂ ; 7.IX.1996, 1♀ ; 7.VI.1997, 1♀, 高島昭³² : 同, 10.VIII.1996, 2♂, 近藤伸一³²)
 黒田庄町(喜多, 24.VI.1960, 1ex., 岡本清 : 同, 15.VI.1962, 1ex., 岡本清)
 姫路市(書写台, 26.VI.1988, 1♂, 高島昭)
 一宮町(福知溪谷, 16.VI.1975, 3♂, 遊磨正秀⁴⁰)
 波賀町(坂の谷, 27.V.1998, 1♂1♀, 高島昭 : 同, 12.VI.1998, 1♂, 高島昭 : 同, 26.VI.1998, 1♂, 高島昭)
 相生市(瓜生, 17.VI.1989, 1♂, 高島昭²⁸ : 同, 29.V.1997, 1♂, 高島昭)
 三日月町(下本郷, -, VI., -, -, 川副昭人⁷)
 朝来町(須留ヶ峰, 31.VII.1975, 1♂1♀, 遊磨正秀⁴⁰)
 大屋町(横行溪谷, 4.VI.1999, 1♂, 高島昭)
 氷ノ山(-, -, -, -, 山本義丸⁴⁶)
 柏原町(柏原, -, -, -, -, 山本義丸⁴⁷)
 南淡町(阿万, 11.VI.1961, -, 藤平明¹ : 同, 10.VI.1962, -, 藤平明² : 福良向谷, 5.VI.1966, -, 藤平明⁴)

9. *Tethea octogesima* (Butler) (2126)

ホントガリバ

北海道から九州に至る本土域に分布する。幼虫はクヌギを食べる。県下では各地に普通に見られる。年2回発生していると思われる。

[採集記録]

宝塚市(武庫川町, 15.VIII.1981, -, 新家勝¹⁴ : 西谷西部, 22.VIII.1987, 1♂ ; 20.VIII.1988, 1♀ ; 17.VI.1989, 1♂, 東正雄²⁶ : 武田尾, 16.VI.1990, -, 新家勝²⁶)
 川西市(黒川, 13.VII.1996, 1♂ ; 12.X.1996, 1♂ ; 2.VIII.1997, 1♂, 高島昭³²)
 猪名川町(上阿古谷, 25.VIII.1981, 7♂2♀ ; 21.VII.1982, 3♂, 夏秋ほか⁹)
 黒田庄町(喜多, 24.VI.1960, 1ex., 岡本清 : 同, 28.V.1962, 1ex., 岡本清)
 姫路市(広嶺山, 6.VII.1996, 1♂, 高島昭³⁰ : 太市, -, -, 1991, -, 丸谷ほか¹²)
 波賀町(引原, 9.VII.1988, 1♂, 高島昭²⁷)
 相生市(瓜生, 24.V.1989, 1♀ ; 1.VI.1989, 1♂ ; 17.VI.1989, 1♂1♀, 高島昭²⁸)
 三日月町(下本郷, -, VI., -, -, 川副昭人⁷)
 氷ノ山(-, -, -, -, 山本義丸⁴⁶)

柏原町(柏原, -.-.-, 山本義丸⁴¹⁾)
 津名町(大町畑, 31.VII.1972, 1♀, 登日邦明⁴²⁾)
 南淡町(阿万上町, 16.VII.1991, -, 藤平明⁴⁾)

10. *Tethea consimilis* (Warren) (2129)

オオマエベントガリバ

北海道から九州にかけて分布する。サクラやナナカマドが食樹として知られている。県下では、淡路島以外の各地で得られており、平地から山地にかけて普遍的に見られるようである。なお、本種はかつて次種オオマエベントガリバと混同されていたため、古い記録は確認が必要と思われる。関宮町氷ノ山の記録はマエベントガリバとして記録されていたが、現在の本種であるという(山本, 私信)。

[採集記録]

宝塚市(西谷西部, 2.VIII.1988, 1♂, 東正雄²⁶⁾)
 猪名川町(上阿古谷, 20.VIII.1982, 3♂, 夏秋ほか⁹⁾)
 姫路市(広嶺山, -.-.1982, -, 木村三郎⁸⁾)
 安富町(大河溪谷, 3.VII.1999, 1♂, 高島昭²⁷⁾)
 波賀町(引原, 2.VII.1988, 1♀, 高島昭²⁷⁾: 坂の谷, 20.VI.1998, 1♂, 高島昭²⁷⁾)
 相生市(瓜生, 7.VII.1989, 1♂, 高島昭²⁸⁾)
 竹野町(森本, 3.IX.1998, 1♂, 柴田剛)
 大屋町(横行溪谷, 6.VII.1999, 1♂, 高島昭²⁷⁾)
 関宮町(氷ノ山, 22.VII.1954, -, 山本義丸⁴⁴⁾)
 市島町(妙高山, -.-.-, -, 山本義丸⁴⁷⁾)

11. *Tetheella fluctuosa* (Hübner) (2131)

ヒトテントガリバ 注目種

北海道から四国にかけて分布する。幼虫はクマシデ、サワシバを食べる。西南暖地では山地性となる。年1回、秋に出現する。県下では波賀町で1例記録されているだけで少ない種である。

[採集記録]

波賀町(引原, 1.IX.1988, 1♀, 高島昭²⁷⁾)

12. *Togaria suzukiana* Matsumura (2134)

ナカジロトガリバ 注目種

本州、四国、九州に分布する。県下では宝塚市と南淡町で記録されているだけで少ない種である。年1回、秋に出現する種であるが宝塚市の記録は5月に記録されている。

[採集記録]

宝塚市(西谷西部, 27.V.1978, 1♀, 東正雄²⁶⁾)
 南淡町(阿万, 26.XI.1986, -, 藤平明²⁾: 同, 12.XI.1993, -, 藤平明⁴⁾)

13. *Parapsestis argenteopicta* (Oberthür) (2135)

ギンモントガリバ

北海道から九州に至る本土域と対馬に分布する。大函鑑では各地に普通とされているが兵庫県下での採集例はそれほど多いものではない。

[採集記録]

姫路市(書写台, 7.VI.1988, 1♂, 高島昭²⁷⁾)
 安富町(大河溪谷, 19.VI.1999, 1♀, 高島昭²⁷⁾)
 波賀町(引原, 2.VII.1988, 1♀, 高島昭²⁷⁾)
 大屋町(横行溪谷, 25.VI.1999, 1♂, 高島昭²⁷⁾: 同, 15.VII.1999, 1♀, 高島昭²⁷⁾)
 氷ノ山(-.-.-, -, 山本義丸⁴⁶⁾: 同, -.-.-, -, 遠山ほか¹⁹⁾)

14. *Parapsestis albida* Suzuki (2136)

ウスジロトガリバ 注目種

北海道から九州に至る本土域の山地帯に分布する。食樹はブナが知られており分布は概ねブナ帯と一致する。県下では西播北部から南但地域にかけてのほか大阪府境の能勢妙見山で得られており、イヌブナも食樹になりうるものと思われる。六甲山系や播但山地、北但地域にも生息すると思われる。

[採集記録]

妙見山(26.VIII.1983, 1♀; 18.VIII.1984, 1♀, 夏秋ほか¹¹⁾)
 波賀町(坂の谷, 5.VI.1998, 1♂, 高島昭²⁷⁾: 同, 31.VII.1998, 1♀, 高島昭²⁷⁾)
 朝来町(須留ヶ峰, 9.VI.1975, 2♂, 遊磨正秀⁴⁹⁾)
 氷ノ山(-.-.-, -, 山本義丸⁴⁶⁾)

15. *Epipsestis ornata* (Leech) (2137)

ムラサキトガリバ

北海道から九州に至る本土域と対馬に分布する。幼虫はアラカシ、アカガシ、コナラ、ミズナラなどコナラ属を食べる。年1回晩秋に発生する。

県下からは南部地域の平地から低山地で記録があるが、発生時期が遅いため調査が不十分なものと思われ、おそらく各地に分布すると思われる。

[採集記録]

宝塚市(武庫川町, 5.XI.1983, -, 新家勝¹⁶⁾: 光明町, 16.IX.1988, -, 新家勝²⁶⁾: 西谷西部, 28.X.1979, 1♀, 東正雄²⁶⁾: 武田尾, 20.X.1991, 3♂2♀, 東正雄²⁶⁾)
 川西市(黒川, 9.XI.1996, 4♂, 高島昭²²⁾)
 上郡町(船坂, 23.X.1997, 1♂1♀, 高島昭²⁷⁾)
 三日月町(下本郷, -, X.1984, -, 川副昭人⁷⁾)
 南淡町(阿万, 28.XI.1986, -, 藤平明²⁾: 阿万上町, 30.X.

1991,-,藤平明⁴⁾)

16. *Epipsestis nikkoensis* (Matsumura) (2138)

ニッコウトガリバ 注目種

大図鑑では東北・関東地方から中部山地、小豆島が産地としてあがっているが、その後四国、九州から記録が得られている。兵庫県下からも川西市、南淡町から記録がある。大阪箕面山からも記録がある。年1回秋に出現するが、調査が不十分なものと思われる。案外普遍的な分布を示すかもしれない。

[採集記録]

川西市(黒川,9.IX.1996,1♂,高島昭²⁾)

南淡町(阿万上町,19.XI.1990,-,藤平明³⁾)

17. *Mimopsestis basalis* (Wileman) (2140)

ネグロトガリバ 注目種

北海道から九州にかけての本土域に分布する。山地性で幼虫はオニグルミを食べる。

県下では、六甲山系と西播北部から南但地域にかけての山地帯で得られている。

[採集記録]

神戸市(六甲山,-,-,1933,-,戸澤信義⁴⁾)

波賀町(引原,25.VIII.1987,1ex.,; 9.VII.1988,1♂,高島昭²⁾:坂の谷,20.VI.1998,1♂,高島昭)

大屋町(横行溪谷,15.VII.1999,1♂,高島昭)

18. *Kurama mirabilis* (Butler) (2141)

サカハチトガリバ

北海道から九州にかけての本土域に分布する。幼虫はクヌギ、カシワ、ミズナラなどを食べる。年1回、春に出現し、各地に普通に見られる。

県下では春の調査が充分でないためか記録地はそれほど多くないが、県南部に普遍的に分布している。北部からも見つかるだろう。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-,-,-,田中蕃³⁾)

黒田庄町(喜多,4.V.1962,1ex.,岡本清)

姫路市(広嶺山,-,-,1982,-,木村三郎⁴⁾:同,8.IV.

1982,2♂,坂根耕作)

相生市(瓜生,18.IV.1995,1♀,高島昭²⁾)

上郡町(行頭,27.IV.1995,1♂,高島昭²⁾)

南淡町(阿万上町,1.IV.1991,-; 19.IV.1993,-; 20.

IV.1993,-,藤平明⁴⁾)

19. *Betapsestis umbrosa* (Wileman) (2142)

タケウチトガリバ

北海道から九州にかけて分布し、幼虫はミズキを食べる。県下では宝塚市、波賀町、大屋町、氷ノ山から得られているだけでやや局地的な分布をする。発生地では必ずしも少ない種ではない。

[採集記録]

宝塚市(武庫川町,4.X.1998,1♀,東正雄²⁾:西谷西部,13.VI.1991,1♂,東正雄²⁾)

波賀町(引原,9.VIII.1988,1♂; 20.VIII.1988,2♂,高島昭²⁾:坂の谷,5.VI.1998,1♂,高島昭:同,12.VI.

1998,1♂,高島昭:同,26.VI.1998,1♀,高島昭)

大屋町(横行溪谷,25.VI.1999,1♂,高島昭:同,20.VIII.1999,1♀,高島昭)

氷ノ山(-,-,-,山本義丸⁴⁾)

20. *Sugitaniella kuramana* Matsumura (2145)

クラマトガリバ 注目種

東北南部から九州にかけて分布するが少ない種である。幼虫はクマシデを食べる。年1回、春に出現する。県下では、筆者が安富町で採集した記録が唯一である。早春の発生ということで調査が不十分なためと思われ、今後の調査に期待される。

[採集記録]

安富町(大河溪谷,27.III.1999,1♂,高島昭³⁾)

21. *Neoploca aretipennis* (Butler) (2146)

マユミトガリバ

北海道から九州にかけての本土域に分布する。幼虫はクヌギ、コナラを食べる。年1回、春に出現する。県下では、南部の低山地帯を中心に広く分布すると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-,-,-,田中蕃³⁾)

黒田庄町(喜多,3.IV.1959,1ex.,岡本清:同,9.IV.1962,4ex.,岡本清:同,11.IV.1962,1ex.,岡本清)

姫路市(広嶺山,8.IV.1982,1♂,坂根耕作:太市,8.IV.1995,1♂,高島昭)

上郡町(行頭,7.IV.1995,1♀,高島昭²⁾)

三日月町(下本郷,-,IV,-,-,川副昭人⁷⁾)

柏原町(柏原,14.IV.1955,-,山本義丸⁴⁾)

津名町(大町畑,3.IV.1972,1♀; 5.IV.1972,1♂,登日邦明³⁾)

洲本市(中津川,7.IV.1972,1♀,登日邦明³⁾)

22. *Demopsestis punctigera* (Butler) (2147)

ホシボシトガリバ

北海道から九州にかけての本土域に分布する。幼

虫はクヌギを食べる。年1回、早春に出現する。

県下では、南部地域に普通に見られる。おそらく但馬、丹波地域でも低山地を中心に分布すると思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃³⁶)

宝塚市(武庫川町, 24.IV.1982, -, 新家勝¹⁵: 同, 10.IV.

1985, 1♂, 東正雄²⁶: 西谷西部, 13.IV.1991, 1♂; 18.IV.1992, 1♂, 東正雄²⁶)

川西市(平野, 8.IV.1992, 1♂, 東正雄²⁶)

黒田庄町(喜多, 13.IV.1960, 1ex., 岡本清: 同, 20.IV.

1960, 1ex., 岡本清: 同, 28.X.1960, 1ex., 岡本清: 同, 9.IV.1962, 1ex., 岡本清)

姫路市(広嶺山, 31.III.1982, 1♂1♀, 相坂耕作: 同, 22.IV.1982, 1♀, 相坂耕作)

相生市(瓜生, 28.III.1995, 1♂, 高島昭²⁸)

上郡町(行頭, 31.III.1995, 3♂; 7.IV.1995, 1♂; 27.IV.1995, 1♂, 高島昭²⁸)

三日月町(下本郷, -.-.-, 川副昭人⁷)

津名町(大町畑, 3.V.1972, 1♂, 登日邦明³⁹)

南淡町(阿万上町, 8.III.1993, -, 藤平明⁴: 薮黒岩, 11.IV.1998, -, 藤平明⁴)

23. *Mesopsestis undosa* (Wileman) (2149)

ナミスジトガリバ 注目種

東北北部から九州にかけて分布する。幼虫はサワグルミを食べる。県下では、氷ノ山周辺の波賀町、大屋町の山地から得られているにすぎない。山地性の少ない種と思われる。

【採集記録】

波賀町(坂の谷, 15.V.1998, 1♂; 19.VIII.1998, 1♂, 高島昭²⁴)

大屋町(横行溪谷, 23.VII.1999, 1♀, 高島昭)

<今後兵庫県で記録される可能性のある種>

1. *Habrosyne aurorina* (Butler) (2122)

ヒメウスベントガリバ

北海道から九州にかけて分布する。幼虫はコゴメウツギを食べるという。大図鑑ではごく普通との記述があるが、県下からは採集記録はない。大阪府箕面公園では記録があるので、今後採集される可能性はある。

2. *Epipsestis perornata* Inoue (2139)

ウスムラサキトガリバ

北海道から四国にかけて分布する。年1回秋に出現する。兵庫県からは今のところ記録は見られないが、分布域に入っており調査すれば見つかるものと思われる。

<目録から除外した記録>

1. *Tethea trifolium* (Alphéraky) (2128)

マエベントガリバ

大図鑑では北海道、東北から中部山地が産地としてあがっている。幼虫はリンゴやサクランボを食べるという。県下では洲本市から記録されているが、兵庫県での分布は疑問と思われ、県内で本種が再確認されるまで保留の方が妥当と判断し目録から除外した。

【採集記録】

洲本市(三熊山, 10.VI.1981, 1ex., 西岡公明¹⁷)

<参考文献>

- 1) 藤平明(1979) 南淡の蛾(IV), PARNASSIUS (20), p.10-18.
- 2) 藤平明(1987) 南淡の蛾(自刊)
- 3) 藤平明(1996) 淡路島南部で注目される蛾(III), PARNASSIUS (43), p.1-2.
- 4) 藤平明(1999) 淡路島南部の蛾(自刊)
- 5) 藤富正昭(1994) 私版 淡路の昆虫リスト, PARNASSIUS (41), p.1-4.
- 6) 井上寛ほか(1982) 日本産蛾類大図鑑 Vol.1, p.1-968, Vol.2, p.1-556, pls.1-392. (辯談社・東京)
- 7) 川副昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え書, てんとうむし10, p.1-10.
- 8) 木村三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫, てんとうむし9, p.53-58.
- 9) 夏秋優・佐々木昇(1982) 能勢地方の蛾(I) 上阿古谷・夏の蛾, Crude (23), p.1-37.
- 10) 夏秋優・佐々木昇(1983) 能勢地方の蛾(II) 上阿古谷・夏の蛾(続報), Crude (24), p.1-12.
- 11) 夏秋優・佐々木昇(1984) 能勢地方の蛾(III) 妙見山・夏の蛾(1), Crude (25), p.15-22.
- 12) 日本野鳥の会(1992) 姫路自然観察の森 林内基礎調査報告書 4-6 昆虫類, p.119-151.
- 13) 新家勝(1982) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(その3), きべりはむし10(1), p.7-10.
- 14) 新家勝(1982) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その1), きべりはむし10(2), p.10-16.

- 15) 新家勝(1983) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (続報その2), きべりはむし11(1), p.6-10.
- 16) 新家勝(1984) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (続報その3), きべりはむし12(2), p.53-55.
- 16-2) 新家勝(1993) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾 (続報その10), きべりはむし21(2), p.53-64.
- 17) 西岡公明(1983) 三熊山蛾類採集記録[1], PARNASSIUS(27), p.7-9.
- 18) 岡本清(1997) 高砂の蛾, てんとうむし11, p.40-45.
- 19) 奥谷禎一ほか(1974) 中国山脈東端の昆虫相, 東中国山地自然環境調査報告, p.173-191.
- 20) 坂口操(1971) 洲本市付近の蛾の記録, PARNASSIUS(8), p.6-10.
- 21) 杉繁郎(編)(1994) 日本産蛾類大図鑑以後に公表された日本産蛾類の追加種と学名の変更(日本蛾類学会・東京)
- 22) 杉繁郎(編)(1996) 日本産蛾類大図鑑以後に公表された日本産蛾類の追加種と学名の変更 追録2 (日本蛾類学会・東京)
- 23) 杉繁郎(編)(1998) 日本産蛾類大図鑑以後に公表された日本産蛾類の追加種と学名の変更 追録3 (日本蛾類学会・東京)
- 24) 高橋匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1・2報), p.48-54.
- 25) 高橋匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報), p.9-14.
- 26) 宝塚市教育委員会(1992) 宝塚の昆虫Ⅲ 蛾類(I)
- 27) 高島昭(1995) 波賀町引原ダム周辺における蛾相第2報, きべりはむし23(2), p.10-23.
- 28) 高島昭(1996) 相生市三濃山麓の蛾(1), きべりはむし24(1), p.27-39.
- 29) 高島昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1), きべりはむし25(1), p.31-38.
- 30) 高島昭(1997) 姫路市広嶺山の蛾(1), てんとうむし11, p.65-69.
- 31) 高島昭(1998) 西播地方で採集した注目すべき蛾, てんとうむし12, p.68.
- 32) 高島昭(1998) 黒川の蛾, きべりはむし26(1), p.23-38.
- 33) 高島昭(1998) 三濃山の蛾(2), きべりはむし26(2), p.59-63.
- 34) 高島昭(1999) 兵庫県波賀町で採集した注目すべき蛾, 誘蛾燈155, p.17-24.
- 35) 高島昭(1999) 兵庫県西部山地で採集した注目すべき蛾, 誘蛾燈157, p.93-96.
- 36) 田中蕃(1967) 神戸市摩耶山に産する大蛾類, 佳香蝶19(71), p.89-104.
- 37) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1), IRATSUME(10), p.30-37.
- 38) 登日邦明(1967) 伊勢の森の蛾類, PARNASSIUS(4), p.4-9.
- 39) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(I), 蛾類通信73, p.215-224.
- 40) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(IV), PARNASSIUS(11), p.3-6.
- 41) 登日邦明(1973) 淡路島若干の蛾の記録, PARNASSIUS(9), p.9-16.
- 42) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(III), 蛾類通信78, p.301-306.
- 43) 戸澤信義(1935) 六甲山産蛾類目録, 関西昆虫雑誌2(3), p.30-31.
- 44) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第一報), 兵庫生物3(1/2), p.3-6.
- 45) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第二報), 兵庫生物3(3), p.121-123.
- 46) 山本義丸(1958) 氷ノ山の蛾について(第三報), 兵庫生物3(4), p.237-239.
- 47) 山本義丸(1997) 兵庫県氷上郡地方の蛾類(2), きべりはむし25(1), p.11-22.
- 48) 山本義丸(1997) 兵庫県で採集した蛾の記録, きべりはむし25(2), p.54-57.
- 49) 遊磨正秀(1980) 朝来郡朝来町須留ヶ峰の蛾類について(I), きべりはむし8(3), p.1-8.
- 50) 遊磨正秀(1981) 宍粟郡一宮町福知溪谷の蛾類について, きべりはむし9(1), p.1-3.
- 51) 遊磨正秀(1981) 養父郡大屋町田淵山の蛾類について(I), きべりはむし9(1), p.3-6.

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市審写2542-2)

ブタクサハムシの兵庫県における広がり状況
近藤 伸一

バクサハムシ *Ophraella communa* Le Sage, 1984
 はハムシ科ヒゲナガハムシ亜科に属する北米原産の侵入昆虫で、バクサ類、オナモミ類などの北米原産のキク科帰化植物を寄主植物としている。日本では1996年夏に初めて千葉県で発生が確認されたが、猛烈な勢いで分布を拡大しており、発見から3年を経過した現在関東一円、近畿一円に広がり北陸、中国、四国、九州の一部の地域でも確認されている。

兵庫県内における現在(1999年末)の分布状況と今後の広がりを知るため、県下一円の調査を行った。

調査方法は、出来るだけ広い範囲を見たかったので、家内の運転する車の助手席からブタクサノハムシの食草であるオオオナモミ、オオブタクサを見つけては食痕のある葉をさがし、成虫、幼虫を確認するという方法で行った。荒っぽい調査方法であったため、見過ごした場所は多いと思うが、現在の県下の大まかな分布が見えてきた。今後の分布拡大の推移を見守りたい。本稿を草するにあたり、県外の状況を御教示いただいた谷角素彦氏、山地 治氏に厚くお礼申し上げる。

1 分布状況

食草を調査して、ブタクサハムシを確認した場所、確認出来なかった場所をプロットしたのが図1の分布図である。

県南部は東の尼崎市から西の上郡町までほぼ全域に分布し、内陸部は加美町、市川町、一宮町で確認した。但馬地域は南但馬の山東町でわずかに1カ所、国道9号線に面した場所で確認したが、それより北では確認出来なかった。山東町の東に隣接した京都府夜久野町でも確認した。県西部に隣接した岡山県でも連続して分布しており、備前市ほか5町で確認した。淡路島では確認出来なかった。

2 食草の分布状況

ブタクサハムシはオオオナモミとヒマワリの1種から確認し、オオブタクサからは確認できなかった。

オオオナモミとオオブタクサは河川敷、道路そば、池の堤、造成地、畑地など植生の不安定な明るい環境に生育している。オオオナモミは県下全域で確認したが、但馬では分布が局地的になる。オオブタクサは県北部で近年急激に分布を拡大したようで、但

馬ではほぼ全域といってよいほど繁茂し、市川上流部にも最近侵入している。大河内町上小田の住民の方は今年初めてオオブタクサを見るという。

なおブタクサの分布状況は調査出来なかった。

3 生息地の環境

ブタクサハムシを確認した場所は河川敷、道路ぎわ、道路に面した空き地、畑地、造成地など人為的にかく乱された場所がほとんどで、国道に面した交通の激しい場所でもみられる。一方自然条件が安定した場所ではみられず、山地内の道路などでは個体密度が低くなるようで、食草があってもみられない場合が多い。

4 採集記錄

採集記録は採集場所、(採集場所の環境)、(メッシュ・コード番号)、採集した成虫の数、採集月日の順で記載する。食草はすべてオオオナモミであるが、上町山野里ではオオオナモミと同時にヒマワリの1種の葉にも多数の成虫がみられた。

食草であるオオブタクサからは成虫を確認することが出来なかった。また成虫と同時に卵、幼虫、蛹を確認しているが記載は省略した。

〔採集記録〕

尼崎市西大島(河川) (52350370) 3exs. 29.VIII.1999.

菅屋市山手町(道路) (52350293) 2exs. 6.X.1999.

神戸市東灘区住吉台(河川) (52350280) 2exs.

29.VIII.1999.

住吉山手3丁目(河川) (52350270)

3exs. 29.VIII.1999.

" 瀬区桜ヶ丘町(宅地) (52350179) 1ex.

29.VIII.1999.

" 中央区布引谷(林道) (52350155) 1ex.

18.IX.1999.

" 西区岩園町(油) (52340766)

3exs. 28.VIII.1999.

" " " (道路) (52340755) 3exs.

28 VIII. 1999.

n n n (空抽) (52340756) 3exs

28 VIII 1999

伊川谷町有瀬(宅地) (52357091)

3exs. 5.IX.1999.
 神戸市西区伊川谷町伊吹(河川) (52350023) 1ex.
 5.IX.1999.
 " " 神出町東(畑地) (52341709) 1ex.
 30.IX.1999.
 " " " 古神(畑地) (52341719) 1ex.
 30.IX.1999.
 " 北区山田町銜原(空地) (52351018) 1ex.
 30.IX.1999.
 明石市鳥羽(道路) (52340707) 1ex. 5.IX.1999.
 " 大久保町大窪(道路) (51340726) 1ex.
 26.IX.1999.
 " 西新町(河川) (51347778) 1ex. 5.IX.1999.
 加古川市加古川左岸池尻橋下流(52341639)
 1ex. 24.X.1999.
 稲美町印南(道路) (52340796) 1ex. 12.IX.1999.
 三木市別所町花尻(道路) (52341745)
 1ex. 25.IX.1999.
 小野市浄谷町(道路) (52342726) 1ex. 12.IX.1999.
 " 船木町(河川) (52342759) 1ex. 12.IX.1999.
 社町社(道路) (52342796) 1ex. 25.IX.1999.
 滝野町上滝野(河川) (52343727) 1ex. 25.IX.1999.
 西脇市富田町(河川) (52344707) 1ex. 25.IX.1999.
 加美町寺内町(河川) (52344791)
 1ex. 25.IX.1999.

姫路市野里(河川) (52342507) 1ex. 11.X.1999.
 " 仁豊野(道路) (52342548) 1ex. 11.X.1999.
 市川町屋形(道路) (52344610) 2exs. 11.X.1999.
 龍野市揖保町今市(河川) (52341473)
 2exs. 18.IX.1999.
 新宮町新宮(河川) (52350023) 1ex. 29.IX.1999.
 山崎町千本屋(河川) (52343483) 1ex. 24.X.1999.
 " 岸田(河川) (52344445) 1ex. 24.X.1999.
 " 与位(空地) (52344475) 1ex. 24.X.1999.
 一宮町三軒屋(道路) (52345417) 1ex. 24.X.1999.
 赤穂市有年横尾(道路) (52341391) 2exs. 3.X.1999.
 上郡町山野里(道路) (52342236) 3exs. 3.X.1999.
 " 船坂(道路) (52342246) 1ex. 3.X.1999.
 " 高山(道路) (52342223) 1ex. 3.X.1999.
 " 行頭(道路) (52342232) 1ex. 3.X.1999.
 山東町金浦(河川・道路) (52347793) 1ex. 25.IX.1999.
 京都府夜久野町高内町(河川・道路) (52347795)
 1ex. 25.IX.1999.
 岡山県備前市板根(河川) (52340078)
 2exs. 23.X.1999.
 " 和気町藤野(河川) (52341164)
 5exs. 23.X.1999.
 " 吉永町早子(線路) (52341177)
 1ex. 23.X.1999.
 " 熊山町河田原(河川) (52341038) 2exs.
 23.X.1999.
 " 瀬戸町日市(河川) (52341017)
 1ex. 23.X.1999.
 " 長船町船山(河川) (52340068)
 2exs. 23.X.1999.

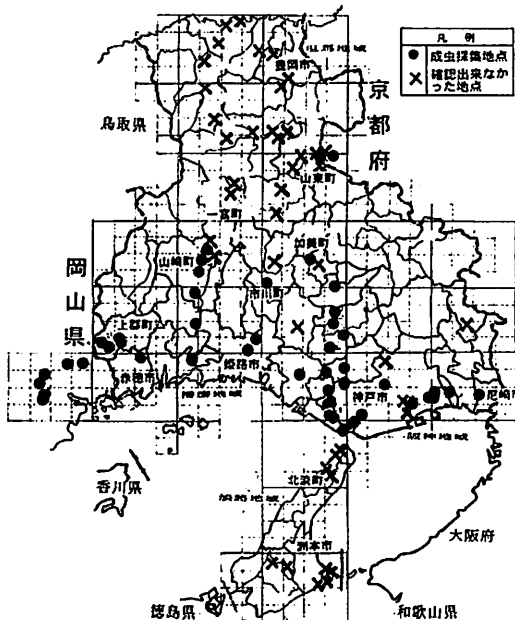


図1 ブタクサハムシの分布状況

5 食草調査したが見られなかった場所

食草の調査をしたけれどもブタクサハムシを確認出来なかった場所は次のとおりである。記載の方法は、調査場所、(メッシュ・コード番号)、調査した食草・オオオナモミ(X)、オオブタクサ(A)、調査月日の順に記載した。

ブタクサハムシは幼虫、成虫ともは葉に独特の食痕を残すので、探す目安となる。但馬ではカタツムリがよく似た食痕を残し、何度もだまされた。

またブタクサハムシとは直接関係ないが、オオオナモミには必ずといってよいほどオンブバッタが見られた。

猪名川町万善 (52352298) (X) 30.IX.1999.
 神戸市中央区再度谷 (52350134) (X) 30.IX.1999.
 " " 二本松林道 (52350144) (X)
 30.IX.1999.

" 北区淡河町北畑 (52351089) (X) 30.IX.1999.	
" " 一里山町七三峠 (52350153) (X)	
	30.IX.1999.
加西市中西町 (52342678) (X) 24.X.1999.	
中町多可高校前 (52344773) (X) 25.IX.1999.	
神崎町大山 (52345622) (A) 11.X.1999.	
大河内町上小田 (52345525) (A) 24.X.1999.	
	(食痕多数あり)
宍粟郡一宮町倉床 (52346582) (X) 25.IX.1999.	
" " 田尻 (52345447) (X) 25.IX.1999.	
" " 安黒 (52344487) (X) 24.X.1999.	
豊岡市江野 (53342681) (A) 11.X.1999.	
" 佐野 (53342615) (A) 11.X.1999.	
香住町小原 (53343419) (A) 11.X.1999.	
" 境 (53343571) (X) 11.X.1999.	
" 無南垣 (53343584) (X) 11.X.1999.	
竹野町森本 (53342599) (A) 11.X.1999.	
日高町西芝 (53341694) (A) 11.X.1999.	
村岡町福岡 (53340498) (A) 11.X.1999.	
" 入江 (53341485) (X) 11.X.1999.	
" 長瀬 (53342466) (A) 11.X.1999.	
生野町円山 (52346623) (A) 11.X.1999.	
朝来町立脇 (52346694) (X) (A) 11.X.1999.	
和田山町竹田 (52347657) (A) 11.X.1999.	
" 立ノ原 (52347698) (A) 11.X.1999.	
養父町ハザマジ峠 (53340634) (A) 11.X.1999.	
" 広谷 (53340652) (A) 11.X.1999.	
八鹿町八木 (53340557) (A) 11.X.1999.	
関宮町下吉井 (53340541) (X) 11.X.1999.	
養父町大屋市場 (53340655) (A) 25.IX.1999.	
大屋町明延 (52347502) (A) 25.IX.1999.	
山東町野間 (53340703) (A) 25.IX.1999.	
" 一品 (53347763) (A) 25.IX.1999.	
北淡町江崎 (51347718) (X) 18.X.1999.	

北淡町野島平林 (51347707) (X) 18.X.1999.	
" 小倉 (51346755) (X) 18.X.1999.	
" 舟木 (51346746) (X) 18.X.1999.	
洲本市由良天川 (51343755) (X) 19.IX.1999.	
" " 生石 (51343726) (X) 19.IX.1999.	
" " 成ヶ島 (51343746) (X) 19.IX.1999.	
" 上灘 (51343714) (X) 19.IX.1999.	
緑町中条中筋 (51343666) (X) 19.IX.1999.	
三原町山所 (51343682) (X) 19.IX.1999.	
京都府夜久野町上夜久野駅裏 (52340704)	
	(X) 25.IX.1999.

<参考文献>

滝沢春雄ほか(1999)月刊むし338:26-31

加藤敦史ほか(1999)月刊むし343:44

鈴木邦雄ほか(1999)月刊むし343:44-45

(KONDO SHINICHI

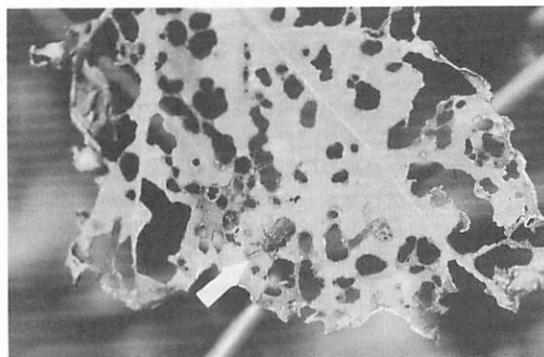
神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

県庁地下でウスイロコノマチョウを採集 森口 紀

1999年10月12日、神戸市中央区下山手通5丁目10-1にある兵庫県庁の地下1回廊下でウスイロコノマチョウ1♀を発見、採集したので報告する。おそらく寒さを避けて紛れ込んだものと思われるが、同地周辺は全くの市街地であり、どこからやってきたのか興味深い。

(MORIGUCHI TADASHI

神戸市西区伊川谷町有瀬77-1)



兵庫県で生息を確認したブタクサハムシ

蜂谷幸雄氏を偲んで

高橋 寿郎

1999年4月15日、本会会員蜂谷幸雄氏が亡くなられた(享年52歳)。私は兵庫昆虫同好会の会員としての氏とのお付き合い以外に、10年の間環境調査のお手伝いを、というより一緒に実施して色々とお世話になった関係から此処に私とお付き合いを通じての氏の思い出を偲んでおきたいと思う。

氏と初めて知り合ったのは氏が何処かで兵庫昆虫同好会の存在を知られたことから、1980年頃かと思うが突然電話を頂いて会への入会希望と虫のことを教えて貰いたいというものであった。住所をお聞きすると近い所なので、お教えするというようなことは出来ないが遊びに来ては、というようなことから何度か拙宅に来られた。大変温厚な方で、蝶、中でもナガサキアゲハの仲間を調べているというようなお話であったが、虫歴というか蝶の採集ならびに研究はどうも相当やっておられたような印象を受けた(研究論文の別刷も15編頂いている。業績目録参照)。

1984年、兵庫野鳥の会小林桂助会長、坂根 千副会長から東条町での環境調査をやることになっているが、昆虫部門を引き受けて貰えないかとの依頼を頂いた。その条件として単独は困る、複数人、少なくとも2人でやって貰いたい、その人選は任せるということであった。幸い、蜂谷氏が車を所有、運転も出来るということで、どうだろう手伝って貰えないだろうかとの話をしたところ、店(玩具商をやっておられた)の休みが毎週木曜日なので、その日でなければお手伝いしますといった気持ちよい返事を頂き、それでは足も出来たし私と同じように虫好きの人であるし、若いことだしこれは大いに助かるとお願いすることにした。

そして、1984年から1993年まで丁度10年間、兵庫県環境科学技術センター、現(財)ひょうご環境創造協会よりの委託の仕事として(当初は兵庫野鳥の会経由であったが5回目ぐらいから直接契約となる)、主として西摂、東播磨地域を中心に時には豊岡、城崎町奈佐路とか揖保郡新宮町福原、牧のようなそこそこ遠方の地での環境調査をやらせて貰った。

昆虫といっても種類が多いので、分担を決めて蜂谷氏は蝶・蛾即ち鱗翅目と蠅とか蜂が好きだったので膜翅目を重点に甲虫等も見つかったら何でもかまわないから採集してくれと頼み、私は甲虫目、半翅目を主体に調査しようと決めて取り組んだ。夜間採集にも行ったりホタルの調査に夜中に出かけたりもした。10年間で147回調査を実施した(全て朝早く出発、夕暮れに帰るといった方法で昼食は私がお茶と

サンドイッチその他パン類を持って行くという方法で実施した。)

2人だけの調査、採集であるから自由に来る、車で行って面白そうだったといった地点では止めて調べる、天候など大体天気予報で雨だというような日は避けるようにしたので、現地で雨に出会って困ったというようなことはほとんどなかった。

蜂谷氏は若いし元気である。樹などにも登ってくれるシトラップなども気持ちよく手伝ってくれて助かった。何といっても経験者であるから、採集なども上手だし眼が良いので小さいものでも採集をして貰った。

調査に行く時帰る時、自動車の中では色々とお話もあれば世間話もできたがあまり家庭のことなど詳しくお伺いしたことはない。

環境調査の報告書の方は蜂谷氏の担当の部分の報告を頂いて私が一緒にとりまとめて提出するようにした。

1995年1月17日の阪神・淡路大地震では家が倒壊し、建て直されるのに大変ご苦労なさったかと思う。拙宅は半壊で助かったがその年の6月、腹具合が悪くなり入院開腹手術を6月末には受けた。その時もいち早く病院に見舞いに来て下さった。退院後の自宅療養中でもかねてから拙宅の裏にある鳥原貯水池畔に国蝶オオムラサキが多くいるのを調べておられ、写真撮影などもしておられた。今日も見に行ってきました、こんなタマムシが採れましたよ、カミキリも何回か拙宅に採集姿で立ち寄って下さった。早く元気になってまた虫取りに行きましょと励まされており、大いに力づけられたものであったのに、あまりにも突然のこの度の不慮の死、若い方でこれからまだまだ虫とお付き合いをやって頂きたかった方なのに残念です。順序が逆です。言葉ありません。謹んでご冥福を心よりお祈り申し上げたいと思います。

<蜂谷幸雄氏業績目録>

1981

ミヤマカラスの性モザイク個体「表紙の蝶」
 ちょうちょう 4(9):表紙&2.
 "ナガサキアゲハ・阪神間に定着は可能"
 ちょうちょう 4(9):27-31.

1985

アナンバス諸島産ナガサキアゲハの一新亜種

月刊むし (176) : 2,25.

1986

パンカ島及びピリトン島のナガサキアゲハの分類上の位置と変異について

TSUIISO (497) : 309-317.

Great Nicobar のナガサキアゲハ

ちょうちょう 9(2) : 19-28.

グレート・ニコバル島産のナガサキアゲハの1新亜種について

ちょうちょう 9(6) : 23-26.

1987

タンベラン島産ナガサキアゲハ

月刊むし (198) : 2,6.

スマトラのナガサキアゲハの分類上の位置と変異について

TSUIISO (544) : 453-464.

カラオ島産ナガサキアゲハの1新亜種について

IWASE (4) : 1-4.

1988

カラスザンショウに吸蜜に訪れた蝶について

きべりはむし 16(2) : 50.

ムナ島産セレスアゲハの1新亜種

月刊むし (206) : 16-17.

1989

ボルネオのナガサキアゲハの分類上の位置と変異について

TSUIISO (592) : 141-150.

A New Subspecies of *Papilio memnon* L. from Bunguran Island (Natura Besar), Indonesia.

FUTAO (1) : 2-3,7.

A New Subspecies of *Papilio deiphobus* L. from Obi Island, Indonesia.

FUTAO (3) : 1-2,4-5,pl.1.

1991

Notes on *Papilio memnon* L. from Kangean Islands, Indonesia.

FUTAO (8) : 1-7,pl.1.

1993

A New Subspecies of *Papilio memnon* L. from Babi Island, Indonesia.

FUTAO (12) : 1-5,pl.1.

"追記"

"TSU-I-SO" 第961号(1999年7月22日号)のp.269-270に主筆者西山保典氏により蜂谷幸雄氏の追悼文"虫と散れるか"が掲載されておりました。大変考えさせられる追悼文として拝読いたしました。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県職員昆虫研究会のアサギマダラ マーキング放蝶記録 平尾 栄治

1999年10月10日、午前10時45分から12時30分頃にかけて、神戸市北区山田町坂本の帝釈山東尾根(標高490m)にて兵庫県職員昆虫研究会と兵庫県立人と自然の博物館の合同チーム5名により、アサギマダラの移動に関する調査を行うためマーキング放蝶を実施した。捕獲マーキング個体数は♂♀あわせて43個体である。

マーキングの方法は、翅裏面に油性マーカーペンで採集(放蝶)場所、放蝶月日、個体番号を記入した。マーキング内容は次のとおりである。

昆虫研究会; KOBÉ, 六甲山, 10/10, No.1-25

人と自然の博物館; KOBÉ, 人博, 中, 10/10, No.1-18

なお、マーキング記録と再捕獲内容については、「アサギマダラを調べる会」事務局または大阪市立自然史博物館昆虫研究室に報告する。もし、マーキング個体を採集された方があれば御一報いただければ幸いである。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)

上高地で放蝶された アサギマダラを帝釈山で捕獲 平尾 栄治

1999年10月10日に実施したアサギマダラマーキング調査の下見のため、前日の10月9日に帝釈山を訪れた際、同地でアサギマダラのマーキング個体を再捕獲した。翌日、再放蝶の予定で帝釈山に持参したが、同個体がかかなり弱っていたこともあり、写真を撮り標本として残すことにした。

マーキングの内容は「NAGANO, 上高地, No.26」であり、この個体は直線距離にして約600kmをはるばる移動してきたことになる。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)

県関係文献紹介

- 人と自然の博物館編(1998) 六甲山系
— その自然に関する研究ノート —
(人と自然の博物館刊) A4, 28p.

なかなか瀟洒な出来である。六甲山系の地形・地質についての解説、植物・昆虫に関する解説文も発表されている。全文カラーでの肩のこらない読物風にまとめられていて、楽しく読むことが出来る。

昆虫は沢田佳久博士の"オオタコゾウの定着"、同じく沢田博士等による"兵庫県におけるオオミノガの生息について"の二編が発表されている。(T).

- 沢田佳久・大谷 剛(1998) こんなみーつけた! 昆虫編
フィールドガイドブック①
三田市立野外活動センター刊。

文庫版、前編カラー図入りの一般向け、子供向けの虫の探し方と標本にして調べよう、どんなん見つけた等の項目で説明されていて、昆虫の採集の仕方、標本の作り方、昆虫の観察の仕方など、いわゆる昆虫研究に至る入門編として参考になる冊子である。(T).

- 内海功一ほか(1999) 千種川の生態
第26集 B5,26p.
(相生ライオンズクラブ環境保全委員会刊)

平成10年に実施された千種川水生生物調査の結果をまとめられたもの。息の長い調査で筆者の所に送られてきているだけでも1982年度分からであるから、17年以上継続されている。今回の報告にもあるが、採集できる虫の数がこのごろになって増えてきている傾向にあり、このことは計算上の判定で良い水質になっていることを示すとある。大変結構なことです。(T).

- 兵庫・水辺ネットワーク "ため池の自然"
A4,20p. (1999-3月)

"ため池王国"といわれている兵庫県、その数44,000といわれているとか。"兵庫・水辺のネットワーク"なる会は3年前に発足、ため池や河川、湿地の生物調査、地域住民や行政と一体になっての保全活動を続けてきた。この度成果の一部をパンフレットにしてまとめたものである。昆虫はトンボ、ゲンゴロウ、水棲カメムシ目などが取り上げられているが、ごく僅かで湿地の動植物、水生昆虫などは第二部としてまとめたいとのこと。いわゆる概説にとどまっているが、カラー写真約百枚を盛り込んで楽しく大変参考になるものとなっている。(T).

- 相坂耕作(1999) 新宮町の陸生昆虫
新宮町自然調査報告Ⅰ「新宮の自然」 A4,p.119-144.
- 市川憲平・相坂耕作(1999) ガロアムシの新産地と考察
新宮町自然調査報告Ⅰ「新宮の自然」 A4,p.145-147.

新宮町自然調査報告Ⅰに発表になった相坂耕作氏の報文と市川憲平・相坂耕作氏による報文のそれぞれ別冊をお送りいただいた。原本を見ていないのでどのような調査報告書かわからないが、相坂耕作氏の報文はこの新宮町を50回に及ぶ調査の結果をまとめられたもので、蝶とトンボでは絶滅危惧種相当、危急種相当、希少種相当、要注目種などが示されていて、この地の環境を裏付ける結果がまとめられている。チョウ目8科64種、トンボ目11科51種が示されている。甲虫類としては52科324種が記録されているが、甲虫類としては特に注目種のようなものは見当たらなかった。ただ、ルリボシカミキリの産は注目してもよいと思われる。

(ちょっと気がついたが、コクロムビハナケシキスイはコクロチビハナケシキスイ、トゲヒドトラカミキリはトゲヒゲトラカミキリ、カタビロトビハムシはカタビロトゲハムシ、キベリトビハムシはキベリトゲハムシのミスプリントである。)

カメムシ目でも特に注目種は見られなかったが、トホシカメムシ、ウシカメムシ、ヨコツナサシガメ(学名が無い)など面白い種であると思われる。

全般にいえることであるが、各種の詳しいデータがついていないのは残念である。それと学名の変更を要するものもある。美しい蝶とトンボのカラー図版がついている。昆虫全般を一人で調査されるというのは大変だと思われる。その労を多としたい。

貴重な別刷をお送り下さった相坂氏に感謝申し上げます。(T).

- 三木自然愛好研究会研究誌 おもだか (平成10年度)

三木自然愛好会が出来たのは確か平成9年であったと思われる。顧問に錚々たる方を加えられ(紹介者も主催者小倉 滋氏のたつての希望で不本意ながら顧問に名を連ねている)、地道な活動を続けておられたが、今回その研究誌"おもだか"が送られてきた。たぶん創刊号になるのであろうと思うが、"平成10年度おもだか"となっていてそのあたりはよくわからない(1998年度の連絡紙によると第2号となるようでもある)。A4版の45p.のものでその内容はいろいろとあり、わりと植物関係が多い。永幡嘉之氏が"三木市内トンボ雑記"を発表になっている(昆虫の記事はこの一編のみである)。なかなか実践的な報文が多い。楽しく拝見した。今後どのような形で続けられるのかよくわからないが、できれば定期的刊行ができれば幸いである。(T).

県関係学会誌・同好会誌・連絡誌

(III・1999～IX・1999)

姫昆サロンニュース(姫路昆虫同好会) No.132(III・1999), No.133(VI・1999)

エコひょうご(ひょうご環境創造協会) No.11(春号)(IV・1999), No.12(夏号)(VI・1999)

宝塚の自然(宝塚自然に親しむ会会報) 第13号(1999・IV)

自然とともに(県生活文化環境局環境政策課自然環境情報誌)(ひょうご環境創造協会刊)
第44号(IV・1999), 第45号(VI・1999), 第46号(IX・1999)

兵庫生物(兵庫県生物学会) Vol.11, No.5(IV・1999)

兵庫生物ニュース(兵庫県生物学会) No.38(VI・1999), No.39(IX・1999)

IRATSUME(但馬むしの会) No.23(VI・1999)

混虫ずかん(但馬むしの会連絡誌) No.66(VI・1999), No.67(IX・1999)

ハーモニー(兵庫県立人と自然の博物館ニュース) No.26(VIII・1999)

のせ(大阪昆虫同好会連絡誌) Vol.30, No.5, 6(VIII・1999), No.4, 7, 8(IX・1999)

鳥と自然(兵庫野鳥の会機関誌) No.94(VIII・1999)

兵庫陸水生物(兵庫陸水生物研究会々誌) No.50(VIII・1999)

PARNASSIUS(淡路昆虫研究会々誌) No.48(IX・1999)

交 換 誌

すずむし(倉敷昆虫同好会々誌) No.134(V・1999)

KURAKON(倉敷昆虫同好会連絡誌) No.45(V・1999), No.46(VI・1999)

FUTAO(FUTAO-KAI) No.31(1999)

IRATSUME(但馬むしの会) No.23(1999)

混虫ずかん(但馬むしの会連絡誌) No.66(1999)

会費納入についてのお願い

2000年度会費 3,000円

出費多端の折り, 恐縮に存じますが, 会費納入を年内に同封振替用紙御利用の上, お願い申し上げます。

編 集 後 記

いよいよ1900年代も残りあとわずかとなりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。きべりはむし第27巻第2号ができましたのでお届けします。今回は80ページを越す大冊となりました。紙面を刷新した第23巻から年間のページ数を追ってみますと、72(34+38)、108(52+56)、118(52+66)、130(52+78)、150(66+84)(特別号を除く)と年々増加しています。内容もそれに伴ってたいへん充実したものになってきました。当初、年間100ページを目標にしていたことは第25巻第1号の編集後記でも触れましたが、少なくとも原稿不足で定期的に発行できないといった事態とは無縁で、編集担当者としてはこれほどありがたいことはありません。これも皆様の暖かい御理解と御協力の賜と感謝しております。

さて、今回は昆虫相のまとめが中心となりました。いずれも兵庫県の昆虫相を知る上で貴重な資料となるものばかりです。一応原稿締め切り日を設けておりますが、パソコンによる編集の利点として印刷発注直前まで版組変更が可能ですので、随時投稿していただいても結構です。

短報も大歓迎です。今回は平尾栄治氏から多くの短報をお寄せいただきありがとうございます。

本会会員の蜂谷幸雄氏が若くして亡くなられました。編集子は面識がありませんが、高橋寿郎氏が故蜂谷氏の業績を記事の中で紹介されておられるのを見ると、昆虫に対する情熱の深さが感じられ、本会にとっても惜しい方を亡くしたものだと思ひ残念でなりません。心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

今回の「きべりはむし」の発行は来年5月です。原稿締切は2000年3月末日とします。今年の成果の発表機会として御活用下さい。

(編集担当 近藤伸一・高島 昭)

きべりはむし 第27巻 第2号

1999年11月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652-0054 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方
振替 01170-3-26646

編集：近藤伸一・高島昭

原稿送付先 〒671-2201 姫路市書写2542-2 高島昭宛

印刷：岩峰社・東京

目 次

兵庫県産蝶類分布資料(16) ーギフチョウ・ウスバシロチョウほか 県下のアゲハチョウ科6種ー広畑政巳・近藤伸一	1
兵庫県のテントウムシ(1) 兵庫県甲虫相資料・359	高橋寿郎 24
私の昆虫採集記(2) 兵庫県甲虫相資料・360	高橋寿郎 32
ヒメアカタテハガゼニバアオイで越冬	近藤伸一 36
諏訪山公園の蛾	山口福男 37
池田市北部のシャチホコガ科	木下修一 42
丹生・帝釈山系のイシガケチョウ(続報)	平尾栄治 46
丹生・帝釈山系でクロコノマチョウを採集	平尾栄治 46
播州雪彦山のムカシトンボ	平尾栄治 46
兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(3)	高橋寿郎 47
カナブンの色彩変化その後 並びに兵庫県におけるカナブン3種の分布 兵庫県甲虫相資料・362	高橋寿郎 54
兵庫県のカギバガ科・オオカギバガ科・トガリバガ科 兵庫県産蛾類分布資料・14	高島 昭 61
ブタクサハムシの兵庫県における広がり状況	近藤伸一 76
県庁地下でウスイロコノマチョウを採集	森口 紀 78
蜂谷幸雄氏を偲んで	高橋寿郎 79
兵庫県職員昆虫研究会の アサギマダラマーキング放蝶記録	平尾栄治 80
上高地で放蝶されたアサギマダラを 帝釈山で捕獲	平尾栄治 80
県関係文献紹介.....	81
県関係学会誌・同好会誌・連絡誌(Ⅲ・1999～Ⅴ・1999).....	83
交 換 誌	83
会員異動	84